

# 教育年報 2008

岡山県立大学

## はじめに

公立大学法人岡山県立大学  
評価委員会  
委員長（学長）三宮信夫

本学は、開学後 14 年を経た平成 19 年 4 月 1 日に公立大学法人岡山県立大学として新しく生まれ変わり、その後 2 年が経過しました。現在大学を取り巻く環境は、少子化とグローバル化の大きな流れの中に大学間競争と淘汰という巨大な渦が存在するような場であるといえましょう。その渦に吸い込まれないように、法人制度の導入効果を十分に活かして自主的、自律的な運営のもとで、発展を続けなければなりません。

本学の中期目標には、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことが基本理念として謳われており、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて、新しい時代を切り拓く実践力のある人材の養成を目指しています。このような目標を実現するために、全学的には教育研究活動委員会および教務専門委員会において、学生の立場に立ってカリキュラムやそれに基づく各授業科目の教育内容や方法の検討が持続的に行われ、評価委員会においてその結果を議論し、評価してきました。一方、学部、学科レベルでは教授会、学科会議、各学部の評価分科会、教務委員会などがその役割を担っています。

これまでの本学の教育活動は、平成 16 年度から毎年刊行している「教育年報」にまとめられています。その中の成果の一つとして、平成 16 年度から毎年実施してきた学生による授業評価アンケートの結果を統計的に分析して、本学独自の「授業評価測定尺度」を作成したことです。この尺度を用いてアンケート結果を集約し、それにより各教員は各自の授業改善を行っています。また、教員の個人評価において、教育活動に対する評価項目の一つにもなっています。

本学は、平成 21 年度に大学評価・学位授与機構の認証評価を受けますが、本年報はそのための基礎資料となるように企画しました。すなわち、本年報は 3 章で構成されており、第 1 章では平成 20 年度に実施した教育上の主な改革について述べ、第 2 章では平成 20 年度に取り組んだ FD 活動の内容を説明しています。また、第 3 章では、学部ごとに実施した教育活動に対する外部評価の結果を報告しています。本年報をもとに今後も教育改善を重ね、社会に出て活躍できる能力を身につけた学生を育成するように努めたいと考えております。

今後とも皆様のご支援・ご協力をお願いする次第です。

# 目次

---

|     |                                |    |
|-----|--------------------------------|----|
| 第1章 | 2008年度の主な改革                    | 1  |
| 1.  | 概要                             | 1  |
| 2.  | 健康・スポーツ推進センターの発足               | 1  |
| 3.  | 全学教育改革に関する議論のまとめ               | 2  |
| 4.  | 現代GPの新たな取組み                    | 5  |
| 5.  | 職員表彰                           | 12 |
| 6.  | 学生支援                           | 13 |
| 6.1 | 平成20年度学生生活アンケート結果              | 13 |
| 6.2 | キャンパスマネージャーの活動                 | 20 |
| 第2章 | FD活動                           | 22 |
| 1.  | 概要                             | 22 |
| 2.  | 授業参観                           | 22 |
| 3.  | 授業評価アンケート                      | 36 |
| 4.  | FD講演会                          | 40 |
| 5.  | 卒業時アンケート                       | 51 |
| 第3章 | 外部評価                           | 53 |
| 1.  | 保健福祉学部                         | 53 |
| 1.1 | 看護学科                           | 53 |
| 1.2 | 栄養学科                           | 56 |
| 1.3 | 保健福祉学科                         | 59 |
| 2.  | 情報工学部                          | 63 |
| 3.  | デザイン学部                         | 72 |
| 付録  |                                | 77 |
| A.  | 入試統計（学部・大学院）                   | 77 |
| B.  | 卒業時アンケートの詳細                    | 79 |
| C.  | 全学的就職支援の実施状況                   | 84 |
| D.  | 国際交流                           | 85 |
| E.  | 学友会会則の一部改正                     | 88 |
| F.  | 高大連携協定に基づく高等学校への講師派遣（生徒の受入を含む） | 89 |

|                    |    |
|--------------------|----|
| G. 高等学校からの訪問.....  | 90 |
| H. 学生・クラブの表彰 ..... | 91 |
| I. 委員会等協議事項.....   | 92 |

## 第 1 章 2008 年度の主な改革

---

### 1. 概要

平成 20 年度の主な改革は、まず教育研究に係る全学的な体制として岡山県立大学健康・スポーツ推進センターが全学教育研究機構の下部組織として設置された。その目的は本学におけるスポーツ教育に関すること、学生及び教職員の健康の維持・増進のための施設利用に関することなどの業務を行なうことであり、平成 20 年度からその活動を開始した。次に今後の全学教育（従来の教養教育）のあり方、具体的には「現行の全学教育科目が各学部の学部教育の中でどの様に位置づけられているか」について、教育研究活動委員会や全学教育研究機構教授会、また、全学教育担当教員において議論されたのでそれらをまとめた。

現代 GP は本事業の最終年度に入り、保健福祉学部 4 年次生を対象とした「実践的チームガバナビリティー演劇演習」の開講を外部講師による新たな教育プログラムとして開始した。一方、本学の中期計画のなかで平成 19 年度において「法人独自の職員表彰制度を創設し、特に優秀な成果を上げた教職員に対して表彰を行ない、大学ホームページ等により内外に公表する」との計画を実行するため、平成 20 年度は岡山県立大学職員表彰規程によりデザイン学部の 3 名の教員が推薦され理事長より表彰を受けた。

学生支援に関しては、隔年度ごとに実施される学生生活アンケートが全学部生を対象に行なわれた。その結果の一部を報告する。また、広く学生達の自主的・建設的な意見を大学運営に反映させるため、学生の中からキャンパスマネージャーを選任し、学生部長を中心として彼らと定期的な話し合いの場を持っている。そこでの学生達の意見・その対応状況についても報告する。

### 2. 健康・スポーツ推進センターの発足

スポーツを通じて学生・教職員の親睦と健康維持ならびに大学スポーツ施設の有効利用をめざし、2008 年 4 月に「岡山県立大学健康・スポーツ推進センター」が全学教育研究機構内に設置され、活動を開始した。

#### (1) 平成 20 年度の大会・行事など

##### 1) 教職員親睦球技大会の実施（センター幹事・職員担当）

平成 20 年 8 月 6 日(水) 17:40～19:20 75 名の参加者で、ソフトボール大会を実施し（野球場にて）教職員の健康増進と親睦を図った。

## 2) 地域貢献スポーツ大会の実施

岡山県グランドゴルフ大会：平成20年4月19日（土）開催

グラウンド・サッカー場・野球場にて，1575名参加

第7回鬼ノ城グランドゴルフ交換大会：9月16日（火）開催

グラウンド・サッカー場にて，340名参加

第6回備中ブロックグランドゴルフ交換大会：10月4日（土）開催

野球場にて，276名参加

第15回岡山県立大学学長杯グランドゴルフ大会：11月1日（土）開催

グラウンドにて，186名参加

## 3) 学生スポーツ大会（学生主催）

第1回球技大会（バレーボール）5月25日（日） 136名参加

第2回球技大会（ドッジボール）7月31日（水） 120名参加

第1回学長杯争奪「秋の大運動会」11月24日（祝） 135名参加

その他，管理体制の実質化に向け大学規程への細則の追加を検討し，安全管理上の施設の点検と設備の新設や，既存設備の改修を実施し，更なる設備・施設の充実を図った。

## 3. 全学教育改革に関する議論のまとめ

### (1) 教育研究活動委員会での取り組み

平成20年4月10日に開催された教育研究活動委員会（以下「委員会」という）において，今年度の「学部教育のカリキュラム等に関する検討について」が提案され，全学教育については「現行の全学教育科目が各学部における学部教育の中でどのように位置づけられているかを明確にすること」が，今年度の検討項目として承認された。

平成20年6月12日に開催された委員会において，今後の全学教育の改革（教育カリキュラムの見直しなど）を進めるには，学部教育（専門教育）との関連性も含め，委員会委員の教育観についての意見を集約し，それに基づく協議が必要であることが確認され実施されることになった。

平成20年7月10日開催の委員会において各委員の「教育観」が提出され，意見交換が

なされた。委員長より、これを一度全学教育科目担当教員に披露して感想や意見を伺うことが提案された。7月15日委員長名で資料が全学教育担当教員に送付され、8月5日までに意見を提出していただくことをお願いした。

平成20年9月11日開催の委員会において、全学教育担当教員12名から寄せられた意見が配布され、合わせて委員長の要約が示され、意見交換がなされた。

#### 平成20年9月 教育研究活動委員会委員長まとめ

##### —全学教育に関する全学教育担当教員の意見の要約—

- ・多様な価値観、及び価値観の確立
- ・モチベーションを与える。成功体験、role modelを教示する。
- ・社会に出てから必要とする判断的、思考力、創造力、想像力を培う。
- ・卒業後すぐに役立つ実利でなく、人生、社会、自然のあり方を根本的に問い直す。
- ・すぐれた文学や芸術を通して、苦難を乗り越える創造力を与える。
- ・論理的思考力、批判的思考力及び相手を説得する力を養う。
- ・直観力と抽象力を養って問題の本質を理解する考える力を身につけさせる。
- ・他者を思いやる心を持ってチャレンジ精神を育成する。
- ・生きるための術としての「智慧」を獲得するために何が必要かを学生自身に考えさせる。
- ・「隠喩」を学生個人に醸成させる手助けをすることにより問題把握能力を高めさせる。
- ・高度情報化社会において情報の伝達に専念するのではなく、自分で問題解決する能力を育成する。
- ・本学の教育の特色を表わす1～2科目を出来るだけ全員に受講させる。
- ・学部教育の準備科目は専門科目に移行する。
- ・語学やスポーツ科目を除いてリベラルアーツは学生自らの（積極的な意味での）自由選択に任せる。
- ・学生との対談及び学生交互の意見交換を心がけることにより、学生にある意味での成功体験と相互の知的刺激を与え合う機会を作る。
- ・専門教育につながる好奇心や学ぶことの面白さを教える。学部を問わず本学の特色を出す講義を提供する。
- ・全学講義の開講を学科で決めない。

意見は多様で、共通部分も多いが、どうしても一般論になりがちであることもあり、今後、さらに、議論を深めるため全学教育研究機構長が上記意見を考慮しながら「全学教育のめざすもの」と題するたたき台を提出することとなった。

さらに、全学教育科目について各学科の要望を調査用紙に記載する方法で調査することが了承され、10月3日（金）までに提出することとされた。

提出された調査票は全学的な観点で整理され（平成 20 年 11 月 27 日）、今後の全学教育の検討資料として、各学科や教育研究活動委員会、さらには全学教育研究機構教授会などに配布された。

平成 21 年 2 月 5 日開催の委員会において全学教育研究機構長より「全学教育のめざすもの」が提出され、平成 21 年度は全学教育の意義の共有化を計りつつ、カテゴリー「学部教育への準備」のカリキュラムの見直しを中心に改革を進めることが了承された。なお今後の議論をスムーズに行うため、各カテゴリーの幹事を選出しておくことも決定し、人選は全学教育研究機構教授会で諮ることとされた。

## (2) 全学教育研究機構教授会での取り組み

### 第 1 回教授会（平成 20 年 5 月 29 日 16:30～）

4 月 10 日開催の教育研究活動委員会の決定事項（上記：学部教育のカリキュラム等に関する検討について）が報告された。

### 第 2 回教授会（平成 20 年 7 月 31 日 16:00～）

平成 21 年度開設全学教育科目（案）について検討した。

7 月 15 日付けの学長提案の教育研究活動委員会委員提出の「教育観」に対する全学教育担当教員あての依頼文章を配布し該当教員への周知を図った。

### 第 3 回教授会（平成 20 年 9 月 25 日 10:30～）

平成 20 年 9 月 11 日に教育研究活動委員会委員長(学長)により要約された「全学教育に関する全学教育担当教員の意見の要約」が配布され、若干の意見交換後、今後継続して協議することが確認された。

### 第 4 回教授会（平成 20 年 12 月 18 日 10:30～）

平成 20 年 11 月 27 日にまとめられた「全学教育に関する調査結果（学科別）」が配布され、協議がなされたが結論に至らず継続して検討することとされた。

### 第 5 回教授会（平成 21 年 2 月 27 日 16:30～）

「全学教育のめざすもの」が配布され、協議の後、新年度から「学部教育への準備」カテゴリーのカリキュラム内容の検討を開始することが了承された。なお全学教育の意義についての共通認識をさらに広めることも、合わせて了承した。



#### 4. 現代 GP の新たな取組み

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（以下現代 GP と略す）の新たな取組みとして、チームガバナビリティー演劇演習を平成 20 年 4 月より開講した。この演習では、演劇技術を学ぶことで身体表現力やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、各領域の専門的知識を持ち寄りチームでひとつの劇や舞台を作り上げるというプロセスを通じて、チーム統合能力とパートナーシップの育成をめざすことを到達目標とした。さらに、本演習で得られた成果は、市民を対象とした 2 回の演劇公演で発表され大きな反響を得た。演劇の指導には、劇団衛星代表で脚本・演出家である蓮行氏（本学非常勤講師）、同劇団員で俳優の紙本明子氏、F ジャパン氏があたり、本学 GP 担当教員がサポートした。

対象は保健福祉学部 4 年次生で、3 年次に実践的チームガバナビリティー演習を履修した 9 名（保健福祉学科 2 名、看護学科 3 名、栄養学科 4 名）である。4 月のオリエンテーションから始まり、11 月の演劇公演まで合計 10 回の演習（1 回 3 時間）と 2 回の公演（勝央町、総社市）が行われ、公演前には学生自身による多くの自主練習も行われた。また、本演習は NHK 高校講座「家庭科総合」の取材を受け、演習や公演の様子の一部が NHK の番組やホームページで放映された。1 年間の取り組みの概要は以下のとおりである。

##### 第 1 回演習 オリエンテーションと演劇導入

平成 20 年 4 月 12 日（土）

オリエンテーションの後、「演劇のための基礎練習」として、体の力を取る方法や腹式呼吸などを練習した。次に、劇団の女性 2 人組「ユニット美人」が披露したパフォーマンスを見学し、続いて、チームパフォーマンスを高めるトレーニングとして、円になり相手の愛称を呼びながら“輪っか”を投げ合うゲームを行った。相手の反応を見て素早く確実に投げられるまで何度も練習した。その後、3 グループに分かれ、劇団員が 1 人ずつ入って指導を受けながら既成の台本「バンドやりたいぜ」の読み合わせをし、グループごとに実際に演じた。学生は台本中の人物の性別を知らされておらず、セリフや役割から性別を自分たちで解釈して演じていた。最後に行われた劇団員の模範演技で登場人物の性別が判明すると、「リーダーシップがあるから男性」「おとなしいから女性」など、学生は自分たちの性的役割に対する先入観によって無意識に登場人物の性別を判断していたことに気づいた。また、演劇の楽しさや気持ちの通じ合う喜びなどを感じ、初回の目的を達成することもできた。本演習は、NHK 教育テレビ（高校講座：家庭科総合）の取材を受け、その内容は平成 20 年 5 月 15 日（木）15:00-15:30 に放送された。



## 第2回演習 基礎練習, 演劇導入, 既存の台本を元に練習 平成20年4月26日(土)

最初の基礎練習では前回のメニューに加えて、良い姿勢の作り方と低音の声の出し方、複数のミッションを同時に行うことの困難さを体験した。コミュニケーションの基本は「呼ぶ」「確認する」「アクションをおこす」であり、前回と同じ“輪っか”を投げ合うゲームでその大切さを実感した。演習の後半では、台本「バンドやりたいぜ!第3楽章」の練習を2グループに分かれて行った。グループによって劇団員の指導方針が異なり、片方は空間配置を重視して声や動きを大きくしており、もう片方は言語のやり取りとリズム、積み上げを重視していた。最後に蓮行氏から「仮説」を立てることの大切さ、2つのグループの指導の違いについて解説があった。学生は、前回よりもリラックスした雰囲気、声も大きく表情も豊かになり、演劇の楽しさを体験している様子であった。

## 第3回演習 既存の台本での練習, ミニ発表会と講評 平成20年5月10日(土)

最初に行った基礎練習では、学生の様子から力がうまく抜けて周囲に気を配る余裕が感じられた。次に、既成の台本「バンドやりたいぜ!第3楽章」を2グループに分かれて練習した。片方のグループの指導者は一つひとつの行為の意味について学生に確認させており、もう片方では指導者が明確な指示を出し前に入る大きな動きを特徴とした練習を行っていた。練習後に「ミニ発表会」を行い、学生の2つのグループと急きょ劇団もグループを結成して3グループの発表となった。学生グループはどちらも台詞をしっかりと覚えて会話もかみ合っていた。動きには広がりが見られ演技を前面に出して積極的にアピールしていた。最後の劇団グループの発表では、プロのさすがの演技と熱演に会場から拍手喝采が起きた。最後に参加者全員による「講評会」があり、学生からは、台詞ひとつをとってみても自分の理解が他者の理解と大幅に異なることへの発見や、個性は他者とのやり取りの中でこそ発揮されることなどへの気づきが語られた。



## 第4回演習 基礎練習, オリジナル台本づくり, まとめ 平成20年5月31日(土)

基礎練習では、新たに「架空の卵」を使いのを広く開ける発声トレーニングが始まった。その後、2つのチーム「うくぶかちゃん」「ケラエイトフォー」に分かれ、食育劇の台本作りがスタートした。まず、車座に座り蓮行氏の進行でブレインストーミング形式でアイデアを出し合った。出てきた意見は、家族を舞台に日常生活を再現しようとするリアル系と、食物が体

内に入っていく様子を擬人的に再現し食物と栄養の関係を明らかにしようとするファンタジー系に分かれた。次に立ち上がり、リアル系（4人）とファンタジー系に分かれた。次に立ち上がり、リアル系（4人）とファンタジー系（5人）が対面してアイデアを出し合い、その結果、食物が胃に入ってきて体内の臓器と会話する案が採用された。台本作りの初日で、学生に戸惑いが見られたが「私がシナリオライターなら」という視点で多くの提案がなされていた。

#### 第5回演習 オリジナルの台本づくりと練習

平成20年6月14日（土）

基礎練習メニューのあと、前回に続き食育劇の台本作りを行った。実際に「家族（リアル）チーム」と「臓器（ファンタジー）チーム」に分かれ、実際に動きをつけ、蓮行氏が学生の意見を積極的に取り入れながら台本を口頭で練り、それを教員がワープロで記録する方法を進めた。台本作りと並行して演技指導も行われ、蓮行氏が体をくねらせリズムカルに胃の動きを実演したり、「骨・骨・ロック♪骨・ロック♪」などセリフに節をつけた



りと、学生のアイデアをもとに子どもが喜びそうな演出が加えられていった。演習後半は、もうひとつの公演演目であるメタボ劇の台本作りにとりかかったが、食育劇よりメタボ劇のほうが取り扱う要素(情報量)が多く、事前の準備無しには難しいようだった。本演習では山陽新聞社からの取材が入り、インタビューされた学生は演習に参加したきっかけや心境の変化などを語っていた。

#### 第6回 基礎練習、食育劇の練習、メタボ劇の台本づくり

平成20年6月28日（土）

基礎練習のあと食育劇の練習を行った。完成台本が配布され、台本の読み合わせをしてから仮の舞台で台本を見ずに練習した。ここでは指導者が読み上げる台詞を頭で理解してそれを学生が復唱する方法がとられたが難なくクリアできていた。指導者が舞台正面に立って、「最初に多くの情報を伝える」「最初に登場人物のキャラクターを客につかんでもらう」など、力が入った指導が行われた。演出ではビジュアル面での工夫、舞台の立ち位置、「集と散」の活用など実演を伴う指導が行われた。学生からもアイデアが次々と出され活気に満ちた稽古となった。各場面での稽古が続ぎ、全員揃っての楽しい夕食でフィナーレとなった。残された短い時間でメタボ劇の台本作りを行った。この劇の観客は比較的高齢であるため水戸黄門を主人公にした。舞台も総社市市民会館大ホールなので広く、動きも声量も必要である。この高いハードルを越えるために全員のチームパートナーシップが問われることとなる。

## 第7回 基礎練習、メタボ劇の練習、食育劇の練習

平成20年7月12日（土）

基礎練習の後、蓮行氏からメタボ劇「メタボ退治じゃ！ミート黄門」の配役が発表され、台本の配布と読み合わせが行われた。稽古では舞台の広さを確認するために、ホワイトボードを舞台の袖に見立てて仮の舞台とした。学生たちは配役の特徴を理解し生き生きとした表現で読み合わせを進めていた。次に台本なしの稽古では、大きな舞台では「これからしゃべるぞ」と客にサインを出すこと、ゆっくりしゃべること、などの注意が蓮行氏から飛んだ。稽古中にも台本はどんどん変化し、蓮行氏による実演指導が繰り返し行われた。

次に食育劇「対決！運動会！ちゃんと食べる子 食べない子」の稽古では、「家族チーム」と「内臓チーム」の2手に別れて劇団員の指導のもとに練習が行われた。時間まで練習を繰り返し、その後車座で反省会を行った。蓮行氏から、「台詞の記憶は当たり前」「台詞は繰り返しで覚える」「キャリアは関係ない」と厳しい指導が入り、次回は台本を持たないで稽古をすることが伝えられた。



## 第8回 食育劇の練習と発表

平成20年7月26日（土）

基礎練習を約10分で切り上げ、早速食育劇の稽古に入った。蓮行氏は、学生に各自が「リーダーシップ力」を持ちチームメイトを統率する意識を持つよう強調した。食育劇「対決！運動会！ちゃんと食べる子 食べない子」の稽古が始まると、演じる学生は真剣そのもので緊張感が舞台に漂い、自主練習の成果かセリフも良く入っていた。しかし蓮行氏の評価は40点。残り60点を積み上げるには、おもしろいだけではだめで、雰囲気だけでもだめ。「よく噛んで」「栄養バランスの取れた食事を」というメッセージを、演劇を通して観客（子どもたち）に伝えなくてはならないのだと説明された。稽古は続き、休憩時間も惜しむようにチームに分かれての猛練習が行われ、演習の最後に行った発表ではこれまでとは格段に良い出来栄であった。学生の多くは、今日の演習で自分が大きく成長できたと感じており、「自分の声の大きさが全然違う」「人のを見ていても楽しい」「やっつけて楽しい」「発音などは、将来の仕事にも生かせることができそうだ」「今日は体力をつかった」「完全燃焼手前」「本番では完全燃焼を」といった感想が聞かれた。

## 第9回 食育劇直前練習

平成20年8月18日（月）

衣装合わせから始まり、大きさに合わせて頭のかぶり物を調整したり、内臓などの絵入りのTシャツを試着したりした。最初に蓮行氏が学生に今日までの達成（練習）度を自己申告するようと言うと、学生からは85点から100点までの点数で回答があった。蓮行氏

は厳しく「全員が100点に仕上げてこないといけない」と指摘。「仕込み」は常に100%必要であり、未知のことは常に生じる可能性がある。だからできる限りの所まで仕上げておかないと新しいことに対応できないのだと叱咤された。

通し稽古の1回目、衣装をつけ、音響も入り「対決！運動会！ちゃんと食べる子 食べない子」がスタートした。学生は真剣そのものであったが蓮行氏の評価は「80%」の出来。「チームガバナビリティー的に言うと、全員が100%でなきゃだめ」と言われ練習を再開した。

通し稽古の2回目では、最後まで一気に蓮行氏が何も指摘することなく28分間の演技が終わった。これまでで最高の出来であった。終了後の反省会では、蓮行氏から「見違えるように上手になった」と褒められ明日の本番に臨むことになった。

### 第1回 演劇公演

平成20年8月19日（火）午前10:15～10:45

朝6:45に大学に集合し、マイクロバスに乗り勝央町総合福祉会館へと到着した。勝央町で毎年開催されている「夏休み子ども料理教室」の参加児童を対象として、食育をテーマとした公演を行った。

|                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>食育劇 「対決！運動会！ちゃんと食べる子 食べない子」</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 参加者                                | 児童：勝央町内の小学3～6年生の料理教室参加児童 47名<br>スタッフ：勝央町栄養委員 9名，町スタッフ 6名，管理栄養士実習生 3名，<br>来賓 1名，取材等（NHK1名，新聞社2名），劇団スタッフ 2名<br>大学スタッフ（教員・職員 11名），合計 82名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 出演者                                | 県立大学4年次生 9名，劇団衛星 2名 合計 11名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 内容と成果                              | 「勝央町夏休み子ども料理教室」の中の行事のひとつとして、勝央町と大学の共同開催で30分間食育劇を上演した。町関係者・来賓挨拶のあと、本学高井研一教授（GP代表）から趣旨の説明があり、蓮行氏による始まりの言葉に続いて劇が始まった。冒頭の家族のシーンから子どもたちは、食い入るように舞台を見つめていた。家庭一体の中—家庭—学校一体の中—家庭，と次々展開するシーンに引き寄せられ、児童は飽きずに最後まで真剣に見ていた。実施後の児童アンケートには、47人中46人が「おもしろかった」「朝ごはんを食べることの大切さがわかった」と答えており、「2学期の運動会で頑張れるようにちゃんと食事をしよう」というメッセージが伝わったと考えられる。自由記述でも「劇がおもしろかった（14人）」「とても楽しかった（10人）」のほかにも、「朝ごはんをバランス良く食べないといけないことがわかった（4人）」との感想が見られた。学生との反省会では、短い練習期間で台本を作り、台詞を覚え、子どもたちの前で無事上演できたことを喜び、驚き、そして力を出し切ったことで自分の成長を実感したとの感想が聞かれた。 |

| 食育劇登場人物と児童とが触れ合う バランスメニュー食事会      |                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月19日 11時30分～12時30分 場所：同館1階食堂スペース |                                                                                                                                                                        |
| テーマ                               | 「バランストレイを使った朝食バイキング」                                                                                                                                                   |
| 内容                                | 演劇のあと、簡単な調理実習が行われ、出来上がった料理を、各児童に配られたトレイを使って、トレイに貼ったシールのおおりに、できた料理を置いていくと栄養バランス良く料理を食べられるしくみになっていた。劇に出ていた各登場人物が、その服装のままで児童と一緒にテーブルで食事をし、「残さず食べようね」などと声かけしながら児童との親交を深めた。 |



#### 第10回演習 大学講堂におけるメタボ劇自主練習, 通し稽古 平成20年10月06日(土)

11月8日の総社市民会館大ホールの舞台の大きさに慣れるため大学の講堂を借りて稽古を行った。脚本は「メタボ退治じゃ！ミート黄門」で、上演時間は約15分である。演習開始までは学生が自主練習を行い、続いて蓮行氏指導による全体練習が行われた。蓮行氏は舞台中央最前列から、大会場に合った動きを学生につけていった。具体的には、顔を見せながら倒れる、客席に向かってしゃべる、情報はひとつひとつ伝える、収まってから次の台詞をしゃべる、受け手の感覚を大切にする、順序を守る、常に客席を意識する、といった助言であった。しかし、これらは将来専門職となった時に、クライアントに対する姿勢と軌を同じくするものであり、演劇演習が生きた専門職教育になっていることが伺えた。最後に通し稽古を行い、蓮行氏から「演劇で大切なのはアクションよりもリアクション」「アクションではメリハリが大切」などの指導が入った。2回通した後、反省会と、公演に向けた最終確認を行った。

第2回 演劇公演 前日リハーサル

平成20年11月7日(金)11:00~15:00

本番に向けて、総社市民会館大ホールで音響、照明をつけてリハーサルを行った。11月5日(水)に学生による自主練習が大学講堂で行われていたため、台詞は完璧に入っていたが、広い大ホールでの立ち位置、客席から登場する配役の位置などの蓮行氏から細かく演出の指示が出て、最終確認が行われた。控室に戻り、松竹から借りた時代劇の衣装の確認と当日朝の着付けの手順の検討をした。午後は大学に戻り、15時まで大学講堂で何度も稽古を繰り返した。



本番2時間前に総社市民会館に集合し、控室で学生9名と劇団2名に時代劇の衣装の着付けをした。また、会場の照明と音響、聴覚障害者のために舞台横のスクリーンに映される字幕の内容確認などを行った。劇団が依頼したプロの着付け係と、着物の着付けができる女性教職員数名が、次々と学生に配役(忍者、侍、村娘、女忍者、代官など)に合わせた衣装を着せていった。9時に受付が始まり会館前のバザーに人が集まり始め、三宮学長も様子を見に来てくださった。9:30に保健福祉大会が開始、表彰の様子や市長挨拶、来賓の挨拶の様子が控室のテレビに映し出された。蓮行氏からの気合のこもった最終注意のあと、本番の舞台へと出ていった。

| メタボ劇 「メタボ退治じゃ！ミート黄門」 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 参加者                  | 市民：総社市保健福祉大会（同市社会福祉協議会主催）参加者 約800名<br>演劇スタッフ：劇団3名，大学（教員・職員）12名 合計15名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 出演者                  | 県立大学4年次生9名，劇団衛星2名 合計11名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 内容と成果                | 2年に1度開催される「総社市保健福祉大会」のプログラムのひとつとして、市民向けメタボリック症候群の予防啓発劇を出入りも含め30分間で上演した。あらすじは、生活習慣の乱れたミート黄門様がさまざまな出来事を通じて自分のライフスタイルを見直し、運動不足解消と全国の風土にあった食を楽しむために全国漫遊の旅に出かけるまでのストーリーを描いたもので、ミート黄門様役は劇団のFジャパン氏が演じた。オープニングの音楽とナレーションのあと、村娘が登場した途端、会場から拍手と歓声がわき起こり、ミート黄門の登場までには観客が舞台にすっかり引き込まれている様子であった。大舞台であったが学生の声は二階席まで届いており、発声練習の成果が伺えた。舞台横には台詞が字幕で同時に映し出されており、聴覚障害の方以外の参加者にとっても劇の内容の理解を助けていたようであった。約18分間の劇の間、笑いあ |

り、拍手ありで、あっという間にフィナーレとなり大きな拍手が鳴り響いた。終了後のミーティングでは、1つのことを皆で成し遂げたという学生の満足度や達成感が非常に高く、また、演習や演劇公演の経験が就職活動や将来役に立つと発言した学生も多くいた。劇団のメンバーや教員への感謝の言葉も聞かれ、高い教育効果が伺えた。



## 5. 職員表彰

平成19年4月1日、法人化に伴い公立大学法人岡山県立大学職員就業規則に基づき制定された岡山県立大学職員表彰規程により、デザイン学部造形デザイン学科草間喆雄教授、難波久美子准教授、島田清徳講師の3名が表彰された。

3名は、平成8年より10年余の長年にわたり、成羽町美術館、倉敷芸文館、岡山県庁等の公共施設等で、展覧会形式のテキスタイルデザインの研究発表を学生と共に行い、本学の教育活動の活性化と地域との連携に大いに貢献し、顕著な功績があったことに対して、規程制定後初めて表彰されたものである。

平成20年10月1日、表彰式は理事等の同席のもと理事長室で行われ、三宮理事長から表彰状と記念品が授与された。三宮理事長は、「長年にわたる研究発表を通じて地域に貢献し、本学の名声を高めた」と感謝の言葉を述べ、功績を称えた。





## 6. 学生支援

### 6.1 平成 20 年度学生生活アンケート結果

#### (1) 実施概要

本年が 3 回目となる全学部生（3 学部 8 学科 1565 名）を対象とした学生生活アンケートを平成 20 年 10 月に実施した。内容はマークシート設問 30 問（次ページ）と自由記述 3 問であった。マークシート設問に対する全体の回答率は 85% であり、特に看護学科 1 年次生、情報通信工学科 1 年次生そしてデザイン工学科 2 年次生からは 100% の回答を得た。自由記述に対しては約 2000 件の意見が寄せられた。即刻対応可能なもの（自転車置き場の空気入れ更新、トイレのドアの改修など）については対応している。アンケートを項目別に分類し、学習・履修に関しては教務専門委員会へ、図書館に関するものは図書館専門委員会へ、体育施設については健康・スポーツ推進センターへ、情報や PC 関係については情報教育センターへ、就職関係に関しては事務局学生班へ、環境や施設については総務委員会に意見を照会しその対応についての検討を依頼した。一方学部・学科での課題は各学科の学生生活支援専門委員会の委員を通じて改善の取り組みを行っている。事務職員への要望・苦情に関しては職員全員に回覧し、今後の業務における意識の向上に繋げている。食堂・喫茶・売店については学生諸君の声を届け、改善を求めている。

## (2) 学生生活アンケートマークシート設問文

### 《 マークシート設問文 》

#### 記入に関する注意事項

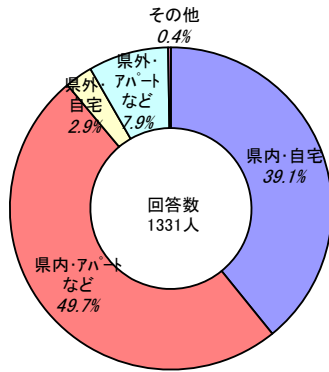
- ① 入学年、学科、性別は必ずマークしてください。
- ② 各設問の回答は、選択肢から最も近いものを「一つ」だけ選び、マークシート回答用紙の該当する番号をマークしてください。
- ③ 10月1日現在で記入してください。

|                                       |                               |                                            |                   |
|---------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------|-------------------|
| 問1 あなたの住まいについて教えてください                 | 1)県内・自宅<br>4)県外・アパートなど        | 2)県内・アパートなど<br>5)その他                       | 3)県外・自宅           |
| 問2 あなたの通学時間について教えてください                | 1)15分未満<br>4)1時間～2時間未満        | 2)15分～30分未満<br>5)2時間以上                     | 3)30分～60分未満       |
| 問3 主たる通学手段を教えてください                    | 1)徒歩・自転車<br>4)JR・井原鉄道         | 2)原付・自動二輪車<br>5)その他(徒歩・自転車・原付・バス・鉄道など複合手段) | 3)自家用車            |
| 問4 生活費を主に何によって支えていますか                 | 1)仕送り(保護者等の収入)<br>4)アルバイトと奨学金 | 2)仕送りとアルバイト<br>5)アルバイト                     | 3)仕送りと奨学金等        |
| 問5 授業料減免制度、(独)日本学生支援機構の奨学金について知っていますか | 1)両方とも知らない<br>4)両方とも知っている     | 2)授業料減免のみ知っている                             | 3)奨学金のみ知っている      |
| 問6 入学後のアルバイトについて教えてください               | 1)アルバイトの経験が無い<br>4)情報誌等で探した   | 2)本部棟掲示板で探した<br>5)その他                      | 3)友人等の紹介で始めた      |
| 問7 現在、どのような悩みがありますか                   | 1)ない<br>4)健康や対人関係             | 2)現在の学業<br>5)その他                           | 3)進路や就職           |
| 問8 悩みは、誰に相談していますか                     | 1)家族<br>4)学生相談室・教職員           | 2)友人・先輩<br>5)その他                           | 3)誰もいない           |
| 問9 オフィスアワー制度やアドバイザー制度を知っていますか         | 1)両方とも知らない<br>4)両方とも知っている     | 2)オフィスアワー制度のみ知っている                         | 3)アドバイザー制度のみ知っている |
| 問10 オフィスアワー制度を利用した満足度                 | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問11 アドバイザー制度を利用した満足度                  | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問12 学生相談室・保健室の場所を知っていますか              | 1)両方とも知らない<br>4)両方とも知っている     | 2)相談室のみ知っている                               | 3)保健室のみ知っている      |
| 問13 休講等授業に関する情報提供に対する満足度              | 1)わからない<br>4)満足度50～80%未満      | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問14 課外に図書館を利用した満足度                    | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問15 課外に語学センターを利用した満足度                 | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問16 課外に情報教育センターを利用した満足度               | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問17 課外に運動施設を利用した満足度                   | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問18 食堂(1F)を利用した満足度                    | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問19 喫茶(2F)を利用した満足度                    | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問20 売店を利用した満足度                        | 1)利用したことがない<br>4)満足度50～80%未満  | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問21 平日の授業がない空き時間はどこにいますか              | 1)図書館<br>4)学外                 | 2)学生会館・部室棟など<br>5)その他                      | 3)教室・演習室          |
| 問22 部・サークルへの加入について教えてください             | 1)入っていない<br>4)サークル[体育系]       | 2)部[体育系]<br>5)サークル[文化系]                    | 3)部[文化系]          |
| 問23 部・サークル活動で思うことを教えてください             | 1)学業との両立は困難<br>4)拘束されたくない     | 2)アルバイトとの両立は困難<br>5)興味あるサークルがない            | 3)経済的負担が大きい       |
| 問24 卒業後の進路の第1希望は何ですか                  | 1)進学(大学院・編入学)<br>4)その他        | 2)公務員(公的施設等)<br>5)未定                       | 3)民間企業(医療・福祉施設等)  |
| 問25 希望する就職地域はどこですか                    | 1)岡山県内<br>4)その他               | 2)中国・四国地方<br>5)未定                          | 3)関西圏             |
| 問26 希望する就職地域は出身地ですか                   | 1)出身地<br>4)未定                 | 2)出身地以外<br>5)未定                            | 3)出身地にこだわらない      |
| 問27 就職情報をどのようにして得ていますか                | 1)担当教員<br>4)学部内掲示板            | 2)就職情報誌(リクナビ含む)<br>5)その他                   | 3)就職資料室(学内LAN)    |
| 問28 本学の就職支援体制に対する満足度                  | 1)わからない<br>4)満足度50～80%未満      | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |
| 問29 不便・危険を感じる場所がありますか                 | 1)どちらも無い<br>4)どちらも有る          | 2)不便な場所が有る<br>5)わからない                      | 3)危険な場所が有る        |
| 問30 全体として本学での大学生生活に満足していますか           | 1)わからない<br>4)満足度50～80%未満      | 2)満足度0～20%未満<br>5)満足度80%以上                 | 3)満足度20～50%未満     |

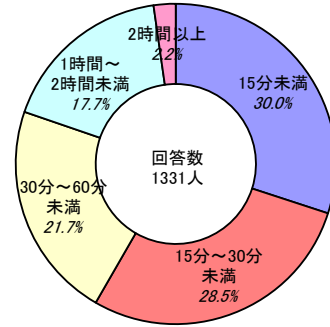
### (3) 学生生活アンケートマークシート集計

学生生活アンケートマークシート設問文（30問）の集計結果を下記に記載する。

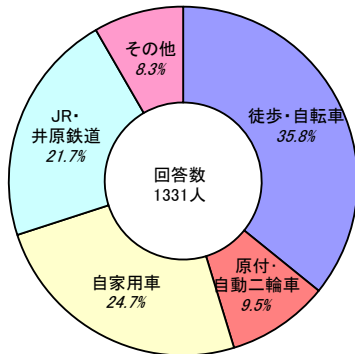
Q1 あなたの住まいについて教えてください



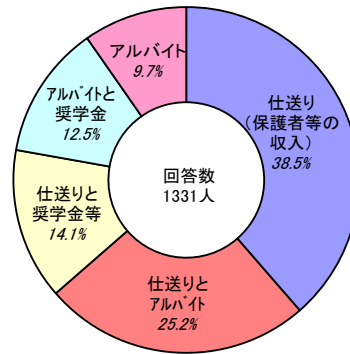
Q2 あなたの通学時間について教えてください



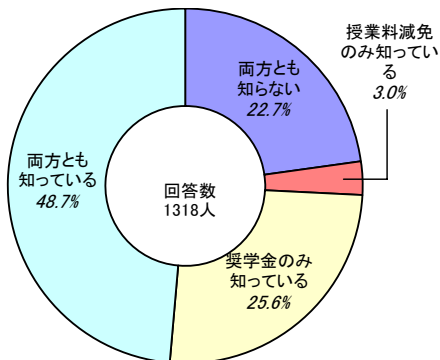
Q3 主たる通学手段を教えてください



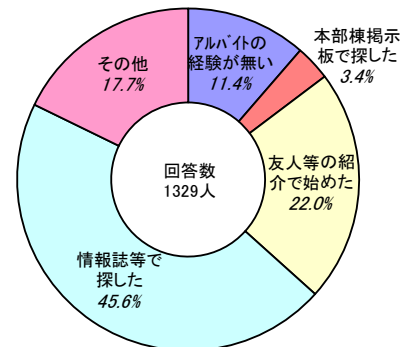
Q4 生活費を主に何によって支えていますか



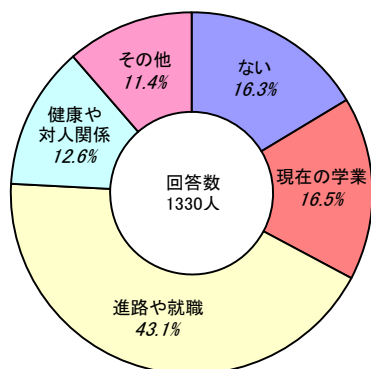
Q5 授業料減免制度、(独)日本学生支援機構の奨学金について知っていますか



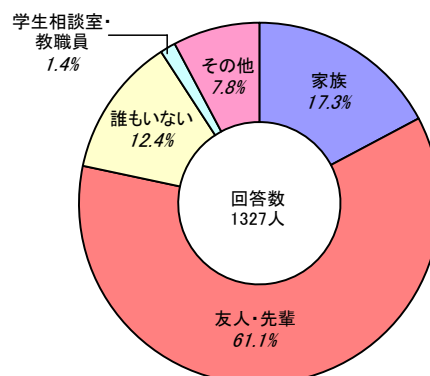
Q6 入学後のアルバイトについて教えてください



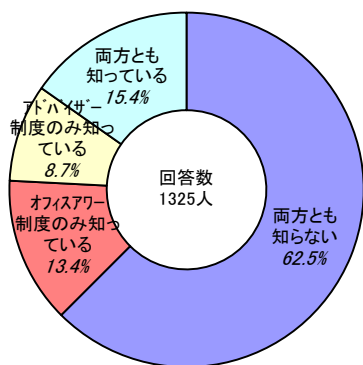
Q7 現在、どのような悩みがありますか



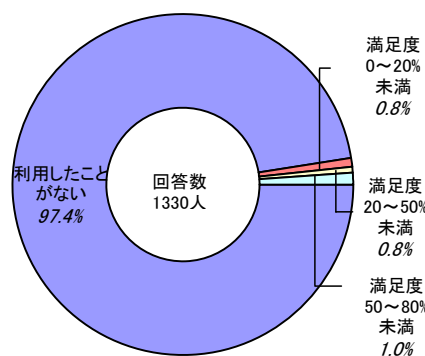
Q8 悩みは、誰に相談していますか



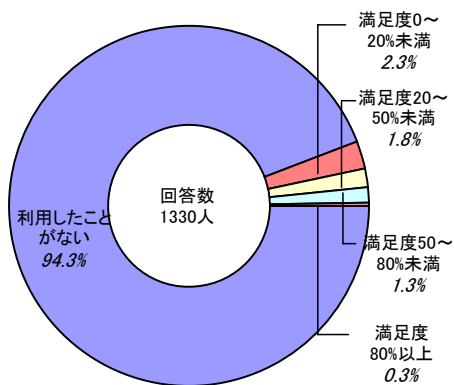
Q9 オフィスアワー制度やアドバイザー制度を知っていますか



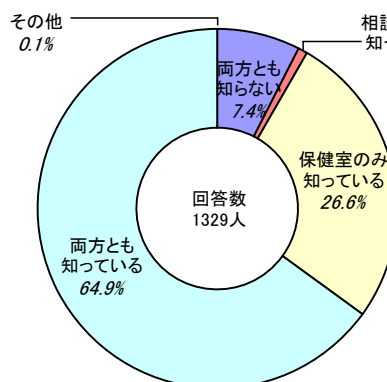
Q10 オフィスアワー制度を利用した際の満足度



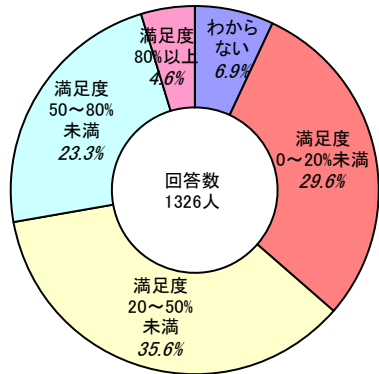
Q11 アドバイザー制度を利用した際の満足度



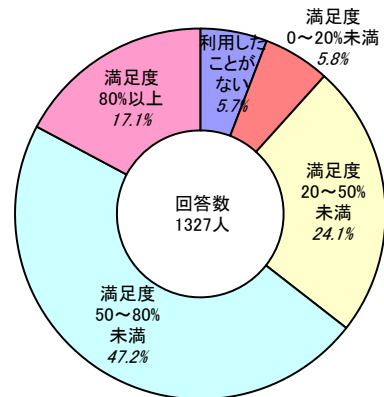
Q12 学生相談室・保健室の場所を知っていますか



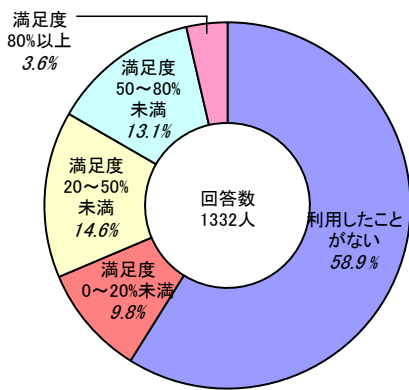
Q13 休講等授業に関する情報提供に対する満足度



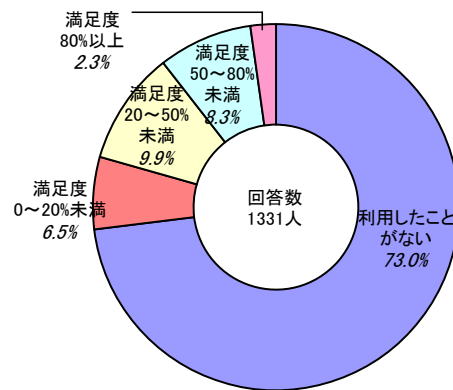
Q14 課外に図書館を利用するの満足度



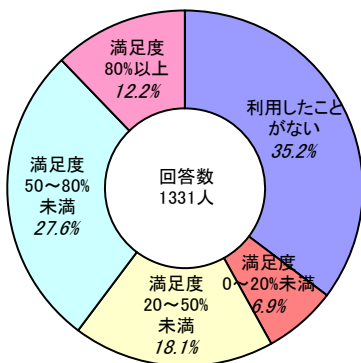
Q15 課外に語学センターを利用するの満足度



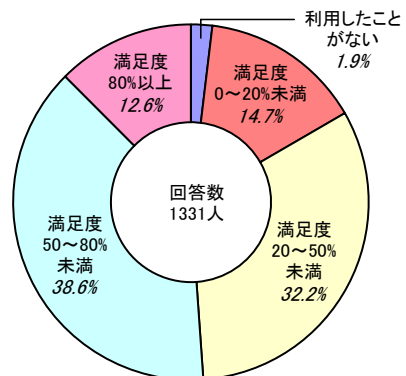
Q16 課外に情報教育センターを利用するの満足度



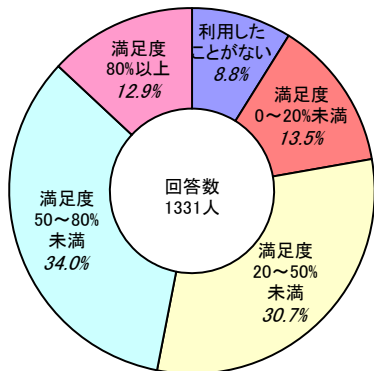
Q17 課外に運動施設を利用するの満足度



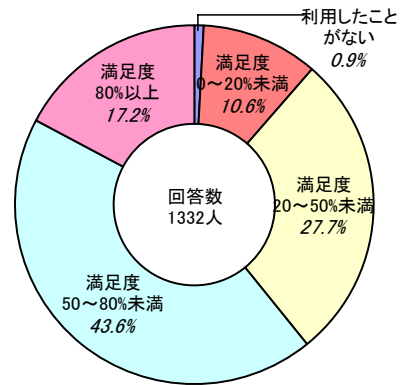
Q18 食堂(1F)を利用するの満足度



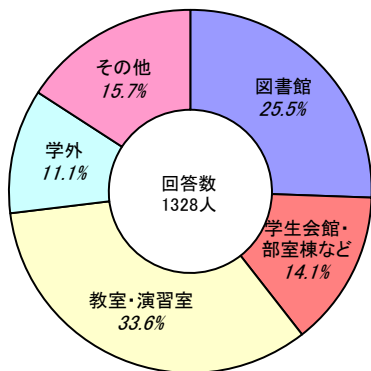
Q19 喫茶(2F)を利用しての満足度



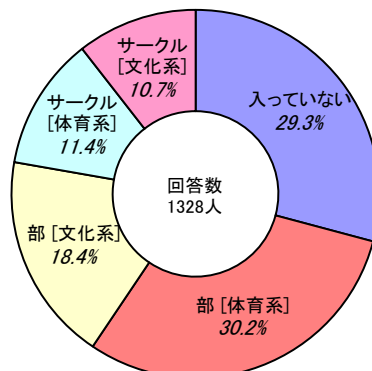
Q20 売店を利用しての満足度



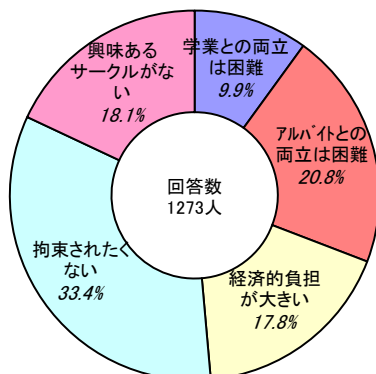
Q21 平日の授業がない空き時間はどこにいますか



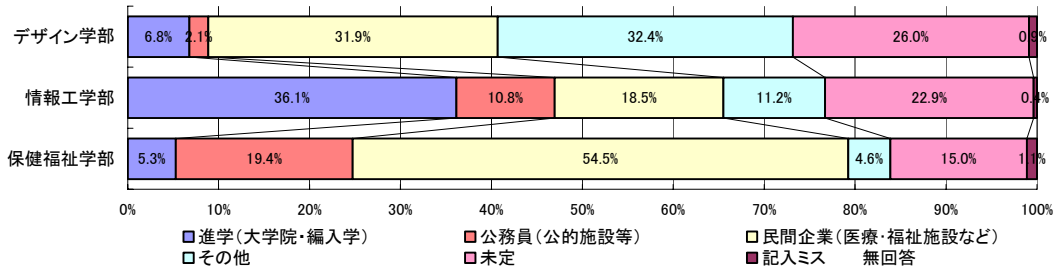
Q22 部・サークルへの加入について教えてください



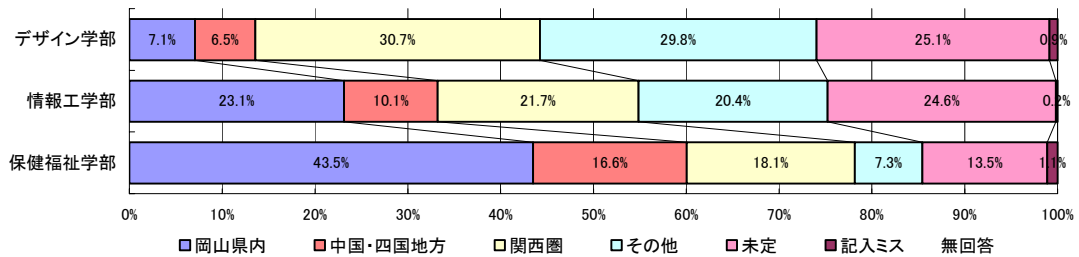
Q23 部・サークル活動で思うことを教えてください



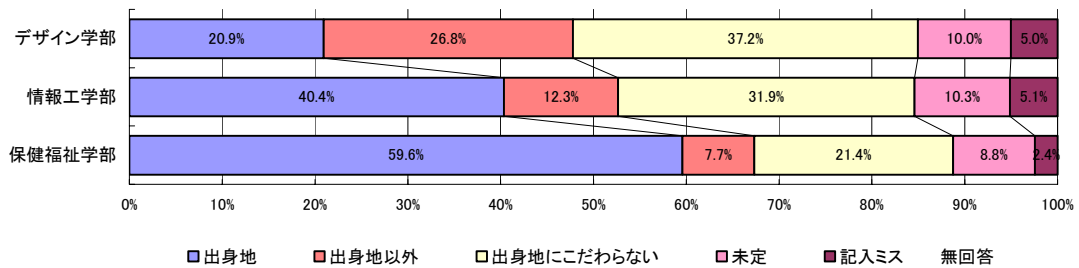
Q24 卒業後の進路の第1希望は何ですか



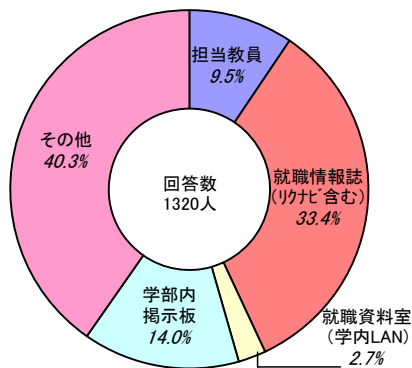
Q25 希望する就職地域はどこですか



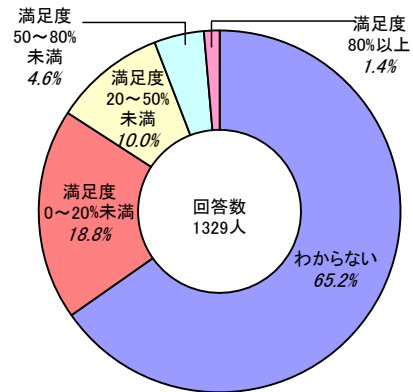
Q26 希望する就職地域は出身地ですか



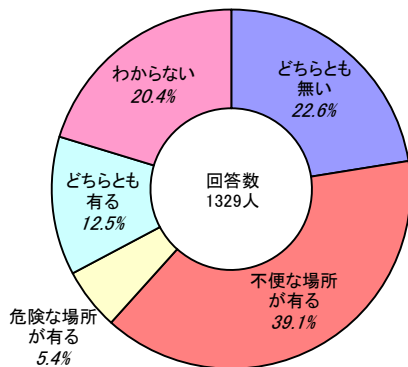
Q27 就職情報をどのようにして得ていますか



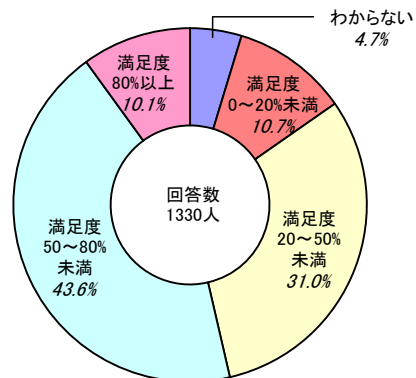
Q28 本学の就職支援体制に対する満足度



Q29 不便・危険を感じる場所がありますか



Q30 全体として本学での大学生活に満足していますか



## 6.2 キャンパスマネージャーの活動

本学には、広く学生の自主的建設的な意見を大学運営に反映させるため、キャンパスマネージャー（学生生活企画提言委員）の制度が設けられており、平成20年度は16名の学生が学長から委嘱されている。活動は学生部長の指導に基づき、学生生活全般に亘る企画、提言を行っている。

### [キャンパスマネージャーの活動状況]

| 日時<br>(場所)                                   | 出席者等                           | 内容等                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H20. 5.30<br>12:00～13:15<br>(本部棟2階<br>中会議室1) | キャンパスマネージャー14名,<br>学生部長及び事務局3名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスマネージャーへ辞令を交付し、事務局からキャンパスマネージャーの仕事について説明を行った。</li> <li>・学生生活全般について意見交換を行い、キャンパスマネージャーから「大学のホームページの中に在学生向けの専用ページを開設したらどうか」等の提案があった。</li> <li>・キャンパスマネージャーの意見を取り入れ、7月1日から本学のホームページの中に、在学生向けの専用ページを開設した。</li> </ul> |



|                                             |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H20. 7.5～7.31                               | キャンパスマネージャー全員                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学のホームページについて、キャンパスマネージャーから改善案を文書で募集した.</li> <li>・7人のキャンパスマネージャーから意見, 提案があった.</li> </ul>                                                                                                                                          |
| H20.10.9<br>12:00～14:10<br>(本部棟2階<br>小会議室1) | キャンパスマネージャー15名,<br>学生部長及び事務局3名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学のホームページについて、キャンパスマネージャーから提出された提案のうち、「学内行事や学園祭情報をホームページに掲載・リンクしてはどうか」などの意見を取り入れる旨, 報告を行うとともに, 更なる改善に向けて意見交換を行った.</li> <li>・就職資料室の利便性向上のための方策について意見交換を行った. そのうち「出入口に案内標示を設けて学生が利用しやすい雰囲気を作ってはどうか」という意見を取り入れ, 案内標示を設けた.</li> </ul> |

## 第2章 FD活動

---

### 1. 概要

本学におけるFD活動は、学生による授業評価と教員相互の授業参観の二者を柱として展開してきた。前者は本学独自の授業評価尺度を開発し、過去5年にわたり全学的に実施し、後者は過去4年にわたり講演会、モデル授業そして相互授業参観を実施した。相互授業参観は全教員を対象とし、全面的に実施することが出来たことは、本学教員の意識の高さを証するものと言える。

一方、全学的なFD活動のみならず、学部・学科で取り組んでいる教育向上の推進策や試行的な取り組みの現状を把握するため、平成19年度に学科長を対象に学科におけるFD活動の現状を把握した。その結果を踏まえ、授業評価を担当する委員会と授業参観を担当する委員会とを一体化させることが必要と判断し、今年度からFD部会に授業評価委員会を組み込み、組織的な充実を図った。同様にFD活動の内容についても検討を加え、本学FD活動のあり方についても議論した。

また、これまで学内教員による授業改善を推進してきたが、学外者を招聘し、具体的は改善方法を学習する研修会を企画し実施した。併せて、FD部会委員は学外のシンポジウムや研究会に参加し研修を重ねた。

詳細は項目ごとに報告するが、平成21年度は従来の事業を継続すると共に、授業改善をすすめるために授業評価の内容を検討することや新任教員を対象とした研修会の開催が必要と考えている。

### 2. 授業参観

#### (1) 平成20年度授業参観の位置づけと目的

平成19年度は教員個々のニーズに応え、教員の個別性に配慮した相互授業参観を実施し、多くの教員の方から好評を得た。しかし開催時期が後期のみで、一部の教員の参加を得ることが出来なかった。そこで平成20年度は、平成19年度と同様の趣旨のもとに、相互授業参観を前期に実施し、授業能力の一層の向上を目指すものである。

#### (2) 相互授業参観の実施方法について

##### 1) 参観授業の開示

全ての専任教員（科目を担当している助教を含む）は、公開する授業1科目（授業形態は問わない）を選び、公開したい1又は2コマを決める。ただし、全学教育を担当する教員は、全学教育科目を公開する。

## 2) 参観授業の選択

教員は公開された授業から希望する授業を選択し、担当教員に連絡する。複数科目の参観は可能とする。

## 3) 参観の可否

希望者が多い場合は、公開する教員が希望者と調整する。参観できる授業は、原則当該学部内とする（全学教育科目はこの限りにあらず）。

## 4) 実施期日 平成 20 年 6 月 16 日（月）～ 6 月 27 日（金）

### (3) 授業参観に対するレポート

授業終了後、参観教員は当該授業で学んだことを中心に、次の 3 点について箇条書きでレポート（字数制限なし）を提出する。

- 1) 当該授業を参観した理由
- 2) 参観して良かった点、気になった点
- 3) 参観教員が担当する科目に生かせる点

### (4) レポートの活用

平成 20 年度も平成 19 年度と同様に、教員が参観したい授業を選択し、相互に授業を参観する方式を採用し、授業能力の一層の向上を目指すものとして実施した。授業を参観された先生から提出されたレポートは、教育の向上に役立てるため、当該授業を公開した全ての教員に送付された。

### (5) 各学部の授業参観実施結果

#### [保健福祉学部]

#### ① 実施概況

平成 20 年 4 月現在の保健福祉学部所属教員数は、教授 25 名、准教授 20 名、講師 8 名、助教・助手 17 名の合計 70 名である。保健福祉学部 3 学科はそれぞれ専門職養成のための個別カリキュラムを有しており、学科ごとに公開授業と参観の概要を表 2.2-1 に示す。参観教員数欄の分類法 A は参観した教員の職位、分類法 B は参観教員の所属を表す。学科内は公開教員と参観教員の所属学科が同一であること、学科外は所属する学科および学部が異なることを表す。

#### ② 実施結果

授業の公開は助教以上の教員が対象で全教員 70 名中 63 名であったが、公開した助教は 1 名だけで、他は講師以上であったため助教 1 名を含めて講師以上の 54 名を対象と

した。その内、授業を公開した教員は 54 名中 51 名（詳細は栄養学科 14 名/14 名，看護学科 14 名/14 名，保健福祉学科 23 名/26 名）（94%）であった。授業を公開できなかった教員は，担当科目がない・健康上の問題等であった。公開する授業は 1 教員 1 科目であったが，2 科目と 3 科目を公開した教員が 5 名で，延べ 57 科目であった。（授業公開期間中に参観できなかった教員（1 名）が，個人交渉にて他日，参観した科目も含む）公開された科目を授業形態別に分類すると講義が 42 科目，演習・実習が 15 科目であった。

授業を参観した教員総数は 55 名（保健福祉学部教員のみを対象にすると 76%）で，授業公開教員と参観教員の所属が同一学科であった教員が 42 名（76%），他学科・学部の教員が 13 名（このうち 2 名は他学部）であった。

参観科目の選択理由の総記述件数は 88 件で 3 学科に共通して最も多かったのは，「自分の担当科目との関連性」（24 件），次に「その科目に対する関心」（22 件）で，「授業の展開方法に対する関心」（21 件），以下多い順に示すと「授業公開教員への関心・評判のよさ」（5 件），「学生の学ぶ姿勢や反応の把握」，「知識の確認・習得と自分の授業の見直し」，「時間的に参観可能な科目」，「他学部・学科の授業に対する興味」等であった。以上により，授業参観科目の選択理由は，次の 4 点に要約できる。

#### <当該授業を参観した理由>

- 1) 自分の担当科目との関連性，授業の展開方法に対する関心，知識の確認・習得と自分の授業の見直し
- 2) その科目に対する関心
- 3) 授業公開教員への関心・評判のよさ
- 4) 学生の学ぶ姿勢や学生の反応の把握

平成 19 年度の授業公開で最も多かった参観理由は「授業公開教員への関心・人気・評判のよさ」で授業そのものに対する内容ではなく授業公開教員の人物像に関心を寄せていたが，平成 20 年度は「自分の担当科目との関連」で科目そのものに対する関心や「授業の展開方法に対する関心」が高いことから，自分の授業の役立てたいという意思で参観した教員が多かったと推測される。

次に参観して良かったこと，気になったこと，参観者の担当科目に活かせることに関しては，3 学科を通して次のように要約できる。

#### <参観して良かったこと> 記述件数は 144 件で，主要な項目を下記に示す。

- 1) 指導方法（50 件）：展開方法の工夫，学習ポイントの提示の仕方，学生の理解力に配慮，学生参加型の進行
- 2) 教材の活用（23 件）：パワーポイント，ビデオ，図や写真，統計資料などの視聴覚教材，小テストの実施，マインドマップの手法など

- 3) グループワークと発表 (8件) : 学生主体, 他者からの気づきを得る機会
- 4) 周到的な事前準備 (6件) : 授業構成の巧みさ, 飽きさせない工夫
- 5) 教員の情熱 (6件) : 時間厳守の姿勢, 信念に基づいた講義

<気になったこと> 記述件数は25件で, 主要な項目を下記に示す.

- 1) 指導方法の不足 (6件) : 専門的観点からの学生へのフィードバック不足, 資料の工夫不足等
- 2) 学生の授業態度 (4件) : 居眠り, 私語, 遅刻等
- 3) その他 (少数づつ) : 学生の理解程度に疑問, 教員の一方通行の授業展開, 学生の行動にばらつき

<参観者の担当科目に活かせること> 記述件数は99件で, 主要な項目を下記に示す.

- 1) 指導方法の工夫 (38件) : マインドマップの活用, 分かりやすい説明の工夫, グループワークの導入, 資料の作成と提示の仕方
- 2) 教材の工夫 (11件) : ビデオ鑑賞, パワーポイント, 資料の提示や板書の工夫, 教員自身の体験談
- 3) 授業展開の工夫 (6件) : 学生の理解度に合わせる, 設問の工夫
- 4) 学生の興味・関心を引き出す工夫 (4件) : 講和の活用, 研究的視点の導入
- 5) 教育水準の工夫 (少数) : 学生の思考力を高める, 探究心の育成に向けて
- 6) 教員の態度 (少数) : 言葉遣い, 熱意, ふさわしい態度を見習いたい

### ③ まとめ

- 1) 授業を公開した教員は94%で, 平成19年の77%と比較するとFD活動への関心・協力体制は整いつつある. また, 今年度は助教による公開科目が1件あり, 職位の拡大が認められた.
- 2) 授業参観した教員は76%で, 昨年とほぼ同様の傾向にあった. 授業公開教員と参観教員は同一所属の割合が76%と多く, 科目の選択理由からみると昨年と同様に参観教員が担当している科目との類似性および関連性のある科目であった. また, 公開科目は各学科の専門科目がほとんどであったが, 学科外・他学部からの参観教員も25%あり, 授業参観の機会があるからこそ可能なことでFD活動の意義があると考ええる.
- 3) 授業参観した教員は授業の指導・展開方法や教材の工夫に関する興味・関心が高いことから, 自分が担当する授業に関連させて参観し, 授業改善に役立てようとする姿勢がうかがえる.

表 2.2-1 公開授業と参観の概要(保健福祉学部)

| 公開対象の授業科目     |      |       | 参観教員数 |      |     |    |       |      |     |
|---------------|------|-------|-------|------|-----|----|-------|------|-----|
| 科目名           | 授業形態 | 公開教員  | 計     | 分類法A |     |    |       | 分類法B |     |
|               |      |       |       | 教授   | 准教授 | 講師 | 助教・助手 | 学科内  | 学科外 |
| 【栄養学科教員による科目】 |      |       |       |      |     |    |       |      |     |
| 栄養学総論         | 講義   | 木本    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 調理学           | 演習   | 淵上    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 化学Ⅰ           | 講義   | 辻英明   | 1     | 1    | 0   | 0  | 0     | 1    | 0   |
| 微生物学          | 講義   | 山本(耕) | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 臨床栄養学Ⅱ        | 講義   | 岡田    | 1     | 0    | (1) | 0  | 0     | 0    | 1   |
| 病態栄養学         | 講義   | 高橋(吉) | 4     | 0    | 1   | 1  | 2     | 4    | 0   |
| 生物学Ⅰ          | 講義   | 岸本    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 栄養学基礎実験       | 集中   | 中島    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 臨床栄養学実習Ⅰ      | 実習   | 富岡    | 1     | 0    | 0   | 0  | 1     | 1    | 0   |
| 食品材料学         | 講義   | 山下    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 公衆栄養学実習Ⅰ      | 実習   | 永井    | 4     | 2    | 0   | 0  | 2     | 4    | 0   |
| 生化学           | 講義   | 山本(登) | 2     | 1    | 0   | 0  | 1     | 2    | 0   |
| 総合演習Ⅰ         | 演習   | 川上(貴) | 1     | 0    | 1   | 0  | 0     | 1    | 0   |
| 総合演習Ⅰ         | 演習   | 久保田   | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 給食管理実習Ⅰ       | 実習   | 久保田   | 1     | 0    | 0   | 0  | 1     | 1    | 0   |
| 小計            |      |       | 15    | 4    | 3   | 1  | 7     | 14   | 1   |
| 【看護学科教員による科目】 |      |       |       |      |     |    |       |      |     |
| 医学概論          | 講義   | 高井研一  | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 看護学概論         | 講義   | 村上生美  | 1     | 0    | 0   | 1  | 0     | 1    | 0   |
| 病理学           | 講義   | 森     | 1     | 0    | 0   | 0  | 1     | 1    | 0   |
| 成人看護学Ⅲ        | 講義   | 横手    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 老年看護学Ⅰ        | 講義   | 太湯    | 2     | 0    | 1   | 0  | 1     | 2    | 0   |
| 地域看護学Ⅱ        | 演習   | 二宮    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 成人看護学Ⅰ        | 講義   | 掛橋    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 小児看護学Ⅱ        | 演習   | 高橋    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 看護学方法Ⅵ        | 演習   | 肥後    | 3     | (2)  | 0   | 0  | 1     | 1    | 2   |
| 生命倫理          | 講義   | 石村    | 3     | 0    | 2   | 0  | 1     | 3    | 0   |
| 在宅看護論         | 講義   | 石村    | 1     | 0    | 0   | 0  | 1     | 1    | 0   |
| 看護学方法論Ⅱ       | 演習   | 荻     | 2     | 1    | 0   | 0  | 1     | 2    | 0   |
| 基礎英語Ⅰ         | 講義   | 杉村    | 1     | (1)  | 0   | 0  | 0     | 0    | 1   |
| 母性看護学Ⅰ        | 講義   | 岡崎    | 2     | 1    | 0   | 0  | 1     | 2    | 0   |
| 精神看護学Ⅱ        | 講義   | 吉川    | 0     | 0    | 0   | 0  | 0     | 0    | 0   |
| 小計            |      |       | 16    | 5    | 3   | 1  | 7     | 13   | 3   |

註1) 公開教員欄の [ 印は同一教員であることを表す。

2) 表中の( )は他学科・他学部教員数を表す

表 2.2-1 公開授業と参観の概要(保健福祉学部)(前頁の続き)

| 公開対象の授業科目       |      |       | 参観教員数 |      |     |     |       |      |     |
|-----------------|------|-------|-------|------|-----|-----|-------|------|-----|
| 科目名             | 授業形態 | 公開教員  | 計     | 分類法A |     |     |       | 分類法B |     |
|                 |      |       |       | 教授   | 准教授 | 講師  | 助教・助手 | 学科内  | 学科外 |
| 【保健福祉学科教員による科目】 |      |       |       |      |     |     |       |      |     |
| 社会福祉概論Ⅰ         | 演習   | 中嶋    | 2     | 0    | 2   | 0   | 0     | 2    | 0   |
| 障害科学            | 講義   |       | 中嶋    | 1    | 0   | 0   | 1     | 0    | 1   |
| 社会福祉概論Ⅱ         | 演習   | 中嶋    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 社会福祉発達史         | 講義   | 村上(貴) | 1     | 1    | 0   | 0   | 0     | 1    | 0   |
| 福祉工学            | 講義   | 田内    | 1     | 1    | 0   | 0   | 0     | 1    | 0   |
| ケアマネジメント学       | 講義   | 香川    | 1     | (1)  | 0   | 0   | 0     | 0    | 1   |
| 障害福祉論Ⅱ          | 講義   | 吉本(孝) | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 社会福祉施設経営論       | 講義   |       | 吉本(孝) | 2    | 1   | 0   | 1     | 0    | 2   |
| 教育学入門           | 講義   | 岡本    | 1     | (1)  | 0   | 0   | 0     | 0    | 1   |
| 基礎技能Ⅰ(声楽)       | 演習   | 岡崎    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 健康管理論           | 講義   | 谷口    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 健康と心理           | 講義   |       | 谷口    | 2    | (1) | 0   | 1     | 0    | 1   |
| 地域福祉論           | 講義   | 井村    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 認知障害論           | 講義   | 中村(光) | 1     | 1    | 0   | 0   | 0     | 1    | 0   |
| 英会話Ⅰ            | 演習   | 星野    | 2     | 0    | (2) | 0   | 0     | 0    | 2   |
| ユニバーサルデザイン学     | 講義   | 中村(孝) | 3     | (2)  | 0   | 0   | 1     | 1    | 2   |
| 医学一般Ⅲ           | 講義   | 藤井(保) | 1     | 0    | 0   | 0   | 1     | 1    | 0   |
| 養護原論            | 講義   | 中野    | 1     | 0    | 1   | 0   | 0     | 1    | 0   |
| 社会福祉援助技術論Ⅰ      | 講義   | 村社    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 社会病理学           | 講義   | 近藤    | 1     | 0    | 0   | 0   | (1)   | 0    | 1   |
| 精神医学ソーシャルワーク論   | 講義   | 坂野    | 2     | 1    | 0   | 0   | 1     | 2    | 0   |
| 保健福祉情報論         | 講義   | 筒井    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 保育内容(人間関係)      | 講義   | 京林    | 1     | 0    | 0   | (1) | 0     | 0    | 1   |
| 国際福祉論           | 講義   | 金     | 1     | 0    | 0   | 1   | 0     | 1    | 0   |
| 心理臨床学Ⅰ          | 講義   | 樂木    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 障害者心理           | 講義   | 坪井    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 形態別介護技術         | 講義   | 原野    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   |
| 小計              |      |       | 24    | 10   | 5   | 5   | 4     | 15   | 9   |
| 総計              |      |       | 55    | 19   | 11  | 7   | 18    | 42   | 13  |

註1)公開教員欄の〔 〕印は同一教員であることを表す。

2)表中の( )は他学科・他学部教員数を表す

## [情報工学部]

### ① 実施概況

実施概況を表 2.2-2 に示す。平成 20 年 6 月現在の学部教員数は、教授 21 名、准教授 20 名、助教・助手 13 名の合計 54 名である。はじめに科目分類について説明する。同表左欄に示すⅠ群は理系基礎科目である数学と物理、Ⅱ群はソフトウェア系科目、Ⅲ群は基礎工学系科目、Ⅳ群は実験・演習科目、Ⅴ群は専門を深化させる科目または応用的な色彩が濃い科目、Ⅵ群は「学部教育への準備」の 카테고리を除く全学教育科目並びに教職に

関する科目である。対象欄は受講学生の所属学科を表し、その略号は同表の下方参照。参加教員数の欄について、分類法 A と B はそれぞれ職位による分類及び学科内・学科外によるものである。ここに、「学科内」とは公開教員と参観教員の所属学科が同一であることを表す。

## ② 実施結果

情報工学部所属教員は教授・准教授を中心に 41 名が 35 科目を公開した（同一科目名で複数クラス開講の場合は 1 科目とカウントした）。参観者数は 54 名である。授業形態別に分類すると講義が 47 名、実験・演習が 7 名である。そして、公開教員と参観教員の所属が同一学科であるものが 30 名である。参観科目の選択状況は前回とかなり異なり、次表に示すとおり、今回は I 群の数学・物理と II 群のソフトウェアが減少し、V 群の専門的教育が増加した。

|             | 参 観 教 員 数    |               |
|-------------|--------------|---------------|
|             | 2008 年 6 月実施 | 2007 年 11 月実施 |
| I 群：数学と物理   | 1            | 8             |
| II 群：ソフトウェア | 5            | 11            |
| III 群：基礎工学  | 12           | 12            |
| IV 群：実験・演習  | 4            | 6             |
| V 群：専門的教育   | 23           | 10            |
| VI 群：全学教育   | 4            | 6             |

参観科目の選択理由で代表的なものは、I 群ではリメディアル教育を担当している、II 群では学生による授業評価が高い、演習教育の担当者として参考になる、III 群は数学とのつながりに関心がある、であった。IV 群は工学とのつながりに対する興味、V 群は類似または関連科目を担当しているため、VI 群は外国語の指導法を参考にしたいこと、であった。

参観レポートに示された事項をまとめると、参観して良かったことが 132 件、気になったことが 40 件であった。参観者の担当科目に生かせることは 75 件であった。

これらの中で「気になったこと」の例をまとめる。

- 黒板の色が濃い場合、青や赤のチョークによる板書は講義室の後方からは見にくい。また、強調すべきことは黄色で書く方が良い。
- 数式を多用する講義では縦長の教室は不向きである。大きな文字で板書しても講義室後方の学生からは見にくい。
- 前項と関連して、小さな文字で板書すると文字が見にくくなる。大きな文字で板書すると「書いてすぐ消す」ことになる。講義環境の改善も必要ではなかろうか。



- 配付資料を充実させると学生はノートをとらない傾向になりがちである。
- 語学のクラスサイズが大きい。少人数教育が必要ではないか。
- 授業開始時に学生の私語が多い場合は、学生に注意を与えることに加えて、講義内容に引き込む話し方を工夫することも重要になるのでは。
- 講義室後方の学生には意欲に欠ける学生が座る場合があるので注意が必要である。講義に熱中している教員ほど気づきにくいのではなかろうか。講義中に意識して後方の学生に注意を払うことも大切である。
- プログラミングのポリシーや手法は人それぞれであるため、講義や演習で指導する際には難しい面がある。

次に、「生かせること」75件を、「教材の提示，説明方法」，「配付資料」，「学生活動」，「コミュニケーション」の4つに区分して，それぞれ代表的な記述例を示す。

#### <教材の提示法，説明の方法>

- 参観者が担当する講義科目について，計算機演習室を活用しながら実施することの可能性を探ってみたい。
- 目に見えない電場や磁場をコンピュータシミュレーションで視覚化して学生に見せたことが良く，可能であれば参観者の授業にも取り込みたい。
- 講話やプレゼンが主体の授業では聞き流す学生が多いなかで，伝統的な教授法である板書の重要性を再認識した。この方法を有効に活用する工夫をしたい。

#### <配付資料の充実>

- 教科書との関連を，たとえば資料中に教科書の頁番号を付けるなどの工夫を参考にしたい。
- 配布資料に付属のCDを学生に活用させ，PCで課題に取り組める学習法は，学生の興味を持続でき，かつ，わかりやすい。

#### <学生活動の確保>

- グループワークで電子メディアを使わずに，あえて「紙」媒体を用いていたことには（古典的ながらも逆に）新鮮さを覚えた。協調学習手段としての有効性を再度確認した。

#### <コミュニケーション>

- 学生の名前を覚えて，進行状況に合わせて，学生を指名しながら授業を進める点は非常に素晴らしい。参観者が担当する授業は受講者が非常に多いため，学生の名前を覚えることは困難である。しかし，座席表を作成して活用する等により，学生の理解度を確認しながら授業を行うことを考えたい。
- 専門性が深いため学生の理解が進みがたい講義については，学生が興味を持つように雑談を取り込む方法を採用したい。

### ③ まとめ

- 1) 参観科目の選択状況を前回（2007年11月）と比較すると、I群の数学・物理とII群のソフトウェアが減少し、V群の専門的教育が増加した。
- 2) 参観レポートの特徴は、前回は抽象的な記述が多かったが、今回は具体性を伴う記述が増加した。
- 3) 今回の参観で「気になったこと」で複数件の指摘がなされたことは、数式を多用する科目における黒板の大きさや縦長の教室を使うことの適切性である。これらは、必ずしも担当教員の責任とは言えない部分もある。したがって、教員個人の授業改善活動と併せて、講義室の環境改善に向けた取り組みも必要になる。

表 2.2-2 公開授業と参観の概要(情報工学部)

| 公開対象の授業科目        |             |           |           |       | 参観教員数 |      |     |    |      |     |
|------------------|-------------|-----------|-----------|-------|-------|------|-----|----|------|-----|
| 群                | 公開科目名       | 授業の方法     | 公開教員      | 対象    | 計     | 分類法A |     |    | 分類法B |     |
|                  |             |           |           |       |       | 教授   | 准教授 | 助教 | 学科内  | 学科外 |
| 【情報工学部教員による公開科目】 |             |           |           |       |       |      |     |    |      |     |
| I                | 解析学 I       | 講義        | 高橋        | シ     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  |             |           | 小松        | 通     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 物理学 I       | 講義        | 坂本        | 通     | 1     | 0    | 1   | 0  | 0    | 1   |
| II               | 情報処理学       | 講義        | 金川        | 通     | 4     | 0    | 2   | 2  | 3    | 1   |
|                  | コンパイラ       | 講義        | 國島        | 通     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | データ工学       | 講義        | 加藤        | シ     | 1     | 1    | 0   | 0  | 0    | 1   |
| III              | 基礎電磁気学      | 講義        | 福嶋        | 通     | 2     | 1    | 0   | 1  | 2    | 0   |
|                  |             | 講義        | 濱田        | ス     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 力学 I        | 講義        | 大西        | シ     | 2     | 1    | 1   | 0  | 2    | 0   |
|                  | 力学          | 講義        | 柳原(大)     | ス     | 3     | 1    | 0   | 2  | 3    | 0   |
|                  | 機械数学演習      | 演習        | 市川        | シ     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | フーリエ解析      | 講義        | 川畑        | 通,シ,ス | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 微分方程式       | 講義        | 末岡        | シ,ス   | 3     | 1    | 1   | 1  | 3    | 0   |
|                  | 電気回路II      | 講義        | 岸原        | 通     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 計算機工学入門     | 講義        | 早瀬        | シ     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 材料力学 I      | 講義        | 尾崎        | シ     | 1     | 1    | 0   | 0  | 0    | 1   |
|                  | 制御工学IIA     | 講義        | 忻         | 通     | 1     | 0    | 0   | 1  | 1    | 0   |
| IV               | 情報通信工学実験III | 実験        | 大久保<br>小椋 | 通     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 運動工学実験      | 実験        | 辻         | ス     | 4     | 2    | 2   | 0  | 3    | 1   |
|                  | 技術英語演習      | 演習        | 犬飼        | ス     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
| V                | 機械力学        | 講義        | 西山        | シ     | 2     | 0    | 2   | 0  | 1    | 1   |
|                  | 計算機アーキテクチャB | 講義        | 佐藤        | シ     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | システム工学      | 講義        | 亀山        | シ     | 1     | 0    | 1   | 0  | 0    | 1   |
|                  |             | 講義        | 倉重        | ス     | 5     | 3    | 1   | 1  | 2    | 3   |
|                  | 情報理論        | 講義        | 稲井        | 通     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 生体情報工学      | 講義        | 渡辺        | シ     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 通信方式 I      | 講義        | 山北        | 通     | 1     | 0    | 1   | 0  | 0    | 1   |
|                  | 伝熱工学        | 講義        | 野津        | シ     | 2     | 1    | 1   | 0  | 1    | 1   |
|                  | パターン情報処理    | 講義        | 神代        | シ     | 2     | 1    | 0   | 1  | 1    | 1   |
|                  | 光・電磁波工学     | 講義        | 大久保       | 通     | 1     | 0    | 1   | 0  | 1    | 0   |
|                  | 計算機アーキテクチャ  | 講義        | 森下        | 通     | 1     | 0    | 1   | 0  | 0    | 1   |
|                  | 人工知能        | 講義        | 横田        | 通     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  | 生体行動科学      | 講義        | 柳原(衛)     | ス     | 2     | 2    | 0   | 0  | 2    | 0   |
|                  | 認知行動科学      | 講義        | 迫         | ス     | 5     | 3    | 2   | 0  | 3    | 2   |
|                  | 符号理論        | 講義        | 榊原        | 通     | 1     | 0    | 1   | 0  | 1    | 0   |
| VI               | 比較文化        | 講義        | 桂         | 全     | 2     | 1    | 1   | 0  | 0    | 2   |
|                  | スポーツ I      | 講義・<br>実技 | 越川        | 全     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  |             |           | 後藤        | 全     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
|                  |             |           | 平田        | 全     | 0     | 0    | 0   | 0  | 0    | 0   |
| 教師論              | 講義          | 福本        | 栄         | 2     | 2     | 0    | 0   | 1  | 1    |     |
| 小 計              |             |           |           |       | 49    | 21   | 19  | 9  | 30   | 19  |

| 公開対象の授業科目         |          |       |      |    | 参観教員数 |      |     |    |      |     |
|-------------------|----------|-------|------|----|-------|------|-----|----|------|-----|
| 群                 | 公開科目名    | 授業の方法 | 公開教員 | 対象 | 計     | 分類法A |     |    | 分類法B |     |
|                   |          |       |      |    |       | 教授   | 准教授 | 助教 | 学科内  | 学科外 |
| 【保健福祉学部教員による公開科目】 |          |       |      |    |       |      |     |    |      |     |
|                   | 教育学入門    | 講義    | 岡本   | 全  | 1     | 1    | 0   | 0  | 0    | 1   |
|                   | 健康と心理    | 講義    | 谷口   | 全  | 1     | 1    | 0   | 0  | 0    | 1   |
| 小 計               |          |       |      |    | 2     | 2    | 0   | 0  | 0    | 2   |
| 【デザイン学部教員による公開科目】 |          |       |      |    |       |      |     |    |      |     |
|                   | 基礎韓国語 I  | 演習    | 朴    | 全  | 2     | 1    | 1   | 0  | 0    | 2   |
|                   | 基礎ドイツ語 I | 演習    | 子野日  | 全  | 1     | 0    | 1   | 0  | 0    | 1   |
| 小計                |          |       |      |    | 3     | 1    | 2   | 0  | 0    | 3   |
| 合 計               |          |       |      |    | 54    | 24   | 21  | 9  | 30   | 24  |

対象

通：情報通信工学科      シ：情報システム工学科      ス：スポーツシステム工学科  
 栄：栄養学科              全：全学科

## [デザイン学部]

### ① 実施概況

デザイン学部の平成20年4月の教員総数43名（平成19年度は41名、造形デザイン学科において教授1名、助手1名が増員）。内訳は、デザイン工学科が、教授7名、准教授5名、講師3名、助教2名、助手2名、教務職員1名、造形デザイン学科が、教授8名、准教授7名、講師4名、助教2名、助手2名である。授業を担当する助教職以上の教員38名全員が、授業を公開した。実施状況の詳細は表2.2-3のとおりである。

公開・参観の原則は前回（平成19年度後期）同様、助教以上の教員が1科目以上（1授業時間以上）を公開し、全教員が1科目を参観するものであったが、複数時間（各2時間）を公開した教員が4名、複数担当者の担当する科目を公開したケースが2科目あった。また複数科目（各2科目）を参観した教員が、2名あった。授業公開への参加率は、上述のとおり該当教員全員参加の100%であったが、授業参観への参加率は、実人数ベースで79.1%にとどまり、前回の85.4%を若干下回った。細かくは、教授73.3%、准教授83.3%、講師71.4%、助教100.0%、助手および教務職員80.0%であった。

デザイン学部においては、公開科目中に実習科目（最長のもので4コマ連続）の占める割合が他の2学部に比べて高いため、前回同様、参観者の講義・演習科目への集中が予想され、結果も概ねそのようなものとなった。（実習科目は9科目公開されたが、参観は、3科目4名に留まった。）最も多く参観者を集めた科目は、「色彩学」（講義科目、参観者4名）、「日本語表現法」（講義、4名）と「グラフィックデザイン特論」（講義、

4名)であった。逆に全く参観者を得なかった科目は13科目で、全公開科目(36科目)のほぼ3分の1であった。前回と比較すると、参観者が少数科目に集中せず、分散する傾向が示された。

なお、他学部教員の担当科目を参観したデザイン学部教員は1名、他学部からデザイン学部教員担当科目を参観した教員は5名(いずれも語学系の科目を参観)であった。

若干の科目において、教室との兼ね合いで参観者の人数制限の希望が申し出られたが、そのために教室変更を余儀無くされた等の事態も発生せず、授業参観そのものは順調に実施された。

## ② 実施結果

参観した授業を選んだ理由は、これも前回同様、おおむね次の4点に集約することができる。

第1点は、授業内容に対する興味で、参観者が当該授業と同様、あるいは異なる内容の授業を担当している。具体例には、「自分とは異なった作品ジャンルの作品解説の手法に関心があった」、「学生のプレゼンテーションスキル向上のために映像系のことに興味があった」、「学部全体の基礎となる授業内容に興味があるため」。

第2点は、授業担当者に対する興味、あるいは授業担当者の能力に対する高い評価によるとするものである。具体例には、「新任の教員である点」、「担当教員のご専門が興味深く、授業を拝見したかったから」、「学科から、非常に楽しい授業である旨を聞いていたため」。

第3点は、参観者が自分の授業に資するものを求めて参観したとする回答で、授業内容そのもののほかに、学生の受講態度がみたい、授業展開を参考にしたい、などがあった。具体例には、「自分の授業に応用できる」、「違ったティーチングアプローチから学べるものがあると思うため」、「参観した教員も同系の科目を担当しており参考にしたかった」。

第4点は、消極的な理由で、参観者の日程(空き時間)の都合によるものである。「日時が都合のよいものであった」、「日程的に合う授業科目の中から選択した」。

参観した授業の良かった点は、授業個々の内容に直結しており、これを分類して集約することは難しいが、前回同様に、授業の準備の周到さや学生の積極的な授業参加への働きかけを良かった点と評する回答に加えて、教員のデザイナー時代の現場体験が参考になったとする評価が目立った。具体例には、「デザインの知識と、ご自分の経験をうまく組み合わせながら授業を進めていく形式が興味深く、身近な例として聞き入れることができた」、「実例に幅があり、デザインの考え方を様々な角度から説明していらっしやだったので、多くの学生に刺激となっている様子が伝わってきて、よい授業であった」。

気になった点についての指摘は、前回と比較して量的にはかなり増えており、同僚に

対する遠慮のような気配は薄らいている。特に、今回の授業公開・参観を新任教員に対する研修の一環とみなす立場からは、率直な、あるいは幾分きびしい批判もみられた。具体例には、「やや一様なテンポである点と、3 限であるためか数名居眠りがみられた。学生を集めてのブレインストーミング実験など、動きをもたせるなどの工夫があると、授業そのものの活性化に繋がると思われた」、「ノートを取りながら聴講してみたが、結構忙しくノートをとることとなった。授業の流れに沿ったプリントを最初に配付すれば、最小限の筆記作業で済み、教材提示を見ながら話を聞くことに専念できるのではないかと思う」、「〇〇の説明は技術的背景が非常に高度であったため、全ての学生が理解できたとは思えない」。

参観者が自身の授業に生かせる点は、「視覚的な資料の提示が有効であることを再認識した」、「プリント配布、口頭説明、板書転写の使い分けが重要であると感じた」というような回答がある一方で、参観者が省みて、自分の授業における学生の理解（授業内容の消化）を危惧する意見が散見された。具体例には、「私の場合、演習でも口頭の説明がやや多く、冗長になりがちだが、それで学生がしっかり内容を理解しているか定かではない」、「もし同じ授業を自分で行ったとしたら、あれだけの高度な内容を学生が理解できたか甚だ疑問である」。

### ③ まとめ

デザイン学部においては、前後期とも火曜日ならびに水曜日の3 限目から6 限目にかけて、各コース名を冠する4 コマ連続の実習が設定されており、これを担当する教員や、実習補助にあたる助手・教務職員にとっては、参観授業選択の自由度を狭められている。

また、この時間帯の実習科目以外に公開する授業が無い場合、参観者を得ることが難しい（長時間である、課題作品のプレゼンテーションなどがなく、ただ制作だけの時間では参観者に資するところが極めて少ない、などの理由による）。しかしながら、時間割に4 コマ連続の実習が存続する限り事態は大幅には好転しないものとも予想できる。

提出されたレポートを見る限り、今回も授業参観により参加教員個々にはそれぞれに得るところが多々あったと推測されるが、今後とも同じ形式の繰り返しでは、授業参観に依って得るところは急速に逡減・飽和していくとも予想される。しかしながら、レポートを通じて具体的な改善を提起する意見は得ることができなかった。

また、教員による授業改善と同時に、授業に参加・出席すること自体に対して学生がより真摯になるような意識改革あるいはモチベーションの涵養をこそFD 活動の眼目とすべし、と訴える意見もあったが、傾聴に値する見解であると思われる。

表 2.2-3 公開授業と参観の概要(デザイン学部)

| 公開対象の授業科目         |      |           | 参観教員数 |      |     |    |       |      |     |
|-------------------|------|-----------|-------|------|-----|----|-------|------|-----|
| 科目名               | 授業形態 | 公開教員      | 計     | 分類法A |     |    |       | 分類法B |     |
|                   |      |           |       | 教授   | 准教授 | 講師 | 助教/助手 | 学科内  | 学科外 |
| 【デザイン工学学科教員による科目】 |      |           |       |      |     |    |       |      |     |
| 建築デザイン論           | 講義   | 山田        | 2     |      | 1   |    | 1     | 2    |     |
| プロダクトデザイン実習Ⅰ      | 実習   | 森下        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| 生物と環境             | 講義   | 伊藤        | 1     | 1    |     |    |       | 1    |     |
| 建築デザインゼミナール       | 演習   | 太田        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| デザイン分析            | 演習   | 奥野        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| タイポグラフィⅠ          | 演習   | 小野        | 1     | 1    |     |    |       | 1    |     |
| 基礎ドイツ語Ⅰ           | 演習   | 子野日       | 1     |      | 1   |    |       |      | 1   |
| 図学                | 演習   | 中西(勝)     | 0     |      |     |    |       |      |     |
| プロダクトデザイン実習Ⅲ      | 実習   | 村木        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| デザイン工学演習Ⅰ         | 演習   | 南川        | 1     |      |     |    | 1     | 1    |     |
| 英会話Ⅰ              | 演習   | ブルネリ      | 3     | 1    | 2   |    |       | 2    | 1   |
| 基礎フランス語Ⅰ          | 演習   | 瀧本        | 1     |      | 1   |    |       | 1    |     |
| 情報デザイン実習Ⅰ         | 実習   | 益岡<br>尾崎  | 0     |      |     |    |       |      |     |
| 設計製図5             | 実習   | 熊澤        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| 基礎韓国語Ⅰ            | 演習   | 朴         | 2     | 1    | 1   |    |       |      | 2   |
| プロダクトデザイン実習5      | 実習   | 三原        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| 小計                |      |           | 12    | 4    | 6   | 0  | 2     | 8    | 4   |
| 【造形デザイン学科教員による科目】 |      |           |       |      |     |    |       |      |     |
| グラフィックデザイン実習Ⅰ     | 実習   | 吉原        | 1     |      | 1   |    |       | 1    |     |
| テキスタイルデザイン実習Ⅰ     | 実習   | 草間        | 2     | 2    |     |    |       | 2    |     |
| セラミックデザイン実習Ⅰ      | 実習   | 大河内<br>作元 | 1     |      | 1   |    |       | 1    |     |
| セラミックデザインゼミナール    | 演習   | 久保田       | 0     |      |     |    |       |      |     |
| セラミックデザイン演習       | 演習   | 金丸        | 1     | 1    |     |    |       | 1    |     |
| 宣伝広告論             | 講義   | 桑野        | 1     |      |     |    | 1     | 1    |     |
| ITコンテンツデザイン特論     | 講義   | 嘉数        | 1     | 1    |     |    |       | 1    |     |
| 色彩学               | 講義   | 山下        | 4     |      |     | 1  | 3     | 4    |     |
| 繊維材料学             | 講義   | 難波        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| 景観原論              | 講義   | 児玉        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| 日本語表現法            | 講義   | 柴田        | 4     | 2    | 1   |    | 1     | 3    | 1   |
| 美術の鑑賞             | 講義   | 関崎        | 1     | 1    |     |    |       | 1    |     |
| 基礎英語Ⅰ             | 演習   | 長谷川       | 0     |      |     |    |       |      |     |
| 映像構成論             | 講義   | 北山        | 2     |      | 1   |    | 1     | 2    |     |
| グラフィックデザイン特論      | 講義   | 中西(俊)     | 4     | 1    |     | 2  | 1     | 4    |     |
| タイポグラフィⅡ          | 演習   | 野宮        | 1     | 1    |     |    |       | 1    |     |
| テキスタイルデザイン実習Ⅲ     | 実習   | 島田        | 0     |      |     |    |       |      |     |
| CG論               | 講義   | 八尾        | 3     | 1    | 1   | 1  |       | 3    |     |
| メディアコミュニケーション     | 演習   | 斎藤        | 2     | 1    | 1   |    |       | 2    |     |
| パッケージデザインⅡ        | 演習   | 西田        | 1     |      |     |    | 1     | 1    |     |
| 小計                |      |           | 29    | 11   | 6   | 4  | 8     | 28   | 1   |
| 総計                |      |           | 41    | 15   | 12  | 4  | 10    | 36   | 5   |

### 3. 授業評価アンケート

本学では、FD活動の一環として、平成15年度に授業評価アンケートを試行し、平成16年度より定期的（毎学期末）に授業評価アンケートを行っている。授業科目ごとの集計結果は各授業担当者にフィードバックし授業改善に活用してもらうとともに、これらのデータに基づいた評価尺度の妥当性・信頼性の検討、評価得点の経年変化の吟味など統計的分析も随時行っている（教育年報2004、2005、2006参照）。また、組織的（学科・コース・授業科目単位等）な教育改善の資料として用いられてもいる。ここでは、前年度の報告（教育年報2007）以降の平成19年度後期および平成20年度前期の授業評価アンケート結果の概要を述べる。

#### (1) 授業評価アンケートの実施方法・活用方法

原則として全授業科目（非常勤講師担当科目を含む）を評価対象とするが、学外実習をとともなう科目や履修者が10名未満の科目などは、本学統一様式によるアンケート対象からは除いた。アンケートは授業科目ごとに全受講生を対象として無記名・自記式（5段階評価、マークシート方式）で学期末に実施した。回収されたアンケートは評価委員会が集計し、後日、統計処理した資料を授業担当者に送付している。学部・学科・コース・授業科目によっては、これらの資料に基づいた授業改善策などの検討が行われている。

#### (2) アンケート集計結果の概要と課題

平成19年度後期の実施科目数は224科目（実施率97.8%、延べ実施教員数131名、延べ受講生数8,779名）、平成20年度前期の実施科目数は297科目（実施率99.0%、延べ実施教員数154名、延べ受講生数12,391名）であった。なお、実施教員数は授業担当代表教員でカウントしている。

アンケート項目は全体で15項目であるが、このうち「全般的な授業への満足度」との連関が強いものが表2.3-1に示す5項目（以下、主要5項目とする：共分散構造分析による推定結果、教育年報2004参照）である。

平成19年度後期および平成20年度前期に実施した授業評価アンケートの結果（主要5項目の平均評価点の分布）を図2.3-1に示す。前回報告した平成18年度後期および平成19年度前期の主要5項目の平均得点と標準偏差はそれぞれ3.77（SD=0.43）、3.75（SD=0.43）であったが、今回の平均得点、標準偏差ともほぼ同じ結果であった。



表 2.3-1 授業評価アンケート主要 5 項目

- 
- 問 1 受講して、知的刺激を受けましたか  
 問 2 真剣に受講しましたか  
 問 7 教員の熱意が感じられましたか  
 問 8 学生の理解度に注意していましたか  
 問 10 授業の進め方は丁寧でしたか
- 

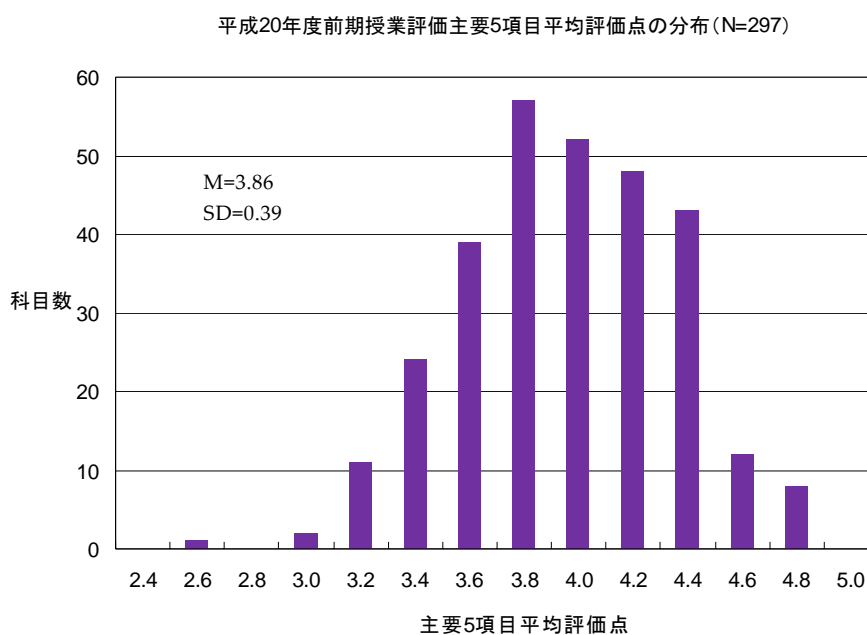
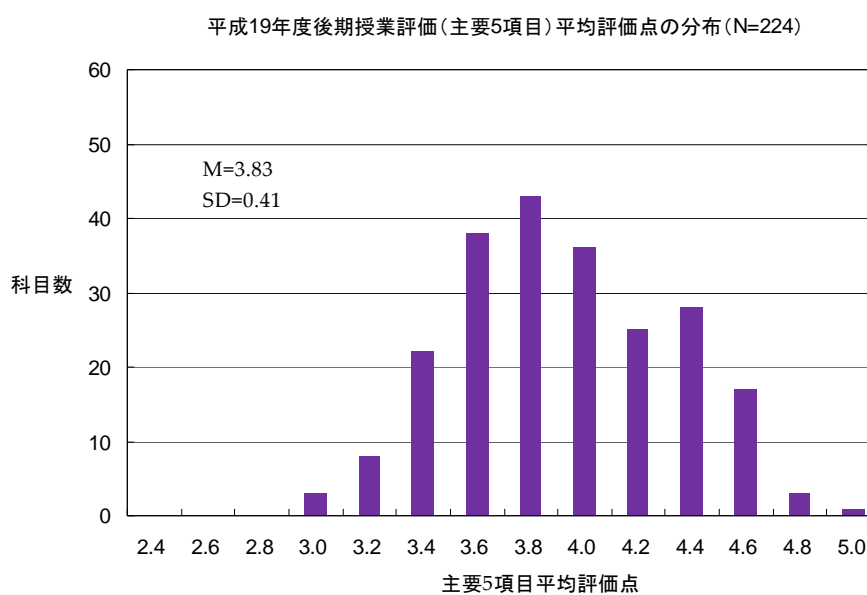


図 2.3-1 授業評価アンケート（主要 5 項目）平均評価点の分布

表 2.3-2 平成 19 年度後期・授業評価の項目別回答分布（単位：％）と評価点

（注：項目の＊は主要 5 項目を示す）

平成 19 年度後期・全学教育科目（69 科目）授業評価の項目別回答分布（単位：％）と評価点

| 項 目                    | ← 否定 肯定 → |   |    |    |    | 評価点 |
|------------------------|-----------|---|----|----|----|-----|
|                        | 2         | 5 | 31 | 38 | 25 |     |
| 1 受講して、知的刺激をうけましたか *   | 2         | 5 | 31 | 38 | 25 | 3.8 |
| 2 真剣に受講しましたか *         | 2         | 6 | 32 | 36 | 23 | 3.7 |
| 3 シラバスにそった授業でしたか       | 1         | 3 | 39 | 36 | 22 | 3.7 |
| 4 教員の声、話し方は適切でしたか      | 2         | 6 | 26 | 34 | 33 | 3.9 |
| 5 板書等の書き方や文字は見やすかったですか | 3         | 9 | 32 | 29 | 27 | 3.7 |
| 6 重要なところを強調してくれましたか    | 1         | 6 | 29 | 33 | 31 | 3.9 |
| 7 教員の熱意が感じられましたか *     | 1         | 4 | 26 | 33 | 37 | 4.0 |
| 8 学生の理解度に注意していましたか *   | 2         | 8 | 35 | 33 | 22 | 3.6 |
| 9 予習・復習を促す配慮はされていましたが  | 2         | 8 | 40 | 30 | 20 | 3.6 |
| 10 授業の進め方は丁寧でしたか *     | 1         | 5 | 31 | 35 | 28 | 3.8 |
| 11 授業の準備は十分されていましたが    | 1         | 4 | 29 | 34 | 32 | 3.9 |
| 12 学生の質問にきちんと対応していましたか | 1         | 4 | 30 | 34 | 31 | 3.9 |
| 13 私語等に対する配慮は適切でしたか    | 2         | 6 | 36 | 34 | 23 | 3.7 |
| 14 教室等の状態や学生数は適切でしたか   | 2         | 6 | 28 | 32 | 32 | 3.9 |
| 15 総合的に判断して授業に満足しましたか  | 2         | 5 | 27 | 36 | 31 | 3.9 |

平成 19 年度後期・学部教育科目（155 科目）授業評価の項目別回答分布（単位：％）と評価点

| 項 目                    | ← 否定 肯定 → |   |    |    |    | 評価点 |
|------------------------|-----------|---|----|----|----|-----|
|                        | 1         | 3 | 25 | 39 | 32 |     |
| 1 受講して、知的刺激をうけましたか *   | 1         | 3 | 25 | 39 | 32 | 4.0 |
| 2 真剣に受講しましたか *         | 1         | 4 | 27 | 38 | 30 | 3.9 |
| 3 シラバスにそった授業でしたか       | 1         | 3 | 37 | 36 | 23 | 3.8 |
| 4 教員の声、話し方は適切でしたか      | 1         | 5 | 28 | 36 | 29 | 3.9 |
| 5 板書等の書き方や文字は見やすかったですか | 2         | 9 | 35 | 32 | 22 | 3.6 |
| 6 重要なところを強調してくれましたか    | 1         | 5 | 28 | 38 | 28 | 3.9 |
| 7 教員の熱意が感じられましたか *     | 1         | 3 | 28 | 35 | 33 | 4.0 |
| 8 学生の理解度に注意していましたか *   | 2         | 8 | 35 | 33 | 22 | 3.6 |
| 9 予習・復習を促す配慮はされていましたが  | 1         | 6 | 42 | 31 | 19 | 3.6 |
| 10 授業の進め方は丁寧でしたか *     | 2         | 5 | 33 | 35 | 25 | 3.8 |
| 11 授業の準備は十分されていましたが    | 1         | 4 | 31 | 34 | 31 | 3.9 |

|                        |   |   |    |    |    |     |
|------------------------|---|---|----|----|----|-----|
| 12 学生の質問にきちんと対応していましたか | 1 | 3 | 30 | 34 | 32 | 3.9 |
| 13 私語等に対する配慮は適切でしたか    | 1 | 4 | 38 | 34 | 23 | 3.7 |
| 14 教室等の状態や学生数は適切でしたか   | 1 | 6 | 30 | 32 | 30 | 3.8 |
| 15 総合的に判断して授業に満足しましたか  | 1 | 4 | 27 | 36 | 32 | 3.9 |

表 2.3-3 平成 20 年度前期・授業評価の項目別回答分布（単位：％）と評価点

（注：項目の＊は主要 5 項目を示す）

平成 20 年度前期・全学教育科目（87 科目）授業評価の項目別回答分布（単位：％）と評価点

| 項 目                    | ← 否定 肯定 →            |    |    |    |    | 評価点 |
|------------------------|----------------------|----|----|----|----|-----|
|                        | 1 受講して、知的刺激をうけましたか * | 2  | 6  | 32 | 40 |     |
| 2 真剣に受講しましたか *         | 1                    | 5  | 34 | 39 | 21 | 3.7 |
| 3 シラバスにそった授業でしたか       | 1                    | 3  | 40 | 37 | 20 | 3.7 |
| 4 教員の声、話し方は適切でしたか      | 2                    | 7  | 28 | 34 | 29 | 3.8 |
| 5 板書等の書き方や文字は見やすかったですか | 3                    | 10 | 34 | 31 | 22 | 3.6 |
| 6 重要なところを強調してくれましたか    | 1                    | 6  | 31 | 36 | 26 | 3.8 |
| 7 教員の熱意が感じられましたか *     | 1                    | 4  | 28 | 35 | 32 | 3.9 |
| 8 学生の理解度に注意していましたか *   | 3                    | 8  | 38 | 33 | 18 | 3.5 |
| 9 予習・復習を促す配慮はされていませんか  | 3                    | 11 | 44 | 27 | 15 | 3.4 |
| 10 授業の進め方は丁寧でしたか *     | 1                    | 6  | 33 | 37 | 23 | 3.7 |
| 11 授業の準備は十分されていましたか    | 1                    | 4  | 34 | 34 | 27 | 3.8 |
| 12 学生の質問にきちんと対応していましたか | 1                    | 4  | 35 | 34 | 27 | 3.8 |
| 13 私語等に対する配慮は適切でしたか    | 1                    | 7  | 40 | 32 | 20 | 3.6 |
| 14 教室等の状態や学生数は適切でしたか   | 2                    | 6  | 34 | 31 | 27 | 3.8 |
| 15 総合的に判断して授業に満足しましたか  | 1                    | 5  | 30 | 38 | 26 | 3.8 |

平成 20 年度前期・学部教育科目（210 科目）授業評価の項目別回答分布（単位：％）と評価点

| 項 目                    | ← 否定 肯定 →            |   |    |    |    | 評価点 |
|------------------------|----------------------|---|----|----|----|-----|
|                        | 1 受講して、知的刺激をうけましたか * | 1 | 3  | 24 | 39 |     |
| 2 真剣に受講しましたか *         | 1                    | 4 | 27 | 37 | 31 | 3.9 |
| 3 シラバスにそった授業でしたか       | 1                    | 2 | 34 | 37 | 26 | 3.9 |
| 4 教員の声、話し方は適切でしたか      | 1                    | 5 | 26 | 37 | 31 | 3.9 |
| 5 板書等の書き方や文字は見やすかったですか | 2                    | 8 | 33 | 34 | 24 | 3.7 |
| 6 重要なところを強調してくれましたか    | 1                    | 4 | 26 | 38 | 32 | 4.0 |

|                        |   |   |    |    |    |     |
|------------------------|---|---|----|----|----|-----|
| 7 教員の熱意が感じられましたか *     | 1 | 3 | 24 | 36 | 37 | 4.0 |
| 8 学生の理解度に注意していましたか *   | 2 | 6 | 33 | 35 | 23 | 3.7 |
| 9 予習・復習を促す配慮はされてきましたか  | 2 | 6 | 39 | 32 | 21 | 3.6 |
| 10 授業の進め方は丁寧でしたか *     | 1 | 4 | 32 | 36 | 27 | 3.8 |
| 11 授業の準備は十分されてきましたか    | 1 | 3 | 28 | 35 | 33 | 4.0 |
| 12 学生の質問にきちんと対応していましたか | 1 | 3 | 27 | 35 | 34 | 4.0 |
| 13 私語等に対する配慮は適切でしたか    | 1 | 4 | 36 | 34 | 25 | 3.8 |
| 14 教室等の状態や学生数は適切でしたか   | 1 | 4 | 27 | 33 | 35 | 4.0 |
| 15 総合的に判断して授業に満足しましたか  | 1 | 3 | 25 | 37 | 33 | 4.0 |

授業評価アンケート全 15 項目の回答の分布状況と評価点の概要を示したものが表 2.3-2 および 2.3-3 である。全学教育科目と学部教育科目は群を分けて表示している（視覚化のために 25%以上の数値は太字にしてある）。

主要 5 項目のうち「7 教員の熱意」は何れのアンケートでも最上位の評価を得ているが、「8 学生の理解度への注意」は下位にあり、この様相は従前のアンケート結果と変わりはない。全学教育と学部教育では若干異なるが、その他の項目も従前の調査結果と同様の傾向にあった。教員は熱意を持って授業を行っている（「7 教員の熱意」）が、「8 学生の理解度への注意」や「9 予習・復習を促す配慮」、「5 板書等の書き方」にはやや不満足感がある。全国的に学生の学力低下が問題視されているなか、学生の学力や就学態度に考慮した授業改善が求められているのかもしれない。

ここでは個々の授業科目の評価資料は割愛するが、それぞれの授業評価アンケートの結果は、各授業担当者にとっては受講生がどのように認識していたかを客観的に知り得る資料といえる。授業担当者はもちろんのこと、学部・学科・コース・授業単位で、また大学全体としても、授業評価の結果を真摯に受け止め、さらなる授業改善に努めることが望まれる。

#### 4. FD 講演会

平成 20 年度は新しい取り組みとして外部の講師を招聘し、先進的な取り組みをしている大学の FD 活動を学習し、本学の FD 活動のあり方を検討する契機とした。同時に、これまで相互授業参観をもとに授業の改善を図ってきたが、専門的な立場から効果的な授業の進め方について学習した。

## (1) 愛媛大学 FD 活動の取り組み

講師：小林直人先生（愛媛大学医学部総合医学研究センター長）

日時：平成 20 年 9 月 30 日 10 時 30 分～12 時

出席者：学長を始め、評価委員会委員・学科長・FD 部会委員 25 名を対象とし、20 名が参加した。

愛媛大学は教育・学生支援機構教育企画室を中心とする FD ならびに SD (Staff Development) 活動で知られており、読売新聞による「大学の實力『教育力向上への取り組み』調査 西日本編」において「FD に関する取り組みでモデルにしている、または参考にしている大学」の第 1 位に取り上げられている。講師の小林先生は、愛媛大学大学院医学系研究科医学教育学分野の教授で、愛媛大学医学部総合医学研究センター長で、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室研究員を兼務されている。

講演は愛媛大学が取り組んでいる活動について、FD/TAD ガイドブック 2008 を参考資料として進められた。

愛媛大学の FD は、授業・教授法改善とカリキュラム改善、そして組織整備・改革の三者で構成されている。すなわち、「教育・学習効果を最大限に高めることを目指した、授業・教授法の改善、カリキュラムの改善、組織整備・改革に関する教員ならびに組織的取組」である。こうした視点は、自らの組織の FD をより効果的なものにするための方策であり、ミクロレベル、メゾレベル、そしてマクロレベルをもとに体系的な取り組みがなされている。前述した授業・教授法改善とカリキュラム改善、組織整備・改革の三者がそれぞれを構成していることが紹介され、ミクロレベルの授業・教授法改善についての系統性のある能力開発プログラムの概要についても触れられた。一方、FD 活動を推進する組織についても説明があり、教育企画室は 6 名で構成されており、その内 2 名は常勤の職員である。なお、FD 活動は教員のみが担うものではなく、職員及び TA の参加の意義についても指摘された。

小林氏は単に話を聞くだけでなく、自らが主体的に FD 活動にかかわる重要性を強く指摘し、その一例として、教員参加型のグループワークが行われた。グループワークでは、「文殊カード」を使用し、参加者 3 名のグループを作ったうえで、与えられた質問（今回は本学の FD 活動を進める上で大切なこと）に対する回答を文殊カードに書き出していった。まず一人目が文殊カードに自身の考え方を書き込み、次に一人目の意見を読んだ上で二人目、そして三人目と順に同一の質問に対する考え方を書き出していくものであった。他者の意見を知り、自分の意見を述べることにより、新たな視点を見つけることが出来る方法であった。同時に与えられた課題に対し、多くの意見が提示されることにより多角的な見方を学ぶと共に、共通の視点から異なる（もしくは新たな）考え方が提示されるなど、参加者相互の交流を深めつつ、効果的な課題解決の方向性を探る方法であった。本講演で結論を得るというよりも、主体的な参加と相互理解、多角的な視点を学ぶ機会であった。

## (2) 効果的な授業の進め方

講師：小林直人先生（愛媛大学医学部総合医学研究センター長）

日時：平成20年9月30日 14時20分～15時50分

出席者：全学教員対象とし、62名（情報工学部21名、デザイン学部10名、保健福祉学部30名、学長）が参加した。

本講演会では、「学生中心の大学」を実現するための“良い授業”ができることを目的とし、授業に必要な要素である「コンテンツ」「スキル」「タレント」を中心に、その効果的な進め方に関する講演であった。

講演内容としては、まず導入として「〇×テスト」を行った。具体的には、「授業では、教科書で不足する部分を講義するのが良い」「板書は書いた順番に消していく必要がある」「授業のプリントは重要な用語が列挙されているのが良い」「授業のプリントは冒頭に配布しておく必要がある」「学生とのコミュニケーションは小教室ならでは」「どの学生でも分かるようなことは質問しない」など計10の設問に回答し、これを足掛かりとして“良い授業とは何か”について理解を深めていった。小林氏によれば、「良い授業」とは“わかりやすく”“知的な緊張感があり”“学生が参加する（あるいは参加した気にさせる）”授業であるという。こうした授業を展開するためには、まず教員が“様々な授業スキルを実際の体験を通じて習得し、習得したことを自分の授業に生かす”ことが大切である。

もちろん、授業スキルには、必ずしもこうすれば良いといった画一的なものはないが、小林氏は、実際の授業スキルとして、授業を円滑に進める「板書」「プリント」「コミュニケーション」の3つの効果的なテクニックを取り上げ、それらについて具体的な事例にもとづきその技法や展開方法を紹介された。たとえば、学生が挙手しにくい場合への対応方法として、色紙や教科書を使ったテクニック（コミュニケーション・カード）、すなわち「はい」か「いいえ」の2択の質問をする場合にどちらか一方に挙手をさせるのではなく、全員に挙手をさせる方法を取り、質問への参加に対する抵抗感を軽減する方法、マイクと肉声による声質の違いを考慮した発声・発話方法として、母音を“大きく”子音を“長く”発声するコミュニケーション技法等が紹介された。

この他にも教員の立ち位置として、教壇から一步前に立ち、学生との適度な距離感を生かした授業の展開方法、さらには学生たちと同じ目線で自身の授業状況を把握し、板書や授業の進捗状況を確認する方法等、実にさまざまなテクニックが紹介された。なお、当日の配布資料では、『板書のテクニック』として「大きな字で丁寧に書くこと」「同じ方向で書き進めること」「板書を写す時間をとること」「キーワードなど常に消さないでおく項目の書き方」が紹介されており、同様に『プリントのテクニック』では「教育効果によって配布時期を変えること」「内容や難易度に合わせた項目の設定」「穴埋め問題を作成し、授業に集中させること」「図表のみによるプリントは復習できなくなること」、『コミュニケー

シヨンのテクニック』では「学生への質問方法（ランダム、徐々にレベルアップ、肯定する）」「コミュニケーション・カード」「Think, Pair, Share!（考えさせる質問など）」「小グループワーク（付箋紙や文殊カードの活用）」「ミニ・レポート」「小テスト（出席チェックを兼ねる）」等が紹介されていた。いずれの方法についても、学生が適度に緊張感をもちながら授業への参加意識を高めるための効果的なテクニックであり、“良い授業”に必要な3つの要素のうち、「スキル」を中心としてさまざまな知見が提供された。

他方、単に小林氏による話題提供のみならず、教員参加型のグループワークも行われた。グループワークでは、付箋紙による「文殊カード」を使用し、教員による3名～5名程度のグループを作ったうえで、与えられた質問（ここでは、授業スキルに関する質問）に対する回答を文殊カードに書き出していった。たとえば、『プリントで重要な部分を伝えるためにはどうするか』といった質問に対しては、まず一人目が文殊カードに自身の考え方（テクニック）を書き込み、次に二人目、三人目と順に同一の質問に対する考え方を書き出していくものであった。いわゆるブレイン・ストーミングにおけるスリップ・ライティングともいえる方法で、グループ全員の授業スキルや知識の共有化を図る非常に有意義な試みであった。また、本グループワークでは、一人目の回答の如何により、共通の視点から異なる（もしくは新たな）授業スキルが提示されるなど、単に他の教員から授業スキルを学ぶのみならず、教員間の相互交流を深めつつ、効果的な授業スキルを獲得する良い機会となった。

最後に、小林氏自身が気をつけていることとして、導入で用いた10の設問について、たとえば「授業は、教科書では不足する部分を講義するのが良い」に対する同氏の考えとして、“キーワードは少なくすること”“内容は盛り込みすぎないこと”“重要なところ、わかりにくいところ、間違いやすいところを講義すること”等が提示され、同時に上記内容のみでは不足する部分を“配布物や副読本を充実させること”で対応するといった方法が語られた。

全体を振り返ってみると、本講演会は、教員が“効果的な授業”を展開するために必要なスキルを身につけると同時に、これまでとは異なるFD活動専門の講師からの新たな刺激を受けたことによって、教員間のFDあるいはSD（Staff Development）活動に対する理解および意識変革に役立ったものと考えられる。こうした全学的な取り組みは、新たな実践への示唆が得られる希少な機会のひとつでもあり、従来の授業参観や授業評価とは異なる価値がそこに見出せたものといえよう。

FD部会委員の学外研修は次の通りである。

#### シンポジウム 日本のFDの未来—Building the Core in Faculty Development—

日時：2009年1月24日～25日

場所：京都大学芝蘭会館

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

参加者：迫明仁 金川明弘

本シンポジウムは、国内外から FD ネットワーク構築を推進するパネリストを招き、理論・実践技術面での現状と課題を共有することで、FD の未来を展望しようとするものである。シンポジウムは2日にわたり行われ、第1日目（1月24日）に基調講演とセッション1が、また第2日目（1月25日）にセッション2と3、及び総括が行われた。以下、順次その内容を報告する。

基調講演はカーネギー教育振興財団・上級研究員のメアリー・テイラー・ヒューバー博士による「高等教育における Teaching Comments の構築」である。学生の多様化の進行、新しいコミュニケーション技術の登場や教育の優先順位の変化などに直面したとき、教員は自分の得た知見を同僚たちと共有し始める。それは高等教育を改善に導く潜在的可能性をもっている。これに対して、大学教員レベルでは“Teaching Commons”の出現と展開が見られている。“Teaching Commons”とは、教授法の研究と改革に取り組む教育者の共同体が、日々変化する個人的、職業的、市民的な生活に向けて学生たちを準備させるという課題に 대응していくために、教授と学習にかかわるアイデアを交換し利用しあう概念空間である。この基調講演では、この“Teaching Commons”の展開、およびその特徴や要素について、さらには教授と学習の進歩のために、“Teaching Commons”を活力があり開かれた生産的な環境として構築し維持してゆく必要性が力説されていた。

セッション1のテーマは「FD ネットワークの構築」であり、講演者はインディアナ大学コミュニケーション・カルチャー学科上級講師のジェニファー・メタ・ロビンソン氏、山形大学高等教育企画センター教授である小田隆治氏、そして京都大学高等教育研究開発推進センター教授の松下佳代氏である。このセッションでは、FD 活動の成果を複数の大学で共有することにより相互推進を図る手法がテーマとなる。

ロビンソン氏の講演の題目は「教授と学習を支援する教員探求ネットワークの構築」である。

氏はインディアナ大学上級講師であると同時に International Society for the Scholarship of Teaching and Learning (ISSOTL) の会長でもある。氏の講演は自学のインディアナ大学における FD ネットワーク構築の概要である。米国の大学には、教員に対しより良いテストをデザインする方法やディスカッションの改善、学習重視の講義といった、日々のより効果的な教授法の支援する「教授センター」なる組織が存在する。しかしこれが必ずしも有効に機能せず、近年再構築の必要性が言われたしてきた。その理由は、これらのコンサルテーションは、その教員の同僚に自身の授業を手直しする理由があるということを感じられないようにする心理が働くからである。インディアナ大学では教授と学習に関する固有の問題を集団的に探求するための同僚ネットワークを創り出す。すなわち、大学教員・大学院生・教授支援スタッフからなる中核としての教授センターを再構築した。氏の講演には人間相手ゆえの苦労話がふんだんに盛り込まれており、興味深いものであった。

小田氏の講演題目は「地域の FD ネットワーク“樹氷”から拡大された FD ネットワーク



“つばさ”へ」である。山形大学は90年代より各学部でFD活動が活発であった。それが2000年ころから全学共通教育に広がり、2004年、現代GPの支援を受けて、山形県内6大学・短大のFDに特化した地域ネットワークFD“樹氷”を立ち上げた。その取組みの内容は、①統一フォーマットによる「学生の授業評価」の実施、②「公開授業と検討会」への他大学の学長や副学長の参加、③各大学の特性に合わせた「FDワークショップの実施」、④山形大学の「FD合宿セミナー」への参加、⑤「学生FD会議」による学生の連帯と声の聴取、⑥「合同FD会議」による見直しである。“樹氷”の成功を受けて2008年ネットワークの規模を東日本に広げた“つばさ”の構想が発表された。その特質として、①“樹氷”で培ってきた大学間連携FDを県外の大学等に拡大できる、②受験生確保が競合しない遠隔大学間で協調できる、③大規模なネットワークによって、共有できる教育資源を増やすことが可能、④専門性が合致する大学間でFDを発展させることが出来る、という点である。“つばさ”は発足して間もなく、まだ評価を受けるに至っていないが、このようなFDネットワークを構築する具体的な例を聞いたのは貴重な体験であった。

松下氏の講演は「多層的なFDネットワークの構築」であり、その内容は、1)FDネットワークの構想と背景、2)FDの再概念化とフレームワーク、3)FDネットワークの構築と拠点形成、4)事例、5)今後の課題、という構成である。1)の内容として、2008年からの「FD義務化」と我が国における高等教育機関の現状（特に経営面）を、少子化傾向と関連付けて説明があった。2)として従来のFDがマンネリに陥り、形骸化している大学等がみられると指摘し、再構築の必要性が説かれた。3)としてFDネットワークの4つのレベルが示された。それは①学内レベル、②地域レベル、③国レベル、④国際レベルというものである。これらは同心円の拡大ではなく、それぞれに固有の構造と課題がある。①として京都大学FD研究検討委員会の例が示された。②としては、関西地区FD連絡協議会が紹介され、FD情報支援、FD共同実施、FD連携企画、広報、研究の5つのワーキンググループの活動が報告された。③として、大学教育研究フォーラム、FDネットワーク代表者会議(JFDN)等の紹介があった。④としては、類似の理念をもつ海外の高等教育機関との交流・連携が示された。4)として地域レベルでのFDネットワーク構築の事例が挙げられた。5)今後の課題として、競争と連携・共同の調整の問題、FDネットワークの持続・維持の困難さが取り上げられた。

セッション2「テクノロジー利用によるFD」では、3名のパネリストの発表とディスカッションが行われた。

飯吉透氏（マサチューセッツ工科大学）の発表は、FD活動におけるWebテクノロジーの活用とその課題についてであった。高等教育における「教えと学びに関する知識」の共有化・視覚化のために、カーネギー教育振興財団知識メディア研究所が中心となって開発を進めているWebベースの環境群の開発プロセスとそれぞれの概要が紹介された。KEEP Toolkitは教員・学生の各種資料の共有の場（ポートフォリオ）として用いることができる

ものであり、また Carnegie Workspace は主にプロジェクトの情報収納庫やピアレビューの場として、Gallery of Teaching and Learning は豊富な教育実践事例などを提供する場として、Teaching and Learning Commons は「教えと学び」に関するオープンフォーラムを提供する場として構築されている。これらの環境を通じて、教員個人、大学組織、関連機関が相互にかつオープンに取り組むことが高等教育改革につながるであろうと述べられた。

フランク・プロチャスカ氏（ノースカロライナ大学）は米国の大規模校である同大学（17キャンパス、学生20万人、教員1.1万人）で行われている様々な教育改革プロジェクトとFDの現状について報告された。

その内容は、1)「授業再設計プロジェクト」の制度を立ち上げ、アクティブラーニング（ICTを活用する学習）のための授業の再構築（教員の支援や資金提供）を行っている。2) 同期的学習マネジメントのプロジェクトでは、Web環境上にバーチャルオンライン教室を展開し、遠隔地教育に活用している。3) 学習コンテンツリポジトリを他大学と共同で試験運用している。これには幼稚園レベルから大学レベルの広範囲の学習コンテンツが含まれている。その他、4) 教育・学習技術会議や、5) FD・SDのためのオンラインリソースの整備などが行われている、というものであった。大学の規模からいえば本学とは大きく異なるが、教育改革の将来像の一つの方向を示唆しているともいえる。

酒井博之氏（京都大学）の話題提供は、同大学高等教育研究開発推進センターが展開している「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」プロジェクトについてであった。

主な内容は、1) Webサイト「大学教育ネットワーク」を通じた大学授業実践や関連研究の紹介、討論など、2) 他大学と共同するオンライン授業公開・討論システムの開発、3) 飯吉氏の話題にあったKEEP Toolkitの日本語版の開発、4) オンラインFD活動と対面型FD活動の効果的な運用の問題、の4点であった。フロアーからは、このプロジェクトを積極的に進めて他大学にも普及させてほしいとの意見も出された。

セッション3は、「FDの推進主体を問う」と題して、3氏の話題提供と意見交換が行われた。

メアリー・T・ヒューバー氏（カーネギー教育振興財団）はFDの専門家（ファカルティデベロッパー）の役割について述べられた。米国でもSoTL（Scholarship of Teaching and Learning：教授・学習に関する学識）に関する専門的な研究・開発の歴史は浅く、大学教員も従来それらを探求してこなかった。氏は、FDのためには教授・学習センターのような組織・体制を確立し、ファカルティデベロッパーは教員を支援し、新しいカリキュラム、新しい評価法、新しい教授法などを教員と一緒に（パートナーとして）探り、作り上げていくという、専門的開発に取り組む専門家であると提言した。

佐藤浩章氏（愛媛大学）は我が国では数少ないFD推進専門教員としての立場から、同大学のFD推進体制を紹介しつつ、各教員、学部教育責任者、大学教育責任者、FD専門教員（ファカルティデベロッパー：教育・学生支援機構教育企画室スタッフ）の役割と協働

関係について紹介された。また、FD の推進主体は教員であるが、教務委員会や評価委員会、教授会といった組織の関わりが不明瞭で、ややもすると形式主義的な FD 活動になりがちである。ファカルティデベロッパーはそれらの関係を有機的に結びつけ、FD 活動を発展させる役割を担う立場にある、という紹介がなされた。ただ、他の大学において愛媛大学モデルが適用できるかは検討が必要とのことであった。

大塚雄作氏（京都大学）は、大学設置基準にある「大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」の「組織的」の意味を吟味することから話題提供を始められた。

（本学でもそうであるが）「組織的」に FD 研修会や授業評価を行っているが、さらに深化させて学部・学科、教科目、学生（学士力）の多様性などに対応した「実質的」FD につなげるには、同じ課題を抱える教員同士の FD 活動が必要になると考える。これが「相互交流型 FD」である。さらにその小さな単位を拡大して FD の知見を共有する共同体作り、ネットワーク化が求められる。そのためのツールとしてセッション 2 で提案・議論された組織のあり方、ICT 活用技術などの整備が欠かせない、という趣旨が話された。「FD の主体」については、佐藤氏との間で、目的論は一致でも方法論で多少の相違がみられた。

本シンポジウムの内容は、日本および米国の先進的な取り組みが中心であった。本学と話題提供された大学の規模や組織体制に大きな違いがあり、即座に本学の FD 活動に導入できるものではないが、検討に値する内容は多かった。本学の FD 活動のビジョンを策定する際の大きな示唆を得たといえる。

#### 公開研究会 授業評価から FD 評価へ

日時：2009 年 3 月 19 日

場所：京都大学国際交流センター

主催：関西地区 FD 連絡協議会

参加者：肥後すみ子

企画者の当初の計画では 100 名程度の規模で開催する予定であったが申込者が多く、当日の参加者は約 200 名であった。開催形式はパネル形式で 4 名のパネラーから話題提供があり、その後、ディスカッションに入った。それぞれのパネラーからの話題提供は以下の内容であった。

#### 話題提供 I：授業評価研究の新たな地平を探る

「授業評価の性質と今後の活用」：安岡高志（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

話題提供の主要な項目は、①授業評価の性質、②目標設定、③学生が身につけるべき 3 つの目標等であった。

まず、①授業評価の性質では、これまでの調査で以下のことを明らかにされていた。

- ・ 学生の成績や在学年数，学問的能力と授業評価の結果とは無関係である．
- ・ 文系教員よりも物理学科教員のほうが低く評価される．
- ・ 研究と教育は表裏一体で研究能力と授業評価は無関係である．
- ・ 教員の年齢とともに評価は低くなる．

教員の年齢別評価では，30歳代と60歳代の授業評価の比較から60歳代の教員は学生の理解に合わせることで，板書，授業への学生参加，話し方の項目が特に低く評価されていることは興味深かった．

②目標設定では，教育改革を行う前に検討すべき内容として具体的目標の設定，行動目標について共通認識の決定，評価指標の決定，評価基準を設定があげられていた．そしてこれらの目標を達成するための大学側の条件としては，ビジョンを描けること，全組織員が参加できること，日常の努力の積み重ねを行うことであった．とにかく教員が「やってみようと思える！」，元気のでる内容であることが大切である．

③学生が身につけるべき3つの目標では，卒業までの知的発達の推進，社会で活用できる知識とスキルの習得，科目の理解と必要なスキルの習得である．社会で活用できる知識とスキルの習得に関しては，幅広い教養の習得やリーダーシップの取れる条件と躰であった．授業に遅れてきた学生には教員に対して「授業に遅れてすみません」と，学生の皆に対しては「皆さん，迷惑をかけてすみません」ときちんと躰けることも必要であるということであった．私の授業でも遅刻する学生はいるが，見て見ぬ振りをしていたことを反省しなければならない．

#### 「大学間連携による授業評価研究に意義」：米谷淳（神戸大学 教育推進機構 教授）

話題の主要な内容は，神戸大学での大学教育推進機構の発展のプロセスと教育推進機構の概念図の説明，これまで企画・実施したFD研修会の紹介，海外での大学評価・大学改革の実践例が紹介された．神戸大学での大学教育推進機構のFD活動としては，平成20年度の場合，新任教員研修，FD講演会，ピアレビューウィーク，教育部会単位の外部評価が実施された．新任教員研修では，授業評価と自己点検・自己評価およびシラバスの作成，学習支援を実施していた．ピアレビューウィークは本学も実施している項目であるが，神戸大学では実施後に関係者による意見交換会が行われていたがその成果は言及されなかった．本学では参観教員からレポートを提出してもらっているが，意見交換会はどのように企画し，どのような成果を得ているか興味あるところである．

海外での大学評価・大学改革の実践例では，オーストラリアにあるキャリック高等教育学習教授研究所，メルボルン大学の活動が紹介された．オーストラリアでは全ての大学（約40校）が国からの義務として統一した様式で授業評価と卒業生進路調査を実施しているとのこと．集計結果は，大学のランク付けや研究・教育費の配分の資料に活用されているということであった．

## 話題提供Ⅱ：実質的FDに向けての評価のあり方を問う

「自らの教育活動にとっての授業評価の価値」：栗田佳代子

（大学評価・学位授与機構・評価研究部 准教授）

要旨は、”授業評価は大学教員の教育活動の重要なエビデンスの一つである”とし、そのためには教員の主体性、組織における共通理解と仕組、および支援体制が必要であるということについて話題提供があった。主要な項目としては、①授業評価結果の活用方法、②現状の問題点、③教育活動を示す意義、④ティーチング・ポートフォリオの活用等に関して説明があった。

①授業評価結果の活用方法に関しては、

- ・大学全体：大学としての施設設備の評価、総合的な満足度、外部評価・第三者評価
- ・学部/学科/コース：カリキュラムの検討、科目間の連携、下部組織総体としての評価
- ・教員：教育改善のための基本データ、教育活動のエビデンス

の3段階（大学全体、学部/学科/コース、教員）で考えられる。授業評価結果は多くの場合、個々の教員へフィードバックされているが、大学全体あるいは学部/学科レベルで広い視野にたつて検討する視点が明らかにされたということである。広い視野にたつということは、教員間の風通しの良いコミュニケーションが日常から重要であることが示された。

②現状の問題点に関しては、

- ・レベル別の授業評価の目的が明確でない。または周知されていない。
- ・活用を下部組織や教員個人の努力に委ねている。
- ・活用のモチベーションが低い。活用の仕方が分からない。

という問題が明らかにされ、これらの問題を解決するには、大学全体の共通理解と教員個人の意識変革が必要であることが強調された。

③教育活動を示す意義では、大学としての説明責任、カリキュラム策定の基本情報、教育業績の正当な評価、教員の教育者としての振り返りの4点にまとめられていた。これら4点は、授業評価結果の活用方法と関連付けられていた。

④ティーチング・ポートフォリオの活用では、その特徴と目的や構造について説明された。

「研究能力と教育能力の相互転移性」：羽田貴史

（東北大学高等教育開発推進センター 教授）

提示された資料に“・・・歪んだレンズと歪んだ水晶体を通して見る像は、やはり歪んでいるのではないだろうか”とあった。自分のレンズを見つめ直すこと、ときどき点検することが必要であるといっているようだ。

骨子は以下の2点であった。

①大学教育改善・改革は、様々な要因と条件で促進させるものであり、FD は重要であるが、唯一最大ではない。大学・学部・学科などの教育単位での教育改善の見取り図を作ることが重要である。そこで求められる大学教員の教育能力の定義を明確にする必要がある。

②評価によって教育を改善するには、ロジックモデルの構築が最優先課題である。評価を正しく位置づけるには評価の概念の見直しが必要である。

主要な項目として、①これまでの教育改革の取組、②FD 概念のとらえかた、③教育と研究の関連、④大学教員の能力開発についてであった。

はじめに、前任大学（福島大学）での教育改革（1980年代）の取組が紹介された。この時期の活動は、新しい教育実践の試み、カリキュラム改革と運営、組織改革、教育改革を支える調査研究等で、“FDという言葉はなかったが何でもあった”と述べていた。FDという言葉は1980年代にアメリカから移入されたが、FDとは本来は、授業改善だけでなく、研究を含む専門的能力全体、さらにカリキュラムなど組織的な教育改革を総称するものであった。しかし、本来の概念から狭められ、日本ではFD概念を教員個人（ないし集団）の教育改善とする理解が広まったという。

FDを教員の授業・教育改革と捉えると、教育研究の自律的な性格と組織的な教育改善との対抗関係が生じ、ジレンマが発生する。過去の教員調査によると、教育改善の方策としてFDは優先度が高くなかった。個人化されたFDが広がれば広がるほど、結果的に大学マネジメントが教育改革に責任を持たなくなる。従って、せめて、FDは「教育・研究を含む教員の全面的な能力開発」として用いるべきであると述べられていた。

③教育と研究の関連について重要と思われる内容が2点あった。1点目は、教育と研究の関係は内在的であるとともに、制度や組織の構造でも変わる。重要なことは大学教育として何が望ましいか、どのような能力を持った学生を育てるかによって（方針を）決定すべきである。2点目は、研究に結びつき、人類の知的文化を使いこなす人材を育てるために研究能力は大学教員の能力の中核である、という意見は刺激的であった。

④大学教員の能力開発について、教育能力は1回の講義をつつがなく実施するレベルから学科・学部の教育全体を構想するレベルまで階層性をもって授業設計ができることが必要である。全体を構想する力は、自分の専門をより広い視野で見直し、他分野との関係を問い直すことで学生の研究指導能力を身につける。教員の能力にはステージごとの構造があり、平均的には発展しない。授業遂行能力に特化したFDは生涯にわたってポテンシャルを維持できる力を育てるか疑わしい。そして、更に、日本の大学教員に欠けている視点の1つは、キャリア・ステージ論であるとのことであった。キャリア・ステージには、初期キャリア、中堅キャリア、指導キャリアがあり、各ステージの課題が明示された。

最後に、大学教員に必要な能力は「探究心 (inquiry)」であり、量的な研究業績では測定できないと強調されていた。そして、大学・大学院を通じて行われる教育訓練は、知の階層構造を上昇させる。大学教員になるということは、真の意味で知的創造者となり、学

問の自由を享受して学生を市民社会の担い手として育てる責任を負うことであり、FD は昨日の学生を明日の教員に育てることでもあると述べていた。

今回、公開研究会に参加して感じたことは、授業の腕を磨くということにとどまらず、FDは教育の原点に立ち返り、自分の教育観と自分の現在の授業を振り返る機会になった。そして今後、取り組むべき課題への示唆を得た。

## 5. 卒業時アンケート

本学では、平成 15 年度から、卒業時に「卒業時アンケート」を実施し、集計結果は毎年の「教育年報」に報告している。平成 18 年度には、過去 3 年間の集計資料に基づいた「卒業時アンケートの信頼性と妥当性」の検証を行い、アンケート項目の再構成を行った（検証の詳細は「教育年報 2006」を参照されたい）。

以下、平成 19 年度卒業時アンケートの集計結果の概要を述べる。なお、アンケート結果の詳細は付録 B に掲載している。

### (1) 平成 19 年度卒業時アンケート

卒業生全員を対象に、無記名・自記式によるアンケート（マークシート方式）を卒業式の直後に実施した。対象者数は 335 名で、回収数は 330 名分（保健福祉学部 131 名、情報工学部 115 名、デザイン学部 84 名）、回収率は 98.5%であった。

アンケート項目は、基本属性や全般的満足度のほか、「教養的成長」、「専門的成長」、「総合的成長」の 3 領域を問う合計 21 項目で構成されている。

### (2) アンケート集計結果の概要

表 2.5-1 は、アンケート項目を 3 領域の成長感と「全般的な満足度」に集約して、卒業生全体の回答の分布状況を示したものである。

表 2.5-1 アンケート結果の概要（卒業生全体の回答の分布状況、単位：％）

| 項目群            | ← 否定的回答      |      |       | 肯定的回答 → |       |
|----------------|--------------|------|-------|---------|-------|
|                | 教養的成長（問 4～8） | 2～6  | 6～16  | 35～49   | 31～43 |
| 専門的成長（問 9～12）  | 0～1          | 2～5  | 7～33  | 32～48   | 14～59 |
| 総合的成長（問 13～20） | 0～3          | 3～14 | 17～49 | 27～56   | 7～23  |
| 全般的満足（問 21）    | 1.5          | 5.2  | 17.0  | 49.2    | 27.1  |

## アンケート項目群

---

問 4～ 8. 次の全学教育科目群は、あなたの成長にどの程度意義がありましたか.

問 4. 「コミュニケーション（語学教育）」系は

問 5. 「人間と文化の理解」系は,

問 6. 「現代社会に生きる」系は,

問 7. 「科学技術と環境」系は,

問 8. 「健康の維持・増進（体育を含む）」系は,

---

問 9～12. 次の学部教育科目群は、あなたの成長にどの程度意義がありましたか.

問 9. 「学部教育への準備」系は

問 10. 学部教育科目の講義は,

問 11. 実験・実習・演習は,

問 12. 卒業研究は,

---

問 13～20. あなたが在学中に身につけた能力について尋ねます.

問 13. 社会の一員として生きる力は,

問 14. 基礎学力は,

問 15. 専門的な知識と技術の広がりは,

問 16. 創造的に考える力は,

問 17. 自らをみがき発展させる力は,

問 18. コミュニケーションの力は,

問 19. ソーシャルスキル・ビジネスマナーは,

問 20. 職業人（プロ）となる意識は,

---

問 21. 全体的に本学の教育は満足でしたか.

---

注) 各回答は5段階評価

本学での就学に関する「全般的な満足度（問 21）」については、否定的回答は7%程度で全体としては76%の卒業生が「やや満足」「大いに満足」と回答している。

学部や項目により多少の相違はあるが、本学の教育を通じての成長感を領域別にみると最も肯定的に捉えられているのが「専門的成長（学部教育及び「学部教育への準備」系、問 9～12）」である。学部教育科目群のなかでも、「実験・実習・演習」と「卒業研究」への満足度は高い。

一方、全学教育科目群（「学部教育への準備」系を除く）を通じての「教養的成長（問 4～8）」は否定的回答よりは肯定的回答の方が多いものの、3領域の中では評価が低く、学生の認識の中では、自己の成長に結びつけにくいようすが窺える。

「総合的成長（問 13～20）」の領域では、学部間や項目間の相違が比較的大きい（詳細は付録 B を参照）。「専門的知識・技術の広がり（問 15）」は身についたと感じている学生が多い一方、「ソーシャルスキル・ビジネスマナー（問 19）」に関しては他の項目に比べて評価がやや低い結果となっている。



## 第3章 外部評価

---

### 1. 保健福祉学部

#### 1.1 看護学科

看護学科は、平成21年11月30日に岐阜県立看護大学看護学部看護学科奥井幸子教授（AM9:00～PM1:00）と藍野大学医療保健学部看護学科中桐佐智子教授（PM1:00～4:00）より、外部評価を受けた。総評、基準及び基本的な観点に沿って質疑応答を行い評価者の意見を聞いた。概要は以下のとおりである。

#### 総評

認証評価における基本的なスタンスは、まず教育理念に沿った教育目的・目標が立てられていること、それを達成するための様々な取り組みが具体的に述べられていることが重要であり、記載内容に一貫性があるかが審査される。具体的には、カリキュラム構成やシラバスの内容、教員の研究内容、委員会活動など大学で実施していることの全てが含まれる。また自己点検自己評価では、点検し課題としてあげたことに対して、どのような改善策を立て、実施しようとしているかを具体的に示すことが重要である。内容をまとめるにあたっては、大学評価基準の11の基準一つ一つに立ち返って、現状を説明し、分析し、判断・評価した内容を記載していくことが重要であるので、提出された自己点検自己評価報告書ならびに各種資料は今後改善されることが必要である。大学評価基準に提示してある基本的な観点以外に大学として特に評価できる内容を書く場合は、連番の最後に番号を起こすなど番号の打ち方を工夫すると良い。別添資料については資料や冊子そのままをまとめて提示するより、文章中に資料の出典や図表を挿入し明示していくとわかりやすくなる。授業評価や卒業時アンケートなども実施されているようなのでそれらのデータをもっと活用し、自己点検の根拠として取り入れていくと良い。所々に学生や教員の名前の記述が見られるが、個人情報保護の観点から必要最低限にとどめるべきである。

#### 基準及び基本的な観点

##### 1) 大学の目的

大学は「人間尊重と福祉の増進」を基本理念に設立され、その目的は学則に述べられており、学校教育法の規定に合致している。大学院についても同様である。また目的は、大学概要やホームページなど多様な媒体を通し社会に広く公表されており評価できる。

##### 2) 教育研究組織（実施体制）

学科、大学院とも教育研究目的を達成するための適切な構成であると評価できるが、教務専門委員会やカリキュラム委員会などの活動実績があるので、組織構成の実施体制が明確に提示できる組織図や会議の開催回数、討議内容などを具体的に示すと良い。

### 3) 教員及び教育支援者

教員の定員は確保されているが、教授不在の講座があること、大学院を担当している教員が学部と兼務であることなどから実質的には定数不足が推測される。教員の採用基準や昇任基準は明確に定められ、それにしたがって運用されているが適切性に関する記述内容を追加した方が良い。教育上の指導能力の評価は、FD活動等で他教員の授業参観や学生による授業評価結果を各教員にフィードバックし、教育活動の改善に役立てるなどの取り組みが実施されているが、大学院課程においても検討されることが望まれる。

### 4) 学生の受入

学部、大学院におけるアドミッション・ポリシーは定められており、学生募集要項などで公表し周知されている。また高校生の大学訪問やオープンキャンパス等においても説明・周知に努めている。このアドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受け入れがどのようになされ、実質的に機能しているかについては具体的な取り組みの内容を追加する必要がある。また入学定員と実入学者数の適正化については、学士課程、大学院課程とも適正数は確保されている。ただ大学院の受験者の合格率が100%であることが多いことからアドミッション・ポリシーに沿った受け入れが出来ているかを検証できる内容を追記しておく必要がある。

### 5) 教育内容及び方法

教育課程は全学教育科目と学部教育科目により体系的に編成されており、授業内容も看護学全体が網羅されている。大学院においてはシラバスには教科目の概略、到達目標、履修上の注意事項などが明記されており、教授方法においても新たな知見や社会問題との関連などについても教授されていることが伺える。単位の実質化へ配慮については、授業時間外の学習時間の確保や組織的な履修指導、履修科目の上限などについて明記すると良い。自主学習のための教育環境は概ね整っているようである。教育目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準については、履修案内やシラバスに教科ごとの成績評価の概略が明示され学生への周知はなされている。評価基準や適切な実施については、成績の散布図や入学者に対する卒業生の比率、卒業時の修得単位数の一覧など具体的な図表で適切性を述べると良い。

大学院においては、教育目的や教育目標を策定し、授与される学位に沿った教育課程が編成されている。授業科目も看護学全体が網羅できる講座で構成されており、学術的探求

が主眼となっている。授業形態は、教育目的に照らし少人数、対話・討論型と多様な選択が出来るよう工夫してあるが、院生の授業評価などを活用するとより効果的である。研究指導体制は、入学時に学生が希望する研究テーマにより、その研究分野を専門とする教員が中心となり実施しているが、指導教員は学部と兼務のため十分な指導体制とはいえない。そのため大講座ごとのセミナーや看護学専攻・領域全体で中間発表を企画するなど他の教員の指導を受ける機会を設け研究指導を実施していることは評価できる。成績評価や単位認定、修了要件については履修案内に明示し、入学時のガイダンス等で周知されているが、各教科の評価基準は明確にされていない。学位論文の審査は、主査、副査による審査後に予備審査会、公聴会が開催されるなど審査体制は整えられているが、組織として評価基準を策定し、学生に周知するなどの整備が望まれる。

## 6) 教育の成果

学生が身に付ける学力、資質、養成しようとする人材像は、学生募集要項や入学時のガイダンス、フレッシュマンセミナー等において周知されている。達成状況は、多くの学生が卒業要件の125単位を大幅に上回り140～160単位と修得していることや国家試験の合格率や就職率などが好調であることから成果が上がっていることは伺える。卒業（学位）論文から達成状況を評価する場合は、内容や水準などから判断しどのような成果が上がっているかを具体的に示す必要がある。また授業評価においても1回の評価点を記述するのではなく、次第に改善しているデータや改善すべき課題などを記載すると良い。

## 7) 学生支援

履修指導は、入学時のガイダンスでは教育課程全体が理解できるように、それぞれの授業開始時には教科目に特化し学習の進め方などを説明し支援を行っている。さらにグループガイダンスやオフィスアワー制度を設け、個々の学生の学習支援や生活面での相談などを行っている。学生の自治活動などへの支援は、学生生活支援専門委員会が中心となりキャンパスマネージャー制度を設け対応している。それら各種の支援は新入生の宿泊研修などでガイダンスし学生に周知している。

## 1.2 栄養学科

栄養学科は、平成20年12月4日に椋山女学園大学参与で京都大学名誉教授安本教傳氏および川崎医療福祉学大学医療技術学部臨床栄養学科長中坊幸弘教授を外部評価委員として評価を受けた。午後1時30分から午後4時30分まで、総評、ならびに自己点検自己評価に従って評価を受け、質疑応答を行った。さらに、その後、演習室・実験室・機器類を中心にして学内視察を実施した。概要は以下のとおりである。

### 総評

自己点検自己評価報告書の表紙には、大学院についても追加して記載すべきである。また、大学院の博士前期課程及び後期課程に関する項目が学部の栄養学科の見出しのもとに記載されているが、学部と研究科は本来別個の組織であるので、それぞれ別項目を立てて記述すべきである。

自己点検自己評価報告書において、それぞれの記載項目を可能な限り、大学評価基準に記載の項目順に従って記述すべきである。また、学科独自に付け加える項目があれば、適所にあるいは別項目を立てて記載すればよい。

内容に関して、「正規課程の学生以外に対する教育サービス」の記述が見当たらないが、大学が行っているサービス業務、例えば公開講座などを行っているなら、その記述を加えるべきである。大学院の管理運営（研究科会議等）、施設・設備の図面、主な機器設備類に関する記述がないが、新たな項目を立てて記述されるべきである。また、公表及び取り扱いにおいて、学科・専攻の自己点検自己評価の結果の取り扱い方法、公表手段を予め決定しておく必要がある。

自己点検自己評価報告書を作成する上で上記のように指摘された問題点を除けば、目的、目標、教育研究組織などは全体的に見て、特に問題はないと評価された。

### 個別評価

本学科の自己点検自己評価報告書は、大学評価基準に準じて作成していないので、今回の個別の項目についての外部評価については当該評価報告書に従って評価をしていただいた。

#### 1) 大学の目的

目的・目標は明確に決められているが、周知徹底することが望ましい。例えば、大学の教職員の胸に大学の目的・理念を記載したネームプレートをぶらさげ、教職員に絶えず意識させるなど工夫すべきである。なお、栄養学科の教育目的は明確でよい。

「評価と改善策」の項目において、「一貫した体系」や「具体的に」という表現があるが、特に教育目標と目的については具体的に聞かれるため、これらの項目については、そ

れぞれ慎重な表現を用いたり、計画の策定につながるような具体的な例を挙げた方がよいと指摘された。

## 2) 教育研究組織

組織については特に問題はない。「評価と改善策」の項目において、今後の課題として将来構想委員会の提案をしているが、全学とのかかわりなのか、あるいは学科のみであるのかななどを明確にすべきである。

## 3) 教員及び教育支援者

教員の配置、組織の活性化、公募制および任期制・その運用・再任・昇任などは特に問題はない。ただ 50 代の准教授及び 60 代の助手の存在は違和感がある。また、他大学との人事交流は国内外における他大学への短期・長期研修などを記載すべきであって、本報告書に記載している事項は該当しないので、削除すべきである。

教員の個人評価、授業評価アンケートならびに授業参観の実施、研究総覧の発刊などは評価しうる。しかし、「栄養学科の評価点は全学的に高い水準」という表現は統計的に有意であるか検討していないのなら、このような表現はすべきでない。

また、研究業績の提示は、欧文雑誌において、教員一人当たりの論文数を記載するとよい。さらに FD 活動においては、各授業参観への参加教員数の集計を行うほか、結果が教員にフィードバックされ、授業の向上のための効果が上がっているかどうかについての分析もあった方がよい。

## 4) 学生の受入

20 年度の前期の志願者数が前年度までと比べて大きく落ち込んでいるが、その改善策とを講ずるべきである。

## 5) 教育課程の編成・実施・成果

本学科の教育目標は、管理栄養士カリキュラム編成における指定基準に従ってよく構成されており、わかりやすい。とりわけ 7) の「学校における児童・生徒への食育を含め人間形成に関連した教育能力を養う」という目標はたいへんよい。

導入教育及び課題探求型授業の取り組みなどは、限られた時間内で適正に実施しており、評価できる。また、教育目標の達成度を測る指標として管理栄養士国家試験合格率は高いのは評価できる。しかし、不合格者に対する対応について、模試の案内をするなどの便宜を図っていることについても記載すべきである。

卒業研究テーマの一覧表を記載するのはよいが、羅列するのではなくて大講座単位でまとめるようにした方が本学科の教育体制がわかりやすくてよい。臨地実習に出す要件を規

定しているならば、それについても記載するとよい。

学生の異動状況において、休学・退学が多すぎる。これに関連して、平成15年度および16年度の4年卒業率が90%前後という低い水準にとどまっている。この点についてはその原因を学年ごとに解析し、対応策を講ずる必要がある。対応策の一つとして、カウンセラーを含めた全教員で情報を共有してケアを行う、または担任制（本学ではアドバイザー制度）を利用してケアを行うことにより、学生との接点を増やし、学生の状況を正確に把握することなどが考えられる。また、この問題についてこれまでどのようにアプローチしたかを資料として作成しておく必要がある。

進路状況について、地元への就職率（県内率）などについても記載するとよい。就職先アンケートの結果は表現を考えた方がよい。

#### 6) 博士前期・後期課程教育

栄養学専攻修了者とその修士論文名において、修士論文名の記載は良いが、修了者の個人名は記載しないほうが望ましい。また、院生の異動状況において、入試の選抜で合格率が100%であること、ならびに休学・退学者が多いのが気になるところである。入学を許可することは2年間で教育を行い、課程を修了させる責任がある。従って、これは選抜方法などを見直し、対策を講ずる必要がある。さらに、経済上の問題で退学した学生に対しどのような努力をしたかなど、経済面での学習支援体制についても記載すべきである。

また、教育評価結果において、その成果を判定する材料として、大学院学生の学会発表および論文発表が抜けているが、これらを記載するとよい。

評価と改善策の項目で、「東アジアからの留学生を受け入れる努力をすべきである。」という表現を「東アジアにおける大学と学術交流協定を結び、その上で留学生を受け入れるように努力すべきである」としたほうがよい。

教育課程の実施において、大学院の授業評価が抜けているが、これを実施すべきである。

#### 7) 修学環境

この項目うち、授業評価について、各教員が自主的に改善を行っているとのことであるが、聞き取り調査などを行い、どのようにして改善に取り組んでいるか、またその結果どうなったかについて記載するのが望ましい。大学院生のスペースが確保されているか（机とイスなど）についての記載も必要である。

#### 8) その他（学内の設備・機器類の整備状況の視察による評価）

外部評価委員である安本氏が実験室、実習室、設置された機器類について視察した。その結果、本学科の施設、設備および機器類の整備状況はお茶の水大学及び奈良女子大学と比較しても極めて優れており、特に大型機器についての稼働状況が良い点が評価された。

### 1.3 保健福祉学科

保健福祉学科の外部評価は、新見公立短期大学幼児教育学科学科長の安達雅彦教授、および川崎医療福祉大学医療福祉学部学部長の田口豊郁教授に依頼した。新見公立短期大学は平成17年度に大学評価・学位授与機構の認証評価を、川崎医療福祉大学は平成20年度に大学基準協会の認証評価を受けている。

今回の評価は、教育年報2007を基礎資料とし、2007年度版の大学案内、教育研究者総覧、社会貢献年報、学生便覧、履修案内（学士課程と大学院課程、以下同じ）、シラバス、学生募集要項の資料を対象に実施された。

平成20年11月30日に講評を受けた評価意見の概要、および学科における対応と今後の課題について以下に記す。

#### 評価意見（総論）

総評として、両評価者とも、大学評価基準を概ね満たしているであろうとの意見であった。ただし、認証評価における「基準」や「観点」と教育年報2007との対応がわかりにくく、それぞれの基準または観点に関するデータが資料のどこに記載されているかを明示する必要があるとの指摘を受けた。また、認証評価では大学または学部としての取組が問われるので、学科や個人の取組とは明確に分離して記載する必要があるとの助言を受けた。

#### 評価意見（各論）

##### 1) 大学の目的

学部や学科の目的は大学の目的を受けて明確に規定され、さらに具体的な教育目標を設定していることは評価できるとの意見であった。ただし、「目的が大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか」に関しては、どのような方法で周知・公表されているかの資料がないとの指摘を受けた。

##### 2) 教育研究組織

観点は主に、組織が設置・整備されているかどうかと機能しているかどうかの2つの視点から成っている。評価では、組織の設置・整備自体には問題がないとの意見であった。しかし、機能しているかについては、資料では十分に判断できないものがあるとの指摘を受けた。1つは、「大学に設置されている附属施設・センター等が、教育研究の目的を達成する上で適切に機能しているか」に関して、センター等と教育とのリンクが明らかでないとの指摘である。2つめは、「教授会等や教育課程・教育方法等を検討する教務委員会等の組織」について、運営要領が策定され公表されていることは評価できるが、「必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われているか」については、資料に議事録や開催記録が

添付されていないため判定できないとの指摘であった。

### 3) 教員及び教育支援者

教員配置および採用・昇任基準の明確化については、概ね良好な評価を受けた。ただし、「教育上主要と認める授業科目には専任の教授又は准教授を配置する」に関しては、主要授業科目にどのような教員が配置されているかの記載がないとの指摘を受けた。主要授業科目は教授または准教授が担当することが望ましいとの意見であった。

また、「教育内容等と関連する研究活動が行われているか」に関しては、資料がなく評価できないので、一覧表を作成すべきであろうとの指摘を受けた。教員の発表論文題目や所属学会などで表現される研究内容と授業科目が合致していた方がよいとの助言を受けた。また、TA 以外の教育支援者としての事務職員や技術職員の配置や活用についても言及する必要があるとの指摘を受けた。

### 4) 学生の受入

概ね良好な評価を受けた。ただし、アドミッション・ポリシーの策定やその公表についての問題はないが、「アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか」に関しては、取組が不十分と思われるとの指摘を受けた。アドミッション・ポリシー策定が平成 17 年度からであっても、学生受け入れ状況の検証は着実に行うべきであること、平成 17 年度入学生の卒業を待たずとも在学学生を対象に何らかの検証を行うことができるのではないかと指摘を受けた。

### 5) 教育内容及び方法

学士課程に関しては概ね良好な評価を受けた。なお、「基礎学力不足の学生への配慮等」に関しては、本学科では基礎学力不足と判定される学生がいなかったため特別な取組は行っていないが、対象学生がいなければその旨を明記すべきであろうとの指摘を受けた。

大学院課程に関しては、「学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制が整備されているか」について、審査体制に問題はないが、論文の評価基準の作成が望まれるとの指摘を受けた。

### 6) 教育の成果

教育の成果に関しては、社会福祉士国家試験合格率の高さや就職率の高さなどの指標から、相当の成果があがっていると推測されるが、組織的な検証の取組状況や具体的な成果・効果の記載がなく、判断出来ない点があるとの指摘であった。

また、大学院生に対する授業評価の実施状況が不明であるとの指摘を受けた。大学院に



については、個別の授業ではなく、1年間の授業全体を通じての授業評価という方法もあるとの助言を受けた（後述）。

#### 7) 学生支援等

学習支援，サークル等自主活動支援，生活支援，経済的支援について，組織や環境は整っているようであるが，実際の利用状況についての記述がなく評価困難であるとの指摘を受けた。例えば，オフィスアワー制度や相談室の利用状況，自主活動に対する部室整備や金銭的支援の状態，奨学金制度の利用状況などについて記載すべきであろうとの意見であった。また，ハラスメント対策について，セクシャルハラスメントについての記載は学生便覧等にあるが，いわゆるアカデミックハラスメント，パワーハラスメントに関しても対策が必要であるとの指摘を受けた。

また，特別な支援が必要な学生について，外国人留学生に対する支援は記載されているが，障害学生等への対応についての記載がないとの指摘を受けた。本学科では，担任制（担当学年制）による学生支援の体制をとっているのなら，それを記載すべきであるとの助言を受けた。

#### 8) 施設・設備

施設・設備の整備に関しては概ね良好との評価を受けた。ただし，施設・設備のバリアフリー化への配慮については記載がなく評価できないとの意見であった。また，施設・設備の利用状況についても記述すべきであるとの助言を受けた。

#### 9) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育の状況や質の向上に関しては，教員個人でなく，組織的にデータを収集・蓄積し，改善していく仕組みが求められるとの意見であった。FD活動として授業参観が実施され，その報告書が教員にフィードバックされていることや，教育支援者・教育補助者として実習先指導者への教育が試みられていることは評価できるとの意見であった。

#### 学科における対応および今後の課題

早急に改善すべきこととして，研究科における授業評価の問題を指摘された。指摘を受けた直後から検討に着手し，平成20年度末に研究科における初めての授業評価を試験的に実施した。研究科では各授業の履修者が少なく，また研究指導の比重が大きいので，学部と同様の授業評価は馴染まない。そこで，研究科では個別の授業科目ではなく，1年間の授業全体を総合した授業評価として実施した。今後3年程度の試行期間を経て，評価方法を確立していく予定である。

外部評価全体を通じて，他には緊急に改善しなければならない点はなかったものと考え

る。ただし全般的に、「制度の策定」「組織の設置・整備」については基準・観点を概ね満たしているものの、それが「機能しているか」「利用状況はどうであるか」の視点に対しては、それに答えるデータが必ずしも十分に揃っていないことが明らかとなった。今後はこれらについての資料を準備していく必要があると考え、一部はすでに学科の「評価・FD委員会」において着手している。資料を整える過程で機能や利用状況の不十分さが明らかになれば、今後改善していく必要性が生じるものと考えている。

## 2. 情報工学部

### 経過

情報工学部においては、平成 20 年度当初に情報工学部評価分科会委員（FD ワーキンググループ構成員を含む 9 名）で外部評価に向けた準備を開始した。そして、6 月 9 日の代議員会で、評価は学科単位でなく学部単位で受けることを決定した。引き続いて、自己点検評価報告書作成等の準備を学科横断的に進め、8 月 27 日の代議員会で、外部評価委員の先生 3 名と日程案を承認した。9 月には、各外部評価委員候補の先生方から就任の内諾をいただき、10 月 22 日に学部長名で次の資料を送付するとともに、正式な依頼を行った。

情報工学部自己点検評価報告書、情報工学部教員総覧 2008（暫定版）  
平成 20 年度学科紹介パンフレット、平成 20 年度学生便覧  
平成 20 年度履修案内（学部・大学院）、平成 20 年度シラバス  
教育年報 2006、教育年報 2007、平成 19 年度卒業論文・修士論文要旨

### 日程と参加者

日時：平成 20 年 12 月 11 日（木）10:20～15:50

#### 外部評価委員

委員長 太田 勲 兵庫県立大学特任教授（専門分野：電子工学，通信工学）  
委員 大松 繁 大阪府立大学教授（専門分野：情報工学，システム工学）  
委員 金子 真 大阪大学教授（専門分野：知能機械学，機械システム）

#### 本学出席者（17 名）

[情報工学部長] 加藤 隆 教授

[情報通信工学科]

学科長 稲井 寛 教授，教務専門委員 榊原勝己 教授

学生生活支援専門委員 大久保賢祐准 教授

[情報システム工学科]

学科長・教務専門委員 早瀬道芳 教授，学生生活支援専門委員 小松弘明 准教授  
大西謙吾 准教授，横川智教 助教

[スポーツシステム工学科]

学科長 西山修二 教授，教務専門委員 濱田泰一 教授

学生生活支援専門委員 辻 博明 教授

柳原大輔 准教授，倉重賢治 准教授，山内 仁 助教

[その他]

本学評価委員会副委員長 野津 滋 教授，入試委員会委員 金川明弘 教授

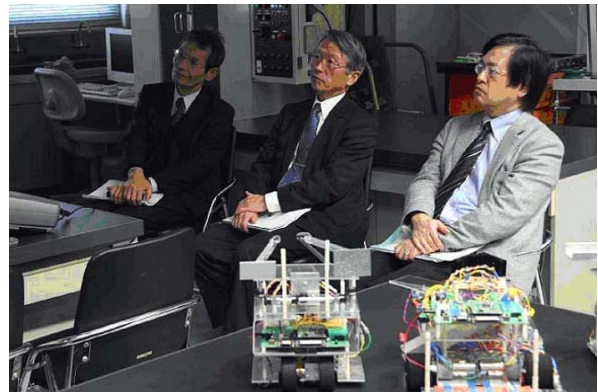
学部事務班 村上浩志 主幹

次第

| 時間          | 事項               | 場所        |
|-------------|------------------|-----------|
| 10:20       | 開会<br>外部評価委員長の選出 | 情報工学部会議室  |
| 10:30～11:40 | 自己点検評価結果の概要説明    |           |
| 11:40～11:50 | 質疑応答             |           |
| 11:50～12:00 | 評価委員打合わせ         | 情報通信工学科長室 |
| 12:00～12:50 | 昼食・休憩            |           |
| 12:50～14:00 | 学部内見学            | 実験室，演習室   |
| 14:00～14:10 | 休憩               | 情報通信工学科長室 |
| 14:10～14:50 | ヒアリング            | 情報工学部会議室  |
| 14:50～15:30 | 評価委員打合わせ         | 情報通信工学科長室 |
| 15:30～15:45 | 講評               | 情報工学部会議室  |
| 15:45～15:50 | 学部長挨拶<br>閉会      |           |



学部内見学 情報通信工学科計算機演習室



学部内見学 情報システム工学科学学生実験室



学部内見学  
スポーツシステム工学科計算機演習室



講評 情報工学部 3F 会議室

## 評価の概要

評価結果を、外部評価当日の講評を中心にまとめる。以下の記述に際しては、情報工学部自己点検評価報告書の構成順、すなわち、「教育目的・目標」、「教育研究組織と管理運営」、「教員および教育支援者」、「学生の受入と在籍状況」、「学士課程教育」、「教育目標に対する達成度」、「大学院情報系工学研究科」の順に記載する。これらは大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を参考に構成した。外部評価委員の先生方から寄せられた多くのポジティブなご意見については、頁数の制約上、割愛または代表的意見のみ記載してあることをご了承頂きたい。なお、最後の項目「情報工学部の将来像」は、法人化を控えた平成18年度の情報工学部教授会による構想(案)に対する外部評価委員の先生方からの御意見である。

### 1) 教育目的・目標

○開学時の基本理念を堅持しつつ、時代の変遷に合わせて教育目標を見直している努力は高く評価できる。すなわち、初期の学部設置理由の一つであった大量に不足していた情報処理技術者の育成という視点から、優れた計算機の利用技術に加えて、社会や環境と調和した ICT 応用能力を有する人材の育成を謳い、複雑化する社会と様々な問題を抱える環境への対応を重視する方向を打ち出している。これらの教育目的・目標は、学則はもちろん、学生便覧、履修案内などに明確かつ具体的に記載されており在学への周知を図ると共に、大学 Web ページ、大学案内、大学説明会（オープンキャンパス）等を利用して積極的に外部に公表、説明を行っている点も高く評価できる。

○県民の税金が投入されている以上、県立大学には二つの譲れない立場がある。それは、県内企業との密接な関係の構築、および、県・地域への貢献、である。この意味で県立大学という位置づけを明確に意識した教育目的・目標が設定されているのは十分評価される。

### 2) 教育研究組織と管理運営（教育研究組織、管理運営）

○学部の教員組織は、各学科ともそれぞれが掲げる教育目標を達成するために重視している3分野に対応できる講座体制となっている。例えば、情報通信工学科は、「情報工学・通信工学・電子工学」の3分野に対応できるよう「情報処理工学講座」、「情報通信工学講座」、「情報電子工学講座」の3講座制としている。また、大学院の既設2専攻も3講座制で対応できる教員組織となっており、各講座の教授、准教授が独立に各専門分野を担当するようになっている。各学科、各専攻とも概ね妥当な教員組織と考えるが、設置時の事情や大綱化の影響などから検討の余地のある専門分野（大学院）が散見される。また、現在教授と准教授各6名が大学院に配置されていない。この点の解消も含めて、早急に大学院充実計画を策定することが望まれる。

○教授会の下に代議員会を設けて、教務、入試、学生生活に関する実務事項の決定を委ねている点は、議論の効率化、教授等の負担軽減の視点からみて優れた管理運営体制であるとする。また、学科会議の位置づけを明記して、全教員が教学に対して積極的に関与できる体制としていることも評価できる。

○全学教育研究機構内に、全学教育研究機構長の下に教授会を置き（学則第14条3項）、全学的視点から全学教育科目の教育を円滑かつ有効に実施するための責任体制を確立している点も評価できる。しかし、十分機能していないきらいがあるので、本体制の下で全学教育の実効がより一層上がるよう議論を深める必要性を感じる。

### 3) 教員および教育支援者（教員の配置と人事、教員組織の活性化、教員の活動と評価、教育研究支援体制）

○学部専任教員の配置と教員数は適当と思われるが、教授2名、准教授、助教各1名の欠員を抱えている。特に、教授、准教授の欠員は教育の質の低下に繋がる恐れがあるので早急に補充する必要がある。専任教員一人当たりの学生数は平均的と考えられるが、当該学部の優れた特徴である密度の濃い実践型教育を実行するためにはTAの増員など教育支援の充実が必要であるとする。

○大学院の教員配置において若干名（5名）の准教授にも研究指導資格を認定していると思われる（自己点検評価報告書記載の表3.4）。このことは、博士後期課程の学生確保にも役立ち、大学院の教育研究の活性化を進める上で非常に有用な措置とする。さらに厳正な審査の下で該当准教授を増やす方策を検討されては如何か。

○教員採用の公募制、および各職階に任期制を導入していることは、教員組織の活性化に効果が見込まれ、高く評価できる制度である。内部昇任制度は任期制の弱点を補強するために導入されたと思われるが、欠員補充は極力公募によることが望ましい。

○教員の研究業績は、「自己点検評価報告書」に全体数のみしか示されていないため正確な評価は不可能であるが、平均的に見て妥当な業績であると考えられる。大学Webページで公開されている情報工学部研究総覧（教育研究者総覧、研究業績目録）の内容が2007年以降更新されていない。迅速により詳しい年度ごとのデータを公開することが望まれる。

○メカトロ実習、コンピュータ演習を視察する限り、優秀な若手教員が配置され、斬新な発想・工夫により学生が楽しみながら教育効果があがる独自性の強い教育が印象的であった。実習・演習科目は講義の内容理解を高める上で、きわめて重要である。この実習・演習科目を担当する教員が、高いモチベーションを維持続けることができるようなシステム（例えば給与の優遇措置・学内表彰の授与）作り、さらには後継者の育成・確保についての長期的計画も視野に入れておく必要がある。

○事務体制は組織、職員数の点では概ね妥当と思われるが、大学事務プロパー職員を確保することが必要と思われる。

○上述のように TA の増強が必要と思われる。しかし、TA 制度は教育の一環であるので、過度な負担が学生に掛からないように配慮しなければならない。

○今後、多様な教育プログラムを、学科組織に固執することなく柔軟に提供できる体制を念頭に置いて教員人事を進める方針であるとのことであるが、考え方、実施方針を早急に確立して在學生に影響が出ないよう方策を講じなければならない。

#### 4) 学生の受入と在籍状況（求める入学生像、選抜方針、選抜結果、在籍状況）

○平成 20 年度から一般選抜の個別学力検査を数学だけにした影響と対策について十分検討する必要がある。情報工学部はハードウェアも重視した教育を志向していると考えられるので物理的素養は必須である。入学後物理的素養の乏しい学生がドロップアウトしないように、受験者に対して種々の機会を通じて物理的素養が必要であることを伝える必要があると思われる。

○学部の入学定員充足率は概ね妥当な値であるが、平成 20 年度は 40%程度超過している。学生数の極端な増加は教育の質の低下を招く恐れがあるので、原因を十分解明して今後に生かすことが必要である。

○学部学生の退学理由の管理が十分なされており、その原因の分析もなされている点は評価できる。今後増加が見込まれる勉学意欲の減退等、消極的理由による退学者の減少に取り組む必要がある。

○大学院においては、前期課程は若干多めであるが、研究活動の活性化が見込め妥当な定員充足率と考える。後期課程は定員充足率が 1 前後であり、全国平均で見ると優れた数値となっている。

#### 5) 学士課程教育（教育課程の編成と特色、教育課程の実施、単位の実質化、進路）

○教育目標を達成するために、分野複合・横断型のカリキュラムを構成し、ICT 利用技術の拡大を企図した実学志向の意欲的カリキュラムである。それだけにより精査した講義内容とより丁寧な履修指導が必要と考える。

○「情報通信工学科」の授業科目は、情報工学、通信工学及びそれらを支える電子工学の専門 3 分野に共通する「専門基礎」と 3 分野の「専門科目」、および卒業研究も含めた「実験・演習等」の 5 カテゴリーに分けられている。「専門基礎」は数学科目が特に充実しているが、物理系がやや手薄である。「専門科目」は 3 分野の基幹科目が配置されているが、専門基礎科目との関連でハードウェア関係科目の理解に学生が苦しむ可能性がある。「実験・演習等」の関連科目はよく考えられており学生の問題解決能力の涵養に役立つ、非常に優れた内容と実施体制／形態であると考えられる。

○情報通信工学科では、「実験・演習等」の関連科目を除いて完全選択性となっているが、履修指導の一環として学生にいくつかの履修モデルを提示することも一案と思われる。

○多様な学生が入学する現在は、導入教育が非常に重要である。学科の全教員が担当する「フレッシュマンセミナー」では、内容を十分吟味したシラバスに基づいて実施することが望ましい。学生に不公平感が出ないように、教員による授業内容のばらつきを少なくすることが望ましい。また、「フレッシュマン特別講義」は意義深い試みと考える。

○課題探求型の授業（情報通信工学科；「情報通信工学実験Ⅰ」，「情報通信工学実験Ⅳ」）への積極的な取り組みは高く評価できる。担当教員間の横の連絡を密にし、学生が意欲を失わずに実施できるよう十分サポートすることが求められる。

○同様に、情報システム工学科のメカトロニクス実習は、実習内容、実習環境ともに、全国的に見ても最高レベルである。ここは多分に担当する教員の資質に依存するところである。もしそうだとしたら、担当者に大学教育表彰の授与、あるいは学会の教育表彰に推薦するなどして、教員自身のモチベーション維持にも配慮された方よろしいかと思えます。

○卒業研究論文の要旨集の発行は、学生が卒業研究に取り組む際の励みとなること、および記録として残り後輩にその研究内容と取り組み姿勢が受け継がれることなど効果が大きいと思われる。インターンシップ、工業英検などへの積極的参加も評価できる。

○講義時間の確保、履修登録単位数の上限設定、自主学習の支援、シラバスの整備など学生の受講、学習環境の整備に取り組んでいる点は評価できる。また、学生の成績評価異議申し立て制度の検討を行っているが、教員の成績評価に対する意識向上の観点からも必要な制度であると考えられる。

○学生による授業評価アンケートの集計結果や自由記述欄に記入されている学生の率直な意見に対する各教員の回答や次年度以降の授業改善に活かす対応策などをアンケート結果と合わせて公開することについて検討することが望まれる。学生にフィードバックすることにより授業評価アンケートに対する学生の意識や信頼感が向上することが期待できる。また、学生の率直な意見に対して回答することは、教員にとっても自分の授業内容、講義方法、取り組み姿勢などを見直す良い機会になるものと考えられる。

#### 6) 教育目標に対する達成度（教育成果、達成度評価）

○180単位取得の学生が若干名いることは、意欲的な学生が関連分野を幅広く学習できるカリキュラムになっていることを示している。一方で、例えば「情報通信工学科」では、カテゴリー（情報処理工学、情報通信工学、情報電子工学）間の修得単位数の相関が低いものも見受けられる。このことは、3分野の専門科目（座学）が完全選択性となっているため、学生が所謂単位のとり易い科目中心に履修している懸念がある。前記のように、履修モデルを提示するなど、何らかの履修指導が必要ではないかと考える。「情報システム工学科」では、専門基礎科目の自然科学、基礎工学の物理系科目が成績不振である。要因の検討が必要と思われる。

○卒業時アンケート結果で「実験・実習」と「卒業研究」がそれぞれ80.6%と84.5%と高



い比率で肯定的に捉えられていることは、当該学部の実学志向の教育実践が実を結んでいるものと高い評価ができる。また、学部講義に対しても70%程度の学生が肯定的に評価していることと合わせて、学部教育は一定以上の成果を挙げているものとする。一方で、全学教育科目の評価が低いことが懸念される。「人間を中心に据えた社会の形成に貢献できる技術者」育成には人文社会科学系科目が必須である。全学教育研究機構を中心にその魅力化と充実について十分検討して頂きたい。

○卒業率(90%～)、4年卒業率(80%～)共に他大学に比べて優れている。各教員の教育、学習指導に対する意識が優れている証左と思われる。

○進路も県内が多く、地域に貢献ができていると思われる。もの作りに関しては、教育目標100%達成されていると思いますが、ソフト面での達成度ないしはソフト教育に関して、分野で少し温度差があるように思う。

#### 7) 大学院情報系工学研究科(教育課程, 教育成果)

○情報系工学研究科博士前期・後期課程の教育研究組織は概ね妥当と思われる。電子情報通信工学特別演習Ⅱは学生の学会発表内容を主体として実施されているが、演習としての実効を挙げるためにはシラバスに工夫が必要と思われる。なお、連携大学院制度の活動実態が不明である。

○大学院生数から見て口頭発表の数がやや不足していると思われる。また、国際化を視野に院生を積極的に国際会議へ参加させることが望ましい。学会賞の受賞は毎年一定件数あり、評価できる。博士前期課程修了者の進路状況は順調である。博士後期課程学生の学位取得者数は妥当である。進路状況も妥当と思われるが、ODの解消に努める必要がある。

○博士後期課程構成員として非常勤講師として参入している教員の立場が不明である。連携大学院であれば、研究指導資格認定を実施して客員教授等として処遇されては如何か。

○教員・学生が国内講演会だけでなく国際会議にも積極的に参加し、学会賞を受賞するなど、研究のアクティブティはかなり高いように見えます。ただ、博士前期課程2専攻の入学定員40を考えると、博士後期課程6名の定常的確保は、社会人、外国人等を積極的に取り込む仕組みを作らないと、かなり困難な気がします。具体策を早めに講じてほしいと思います。

#### 8) その他(修学環境, 学生支援, FD活動, など)

○全学の計算機システムとは独立に、学科ごとに教育用計算機システムを構築し、学部教育に活用する体制が整っており、各学科のシステムも妥当で、更新も順調に行われている。

○学生便覧が学生に対して非常に親切で分かり易く編集されている。履修指導, 学習支援, 生活相談, 就職支援等も丁寧に実施されていると思われる。

○学生による授業評価と授業参観を実施していることは評価できる。また、相互授業参観

の制度が授業改善に繋がるよう努力している点も優れている。演習関係科目間の調整は良好である。評価結果を、学部、学科、グループ、個人の様々なレベルで利用して授業等の改善に努力している取り組みは高く評価できる。

○情報系工学研究科の HP をもっと充実された方が良い。実質的には学部学科の内容になって大学院の内容は記載されていません。HP は大学が外部に対して発するメッセージを伝える一番簡単かつ大切な手段です。現 HP からは専攻名以外何も伝わってきません。

外部評価終了後、各項目に対する 5 段階評価を頂いた。その結果を次表にまとめる。ここに、評価は 5 点満点とし、評価点の 1 は「特に劣っている」、3 は「普通」、5 は「優れている」こと表す。

| 項目          | A 委員 | B 委員 | C 委員 |
|-------------|------|------|------|
| 教育目的・目標     | 5    | 5    | 5    |
| 教育研究組織と管理運営 | 4    | 4    | 5    |
| 教員および教育支援者  | 4    | 4    | 4    |
| 学生の受入と在籍状況  | 4    | 5    | 4    |
| 学士課程教育      | 4    | 4    | 5    |
| 教育目標に対する達成度 | 4    | 5    | 4    |
| 大学院情報系工学研究科 | 3    | 3    | 5    |

### 情報工学部の将来像

○県内産業や製造業の構造変化や高度化、さらには急展開する技術革新に柔軟に対応できる、情報技術に長けた応用展開能力を有する技術者を育成するために、多様なカリキュラムの提供が可能となる教育研究組織の柔構造化を企図した新・情報工学部構想は将来の大学像を視野に入れた興味深い計画である。学生が学科組織に縛られない多様な教育プログラムを履修することで、自分自身の適性と興味関心に合致した専門分野を修めることができることになり、学生の学問に対するモチベーションも向上するものと思われる。構成予定の 4 学科は教員構成との整合性もよく、情報科学から情報工学、電子通信工学、機械工学を融合した分野に広く展開すると共に、スポーツ工学という新しい分野を開拓する意欲的で斬新な構想と思われる。

本構想の基盤を強固にするためには大学院の充実が不可欠と思われるので、学部改編と同時に大学院充実構想を策定されることが必要と思われる。

○スポーツシステム工学科は、スポーツ機器の開発、スポーツ関連計測機器の開発等、将来的にも人材が求められている分野だと思えます。しかも日本で唯一の学科であるため、入学生は岡山県内に限定されず全国から集まってくることが予想される。本学科は今後の

少子化に向けてのエース（打開策）になる可能性を秘めている。また、保健福祉学研究科とうまく協力体制を敷くことができれば、高齢化社会に向けて福祉機器開発を睥んだ学生の輩出も視野に入れることができ、将来性きわめて大だと思えます。

## 総括

外部評価委員の先生方から頂いた貴重なご指摘を、将来構想と関連付けてまとめると、問題点は次のように集約できる。

- ① 複合型カリキュラムをさらに充実させるとともに、より柔軟な履修が可能になるようにすること。
- ② 前項を達成し、それを維持・向上させるための教員組織のあり方を検討すること。
- ③ 教員と学生との間で、教育研究や授業改善に関連する情報を共有するとともに、教育改善については学生へのフィードバック法を考えること
- ④ 学部の将来構想に合わせて大学院の再編も視野に入れること

今回の評価結果を将来に向けた改革に生かすべく、関係者のご理解とご協力を切に要望します。最後に、ご多忙中にも拘わらず、情報工学部の将来に向けて真摯な御意見を頂きました外部評価委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

### 3. デザイン学部

実施日：平成 20 年 12 月 19 日（金）

#### 外部評価委員

- 三村 重人氏（岡山県都市局建築営繕課長）
- 平田 稔氏（岡山県立大学名誉教授）
- 柳沢 秀行氏（大原美術館学芸課長）

#### 参加教職員

山田孝延学部長，森下眞行デザイン工学科長，吉原直彦造形デザイン学科長，  
小野英志デザイン工学科教授，大河内信雄造形デザイン学科教授

#### 事前配付資料（平成 20 年 11 月 30 日頃送付）

- ・デザイン学部自己点検評価報告書（平成 20 年 11 月刊行）
- ・平成 21 年度実施分大学評価基準（機関別認証評価）
- ・デザイン学部教育研究者総覧（平成 20 年 9 月 1 日現在）
- ・岡山県立大学デザイン学部紀要 2007 vol.15 No.1
- ・2008 卒業・修了制作展図録
- ・岡山県立大学概要 2008，岡山県立大学学則
- ・履修案内 2008，学生便覧 2008

#### 日程

午前（9:20～12:15）

- ・開会挨拶
- ・出席者紹介
- ・デザイン学部施設案内
- ・自己点検評価結果の概要説明と質疑応答

昼食・休憩（12:15～13:00）

午後（13:00～14:00）

- ・観点別について講評と意見交換

閉会

## 自己点検評価の概要説明と質疑応答

自己点検・評価の趣旨と外部委員による審査については、平成 21 年度に認証評価を予定している大学評価・学位授与機構の「大学評価基準」を踏まえて行うこと、また自己点検評価報告書と「大学評価基準の観点」との関係を説明した。以下は、質疑の概要である。

### 1) 教育目的・目標について (自己点検評価報告書 p3～p6)

特に質問はなかった。

### 2) 教育研究組織と管理運営 (自己点検評価報告書 p6～p9)

Q 組織図の中で教育研究の分野で事務方の関与はどうか。

A 教育研究のマネジメントはデザイン学部内で対応している。事務職員 3 名が学部配属となっている。中期目標で、事務職員は県からの派遣職員で対応するが、民間企業経験者や大学事務の経験者など、多様な人材を活用する方策も検討することとしている。

Q 自己点検評価報告書にそれぞれの学科会議運営要領があるが、学部全体としてそういうものがあるのか。

A 大学の規程集に、教授会規程がある。

### 3) 教員及び教育支援者 (自己点検評価報告書 p10～p14)

Q 教員の活動と評価において、平成 20 年度文化賞が受賞無しとなっているが、1 件あったのではないか。

A 自己点検報告書の資料は 9 月末迄の実績である。

### 4) 学生の受入 (自己点検評価報告書 p16～p20)

Q 平成 20 年度入学生の在籍状況においてデザイン工学科で欠員が出ているが、これは、学部改組の影響なのか。

A 合格者で入学手続き後に、入学辞退者が出たために欠員が生じている。

Q 学生の受け入れにおいて、素敵な授業が受けられたか、素敵な就職が待っているかという観点で自己評価しているのか。

A 受け入れから卒業までの自己点検と評価は、まだまだ不十分である。アドミッションポリシーは、学部改組後の新学科のデータを蓄積中であり、これらを活用して改善に繋げていきたい。また、編入生や留学生については、改善する必要がある。

### 5) 学士課程教育 (自己点検評価報告書 p23～p36)

Q 教育目標の達成状況として、学生の受賞や入賞の成果が多いが、これは学生に対し

て精神的な面での支援した結果なのか、時間的な面での援助なのか。

A 学生が応募する場合、①コンペなどを授業における実習の課題として組み込んでいる、②民間企業との共同研究を授業の課題としている、③学生が実習や卒業制作の作品を競技設計などに応募している場合、④学生が施設・設備を使用して自主的に制作して応募する、など様々なケースがある。

Q 建築士法が改正され、建築教育カリキュラムへの大幅な影響があるが、建築デザインコースの対応はどうしているのか

A 国土交通省の告示が8月に出され、建築デザインコースの建築士受験資格のための対応は申請を提出済みであるが、この報告書は9月末時点までだから学部のカリキュラム変更や及び大学院研究科での実務経歴に対応した変更点は記述していない。

#### 6) 修士課程教育 (自己点検評価報告書 p36～p39)

特に質問はなかった。

#### 7) 修学環境 (自己点検評価報告書 p39～p40)

Q 休学や退学する場合、生活の問題や経済的な事情との関連はあるのか。

A 経済的な理由による休退学は珍しく、学生のメンタル的な問題によるケースが多い。経済的な支援について、奨学金制度や授業料減免措置制度等もある。また、コンペ等の受賞者には、後援会による褒賞制度がある。

Q デザイン学部の立派な施設・設備について財産目録はあるのか。また、重要な設備であるコンピュータ等の更新計画はあるのか。

A 独立行政法人に移行した時点で、資産の管理は行われている。また、高額備品やコンピュータの更新は、年度計画で対応している。

#### 8) FD 活動 (自己点検評価報告書 p40～p49)

特に質問はなかった。

### 観点別の講評

質疑応答と午後の観点別の講評で述べられた外部評価委員による意見を、それぞれの項目について、次に整理する

#### 1) 自己点検評価報告書の記載事項及び表現について

①自己点検評価報告書の冒頭に「自己点検が何なのか」という自己点検の実施の主旨を記載すべきである。

②すべての項目において自己点検の評価と問題点が示されているが、問題点への対応が

述べられていない。

- ③研究活動及びその特色で，外部資金導入について記述されているが，そのことについて点検と評価で記述した方がよい。
- ④学生の教育成果として受賞のリストがまとめられているが，精神的な面での支援なのか，時間的な援助なのか理解できるように表現した方がよい。
- ⑤大学評価基準は全国の大学を対象にしているので標準的に評価されているが，第三者に対する説明責任果たすだけでなく，自己改善の為であるならば，学部レベルのミッションについてもっと具体的に再確認をすべきであり，技術系・デザイン系ならではと言う点でデザイン学部の独自性を出すべきである。
- ⑥自己点検報告書では，それぞれの点検項目に対して，ガバナンス，マネージメント，オペレーションの各レベルで整理して評価すべきである。例えば，奨学金制度はマネージメントレベルで良く制度設計されているが，オペレーションレベルでどのように運用稼働しているのか，表現した方がよい。説明を聞くとオペレーションレベルでも良く運用されているので，それを明確に表現すべである。
- ⑦全体としては，良くまとまっている。

## 2) 教育目的・目標について

- ①特に問題はない。

## 3) 教育研究組織と管理運営

- ①基本的には妥当と考える。
- ②専任教員で教育研究のマネージメントを全てやるのは好ましくない。デザイン学部における業務処理の方針で，教育研究を専門とする職員によるマネージメント分担が必要である事を盛り込むべきである。

## 4) 教員及び教育支援者

- ①教員配置については大学設置基準よりゆとりのある配置であり，教員採用は原則公募制で，任期制を採用し，専門分野に適切な教員が配置されている。

## 5) 学生の受入

- ①造形デザイン学科のアドミッションポリシーにある「社会に向けて説得力を持って伝えることができる，言語およびコミュニケーション能力を身につけたい学生」は，本来「デザイン」を考えると，学部のアドミッションポリシーにおいて，求める学生像として取り入れるべきである。
- ②学士課程教育マップによると両学科ともカリキュラムで「コミュニケーション力」を

重視しているが、その評価方法についても検討すべきである

#### 6) 学士課程教育

- ①卒業後、社会人として問題になるのは「倫理」の問題である。学士課程教育マップの教育目標として「人間力」という項目があるが、カリキュラムにおいて倫理についての教育が見あたらない。教育カリキュラムにおいて考慮すべきである。

#### 7) 修士課程教育

- ①特に問題はない。

#### 8) 修学環境

- ①今回は時間の関係で、クリエイティブな施設の見学が主体であったが、知的な部分（図書館等）を見たかった
- ②デザイン学部の充実した教育施設・設備に対する評価をすべきである。学生が必要なときに使える施設・設備があるという事を広報していけば、受験者増につながると考える。広報体制として考えて、立派な施設・設備を魅力として、保護者や志願者にアピールすべきである。
- ③法人として貸借対照表などで資産として何を持っているかではなく、デザイン学部の特長性として充実した教育設備の消耗や更新が重要なので、そのことに関して点検・評価に盛り込まれた方がよい。
- ④デザイン学部の各施設・設備について稼働時間を把握して、充分使い尽くして更新しているのか疑問に思ったが、集中と選択の観点から設備機器を運用・更新していくことができれば全国から拍手喝采されるだろう。

#### 9) FD 活動

- ①基本的には問題はない。

#### 10) その他

- ①大学評価基準は全国の大学を対象にしているなのでその観点に従って評価されているが、第三者に対する説明責任を果たすだけでなく、自己点検評価が自己改善のためにするのであれば、学部レベルのミッションについてもっと具体的に再確認をすべきである。技術系・デザイン系ならではの点でデザイン学部の独自性を出すべきである。
- ②設備の設置、運用、及び研究費の配分における、集中と選択を評価において表現された方がよい。



## 付録

### A. 入試統計（学部・大学院）

#### A-1 学士課程

一般選抜

単位；人

| 学部     | 学科          | 平成19年度 |       |       |      |      |     | 平成20年度 |       |       |      |      |     |
|--------|-------------|--------|-------|-------|------|------|-----|--------|-------|-------|------|------|-----|
|        |             | 募集人員   | 志願者数  | 受験者数  | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  | 募集人員   | 志願者数  | 受験者数  | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  |
| 保健福祉学部 | 看護学科        | 28     | 187   | 142   | 31   | 31   | 4.6 | 28     | 111   | 71    | 32   | 30   | 2.2 |
|        | 栄養学科        | 30     | 151   | 106   | 32   | 31   | 3.3 | 30     | 86    | 49    | 32   | 31   | 1.5 |
|        | 保健福祉学科      | 42     | 136   | 77    | 47   | 42   | 1.6 | 42     | 276   | 179   | 49   | 40   | 3.7 |
|        | 学部計         | 100    | 474   | 325   | 110  | 104  | 3.0 | 100    | 473   | 299   | 113  | 101  | 2.6 |
| 情報工学部  | 情報通信工学科     | 37     | 740   | 405   | 125  | 39   | 3.2 | 37     | 618   | 273   | 114  | 57   | 2.4 |
|        | 情報システム工学科   | 37     | 1,007 | 531   | 163  | 40   | 3.3 | 37     | 783   | 332   | 149  | 56   | 2.2 |
|        | スポーツシステム工学科 | 25     | 341   | 341   | 118  | 28   | 2.9 | 25     | 242   | 134   | 53   | 33   | 2.5 |
|        | 学部計         | 99     | 2,088 | 1,277 | 406  | 107  | 3.1 | 99     | 1,643 | 739   | 316  | 146  | 2.3 |
| デザイン学部 | デザイン工学科     | 30     | 70    | 66    | 35   | 31   | 1.9 | 30     | 77    | 77    | 35   | 30   | 2.2 |
|        | 造形デザイン学科    | 38     | 168   | 162   | 42   | 39   | 3.9 | 38     | 123   | 122   | 43   | 38   | 2.8 |
|        | 学部計         | 68     | 238   | 228   | 77   | 70   | 3.0 | 68     | 200   | 199   | 78   | 68   | 2.6 |
| 合計     |             | 267    | 2,800 | 1,830 | 593  | 281  | 3.1 | 267    | 2,316 | 1,237 | 507  | 315  | 2.4 |

○倍率＝受験者数/合格者数

推薦に基づく選抜

単位；人

| 学部     | 学科          | 平成19年度 |      |      |      |      |     | 平成20年度 |      |      |      |      |     |
|--------|-------------|--------|------|------|------|------|-----|--------|------|------|------|------|-----|
|        |             | 募集人員   | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  | 募集人員   | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  |
| 保健福祉学部 | 看護学科        | 12     | 38   | 38   | 13   | 13   | 2.9 | 12     | 27   | 27   | 13   | 13   | 2.1 |
|        | 栄養学科        | 10     | 28   | 28   | 11   | 11   | 2.5 | 10     | 27   | 27   | 10   | 10   | 2.7 |
|        | 保健福祉学科      | 18     | 26   | 26   | 18   | 18   | 1.4 | 18     | 29   | 29   | 20   | 20   | 1.5 |
|        | 学部計         | 40     | 92   | 92   | 42   | 42   | 2.2 | 40     | 83   | 83   | 43   | 43   | 1.9 |
| 情報工学部  | 情報通信工学科     | 13     | 23   | 23   | 15   | 15   | 1.5 | 13     | 20   | 20   | 14   | 14   | 1.4 |
|        | 情報システム工学科   | 13     | 24   | 24   | 15   | 15   | 1.6 | 13     | 23   | 23   | 15   | 15   | 1.5 |
|        | スポーツシステム工学科 | 15     | 13   | 13   | 13   | 13   | 1.0 | 15     | 30   | 30   | 16   | 16   | 1.9 |
|        | 学部計         | 41     | 60   | 60   | 43   | 43   | 1.4 | 41     | 73   | 73   | 45   | 45   | 1.6 |
| デザイン学部 | デザイン工学科     | 10     | 9    | 9    | 9    | 9    | 1.0 | 10     | 9    | 9    | 9    | 9    | 1.0 |
|        | 造形デザイン学科    | 12     | 39   | 39   | 13   | 13   | 3.0 | 12     | 37   | 37   | 12   | 12   | 3.1 |
|        | 学部計         | 22     | 48   | 48   | 22   | 22   | 2.2 | 22     | 46   | 46   | 21   | 21   | 2.2 |
| 合計     |             | 103    | 200  | 200  | 107  | 107  | 1.9 | 103    | 202  | 202  | 109  | 109  | 1.9 |

○倍率＝受験者数/合格者数

第3年次編入学試験

単位；人

| 学 部    | 学 科         | 平成19年度 |      |      |      | 平成20年度 |      |      |      |
|--------|-------------|--------|------|------|------|--------|------|------|------|
|        |             | 志願者数   | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数   | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
| 保健福祉学部 | 看護学科        | 33     | 33   | 5    | 1    | 26     | 26   | 5    | 2    |
|        | 栄養学科        | 21     | 20   | 2    | 2    | 11     | 11   | 2    | 1    |
|        | 保健福祉学科      | 8      | 8    | 2    | 1    | 4      | 4    | 1    | 1    |
|        | 学 部 計       | 62     | 61   | 9    | 4    | 41     | 41   | 8    | 4    |
| 情報工 学部 | 情報通信工学科     | 4      | 4    | 2    | 1    |        |      |      |      |
|        | 情報システム工学科   | 4      | 4    | 0    | 0    |        |      |      |      |
|        | スポーツシステム工学科 | 4      | 4    | 0    | 0    | 9      | 9    | 4    | 3    |
|        | 学 部 計       | 8      | 8    | 2    | 1    | 9      | 9    | 4    | 3    |
| デザイン学部 | 工芸工業デザイン学科  | 13     | 13   | 6    | 3    |        |      |      |      |
|        | デザイン工学科     |        |      |      |      | 14     | 14   | 6    | 6    |
|        | 造形デザイン学科    |        |      |      |      | 6      | 6    | 5    | 5    |
|        | 学 部 計       | 13     | 13   | 6    | 3    | 20     | 20   | 11   | 11   |
| 合 計    |             | 83     | 82   | 17   | 8    | 70     | 70   | 23   | 18   |

○募集人員は、いずれも若干名

○情報通信工学科，情報システム工学科は平成20年度募集せず

○工芸工業デザイン学科は，平成20年度から募集停止

○デザイン工学科，造形デザイン学科は平成20年度から募集

A-2 大学院課程

博士前期課程・修士課程

単位；人

| 研 究 科     | 専 攻          | 平成19年度 |      |      |      |      |     | 平成20年度 |      |      |      |      |     |
|-----------|--------------|--------|------|------|------|------|-----|--------|------|------|------|------|-----|
|           |              | 募集人員   | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  | 募集人員   | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  |
| 保健福祉学 研究科 | 看護学専攻        | 7      | 4    | 4    | 4    | 4    | 1.0 | 7      | 6    | 6    | 6    | 6    | 1.0 |
|           | 栄養学専攻        | 6      | 13   | 13   | 10   | 10   | 1.3 | 6      | 4    | 4    | 3    | 3    | 1.3 |
|           | 保健福祉学専攻      | 7      | 13   | 13   | 10   | 9    | 1.3 | 7      | 9    | 9    | 9    | 8    | 1.0 |
|           | 研究科計         | 20     | 30   | 30   | 24   | 23   | 1.3 | 20     | 19   | 19   | 18   | 17   | 1.1 |
| 情報系工学 研究科 | 電子情報通信工学専攻   | 20     | 25   | 24   | 23   | 21   | 1.0 | 20     | 30   | 30   | 27   | 27   | 1.1 |
|           | 機械情報システム工学専攻 | 20     | 18   | 18   | 17   | 15   | 1.1 | 20     | 46   | 46   | 36   | 35   | 1.3 |
|           | 研究科計         | 40     | 43   | 42   | 40   | 36   | 1.1 | 40     | 76   | 76   | 63   | 62   | 1.2 |
| デザイン学 研究科 | ビジュアルデザイン学専攻 | 8      | 5    | 5    | 4    | 4    | 1.3 | 8      | 11   | 11   | 10   | 9    | 1.1 |
|           | 工芸工業デザイン学専攻  | 8      | 9    | 9    | 8    | 8    | 1.1 | 8      | 7    | 7    | 7    | 7    | 1.0 |
|           | 研究科計         | 16     | 14   | 14   | 12   | 12   | 1.2 | 16     | 18   | 18   | 17   | 16   | 1.1 |
| 合 計       |              | 76     | 87   | 86   | 76   | 71   | 1.1 | 76     | 113  | 113  | 98   | 95   | 1.2 |

○倍率＝受験者数/合格者数

博士後期課程

単位；人

| 研 究 科・専 攻         | 平成19年度 |      |      |      |      |     | 平成20年度 |      |      |      |      |     |
|-------------------|--------|------|------|------|------|-----|--------|------|------|------|------|-----|
|                   | 募集人員   | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  | 募集人員   | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 倍率  |
| 保健福祉学研究科・保健福祉科学専攻 | 3      | 4    | 4    | 4    | 4    | 1.0 | 3      | 7    | 7    | 7    | 7    | 1.0 |
| 情報系工学研究科・システム工学専攻 | 6      | 5    | 5    | 5    | 5    | 1.0 | 6      | 5    | 5    | 5    | 5    | 1.0 |
| 合 計               | 9      | 9    | 9    | 9    | 9    | 1.0 | 9      | 12   | 12   | 12   | 12   | 1.0 |

○倍率＝受験者数/合格者数

## B. 卒業時アンケートの詳細

調査項目：以下の集計表に示す 21 項目

調査時期：平成 20 年 3 月 24 日

調査対象：平成 19 年度卒業生（335 名）

回収率：98.5%（保健福祉学部 131 名，情報工学部 115 名，デザイン学部 84 名）

集計方法：学部別・項目ごとの有効回答の範囲内での単純集計（単位：%）

視覚化のために集計結果が 25%以上の値は太字で示している。

なお，全学教育科目群「学部教育への準備」系は，問 9～12 で集計した。

問 1. あなたの入学年は，

- ① 平成 18 年，② 平成 17 年，③ 平成 16 年，④ 平成 15 年，⑤ 平成 14 年以前

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③         | 回答④  | 回答⑤ |
|--------|-----|-----|-------------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 5.3 | 0.0 | <b>91.6</b> | 2.3  | 0.8 |
| 情報工学部  | 2.6 | 0.9 | <b>80.7</b> | 12.3 | 3.5 |
| デザイン学部 | 2.4 | 0.0 | <b>92.9</b> | 4.8  | 0.0 |
| 全 体    | 3.6 | 0.3 | <b>88.1</b> | 6.4  | 1.5 |

問 2. 本学に合格した入学試験の種別は，

- ① 前・中・後期日程入試，② 推薦入試，③ 編入学，④ 再入学，⑤ 私費外国人留学生・帰国子女特別選抜・社会人特別選抜

| 学 部    | 回答①         | 回答②         | 回答③ | 回答④ | 回答⑤ |
|--------|-------------|-------------|-----|-----|-----|
| 保健福祉学部 | <b>71.8</b> | 22.9        | 5.3 | 0.0 | 0.0 |
| 情報工学部  | <b>72.2</b> | <b>25.2</b> | 2.6 | 0.0 | 0.0 |
| デザイン学部 | <b>70.2</b> | <b>26.2</b> | 2.4 | 0.0 | 1.2 |
| 全 体    | <b>71.5</b> | 24.5        | 3.6 | 0.0 | 0.3 |

問 3. 卒業後の進路は，

- ① 就職（専攻と関連する職業），② 就職（専攻と関連しない職業），③ 進学（大学院・編入），  
④ 進学（再入学・専攻の変更），⑤ 未定・その他

| 学 部    | 回答①         | 回答②  | 回答③         | 回答④ | 回答⑤ |
|--------|-------------|------|-------------|-----|-----|
| 保健福祉学部 | <b>79.4</b> | 13.0 | 4.6         | 0.8 | 2.3 |
| 情報工学部  | <b>28.7</b> | 13.0 | <b>51.3</b> | 6.1 | 0.9 |
| デザイン学部 | <b>69.0</b> | 13.1 | 11.9        | 0.0 | 6.0 |
| 全 体    | <b>59.1</b> | 13.0 | 22.7        | 2.7 | 2.7 |

問 4～8. 次の全学教育科目群は、あなたの成長にどの程度意義がありましたか。

注：問 4～8 の回答項目は共通で、以下の通りである。

① 全くなかった, ② なかった, ③ どちらともいえない, ④ あった, ⑤ 大いにあった

問 4. 「コミュニケーション（語学教育）」系は,

| 学 部    | 回答① | 回答②  | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 3.1 | 9.2  | 33.6 | 37.4 | 16.8 |
| 情報工学部  | 6.2 | 15.9 | 48.7 | 23.0 | 6.2  |
| デザイン学部 | 2.4 | 13.1 | 39.3 | 41.7 | 3.6  |
| 全 体    | 4.0 | 12.5 | 40.2 | 33.5 | 9.8  |

問 5. 「人間と文化の理解」系は,

| 学 部    | 回答① | 回答②  | 回答③  | 回答④  | 回答⑤ |
|--------|-----|------|------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 3.1 | 9.2  | 39.7 | 43.5 | 4.6 |
| 情報工学部  | 2.6 | 11.3 | 50.4 | 31.3 | 4.3 |
| デザイン学部 | 0.0 | 9.5  | 56.0 | 33.3 | 1.2 |
| 全 体    | 2.1 | 10.0 | 47.6 | 36.7 | 3.6 |

問 6. 「現代社会に生きる」系は,

| 学 部    | 回答① | 回答②  | 回答③  | 回答④  | 回答⑤ |
|--------|-----|------|------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 5.3 | 10.7 | 44.3 | 34.4 | 5.3 |
| 情報工学部  | 3.5 | 7.8  | 50.4 | 32.2 | 6.1 |
| デザイン学部 | 0.0 | 9.5  | 53.6 | 34.5 | 2.4 |
| 全 体    | 3.3 | 9.4  | 48.8 | 33.6 | 4.8 |

問 7. 「科学技術と環境」系は,

| 学 部    | 回答① | 回答②  | 回答③  | 回答④  | 回答⑤ |
|--------|-----|------|------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 9.2 | 16.0 | 42.0 | 28.2 | 4.6 |
| 情報工学部  | 4.3 | 6.1  | 42.6 | 40.0 | 7.0 |
| デザイン学部 | 2.4 | 28.6 | 44.0 | 22.6 | 2.4 |
| 全 体    | 5.8 | 15.8 | 42.7 | 30.9 | 4.8 |

問 8. 「健康の維持・増進（体育を含む）」系は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 1.5 | 6.1 | 25.2 | 44.3 | 22.9 |
| 情報工学部  | 2.6 | 5.2 | 37.4 | 44.3 | 10.4 |
| デザイン学部 | 1.2 | 4.8 | 47.0 | 37.3 | 9.6  |
| 全 体    | 1.8 | 5.5 | 35.0 | 42.6 | 15.2 |

問 9～12. 次の学部教育科目群は、あなたの成長にどの程度意義がありましたか。

注：問 9～12 の回答項目は共通で、以下の通りである。

- ① 全くなかった, ② なかった, ③ どちらともいえない, ④ あった, ⑤ 大いにあった

問 9. 「学部教育への準備」系は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③         | 回答④         | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|-------------|-------------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 6.1 | <b>28.2</b> | <b>47.3</b> | 17.6 |
| 情報工学部  | 0.0 | 2.6 | <b>46.1</b> | <b>41.7</b> | 9.6  |
| デザイン学部 | 0.0 | 6.0 | 21.4        | <b>57.1</b> | 15.5 |
| 全 体    | 0.3 | 4.8 | <b>32.7</b> | <b>47.9</b> | 14.2 |

問 10. 学部教育科目の講義は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③         | 回答④         | 回答⑤         |
|--------|-----|-----|-------------|-------------|-------------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 4.6 | 9.9         | <b>42.7</b> | <b>42.7</b> |
| 情報工学部  | 0.0 | 2.6 | <b>29.6</b> | <b>57.4</b> | 10.4        |
| デザイン学部 | 0.0 | 4.8 | 13.1        | <b>44.0</b> | <b>38.1</b> |
| 全 体    | 0.0 | 3.9 | 17.6        | <b>48.2</b> | <b>30.3</b> |

問 11. 実験・実習・演習は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④         | 回答⑤         |
|--------|-----|-----|------|-------------|-------------|
| 保健福祉学部 | 1.5 | 0.8 | 2.3  | <b>26.7</b> | <b>68.7</b> |
| 情報工学部  | 0.9 | 2.6 | 15.7 | <b>50.4</b> | <b>30.4</b> |
| デザイン学部 | 0.0 | 1.2 | 3.6  | 20.2        | <b>75.0</b> |
| 全 体    | 0.9 | 1.5 | 7.3  | <b>33.3</b> | <b>57.0</b> |

問 12. 卒業研究は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④         | 回答⑤         |
|--------|-----|-----|------|-------------|-------------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 2.3 | 3.8  | <b>34.4</b> | <b>59.5</b> |
| 情報工学部  | 0.0 | 0.9 | 11.3 | <b>42.6</b> | <b>45.2</b> |
| デザイン学部 | 0.0 | 1.2 | 4.8  | 15.5        | <b>78.6</b> |
| 全 体    | 0.0 | 1.5 | 6.7  | <b>32.4</b> | <b>59.4</b> |

問 13～20. あなたが本学在学中に身につけた能力について尋ねます。

注：問 13～20 の回答項目は共通で、以下の通りである。

- ① 全く身につかなかった, ② あまり身につかなかった, ③ どちらともいえない,  
④ かなり身についた, ⑤ 大いに身についた

問 13. 社会の一員として生きる力は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 2.3 | 31.3 | 49.6 | 16.0 |
| 情報工学部  | 2.6 | 7.8 | 45.2 | 35.7 | 8.7  |
| デザイン学部 | 1.2 | 7.1 | 29.8 | 47.6 | 14.3 |
| 全 体    | 1.5 | 5.5 | 35.8 | 44.2 | 13.0 |

問 14. 基礎学力は,

| 学 部    | 回答① | 回答②  | 回答③  | 回答④  | 回答⑤ |
|--------|-----|------|------|------|-----|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 7.7  | 40.0 | 44.6 | 7.7 |
| 情報工学部  | 3.5 | 8.7  | 52.2 | 29.6 | 6.1 |
| デザイン学部 | 2.4 | 17.9 | 45.2 | 26.2 | 8.3 |
| 全 体    | 1.8 | 10.6 | 45.6 | 34.7 | 7.3 |

問 15. 専門的な知識と技術の広がりは,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 1.5 | 14.5 | 62.6 | 21.4 |
| 情報工学部  | 0.9 | 5.2 | 28.7 | 53.0 | 12.2 |
| デザイン学部 | 0.0 | 1.2 | 9.5  | 48.8 | 40.5 |
| 全 体    | 0.3 | 2.7 | 18.2 | 55.8 | 23.0 |

問 16. 創造的に考える力は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 6.9 | 34.4 | 47.3 | 11.5 |
| 情報工学部  | 0.9 | 7.0 | 46.1 | 37.4 | 8.7  |
| デザイン学部 | 0.0 | 4.8 | 13.1 | 46.4 | 35.7 |
| 全 体    | 0.3 | 6.4 | 33.0 | 43.6 | 16.7 |

問 17. 自らをみがき発展させる力は,

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 3.8 | 35.9 | 48.1 | 12.2 |
| 情報工学部  | 1.7 | 4.3 | 43.5 | 46.1 | 4.3  |
| デザイン学部 | 0.0 | 3.6 | 9.5  | 56.0 | 31.0 |
| 全 体    | 0.6 | 3.9 | 31.8 | 49.4 | 14.2 |

問 18. コミュニケーションの力は、

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 3.8 | 27.5 | 48.1 | 20.6 |
| 情報工学部  | 1.7 | 7.0 | 27.5 | 48.1 | 20.6 |
| デザイン学部 | 1.2 | 7.1 | 19.0 | 51.2 | 21.4 |
| 全 体    | 0.9 | 5.8 | 32.1 | 45.2 | 16.1 |

問 19. ソーシャルスキル・ビジネスマナーは、

| 学 部    | 回答① | 回答②  | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 1.5 | 13.1 | 41.5 | 36.2 | 7.7  |
| 情報工学部  | 6.1 | 20.0 | 51.3 | 19.1 | 3.5  |
| デザイン学部 | 1.2 | 8.3  | 56.0 | 23.8 | 10.7 |
| 全 体    | 3.0 | 14.3 | 48.6 | 27.1 | 7.0  |

問 20. 職業人（プロ）となる意識は、

| 学 部    | 回答① | 回答②  | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.0 | 4.6  | 23.8 | 54.6 | 16.9 |
| 情報工学部  | 7.8 | 10.4 | 48.7 | 30.4 | 2.6  |
| デザイン学部 | 0.0 | 7.2  | 24.1 | 45.8 | 22.9 |
| 全 体    | 2.7 | 7.3  | 32.6 | 43.9 | 13.4 |

問 21. 最後に尋ねます。全般的に本学の教育は満足でしたか。

① 大いに不満足, ② やや不満, ③ どちらでもない, ④ やや満足, ⑤大いに満足

| 学 部    | 回答① | 回答② | 回答③  | 回答④  | 回答⑤  |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 保健福祉学部 | 0.8 | 5.4 | 13.8 | 53.1 | 26.9 |
| 情報工学部  | 2.6 | 7.0 | 27.0 | 46.1 | 17.4 |
| デザイン学部 | 1.2 | 2.4 | 8.3  | 47.6 | 40.5 |
| 全 体    | 1.5 | 5.2 | 17.0 | 49.2 | 27.1 |

## C. 全学的就職支援の実施状況

### C-1 全学就職ガイダンスの実施状況

| 実施日             | ガイダンス等の題目・講師等                       | 参加学生数 |
|-----------------|-------------------------------------|-------|
| 7月10日           | 「公務員試験ガイダンス」 東京アカデミー岡山校             | 64    |
| 10月9日           | 「就職活動の進め方について」 (株)ディスコ              | 240   |
| 11月20日          | 「エントリーシート対策講座」<br>(株)毎日コミュニケーションズ   | 182   |
| 11月<br>21日, 25日 | 「エントリーシート対策講座”補講”」<br>宮原健キャリアカウンセラー | 36    |
| 1月22日           | 「就職活動直前ガイダンス」 (株)ジェイ・ブロード大阪支社       | 80    |

### C-2 自己分析検査の実施と解説

| 実施日              | 題目・講師等                          | 参加学生数 |
|------------------|---------------------------------|-------|
| 10月23日           | 自己分析検査 (有)学匠                    | 113   |
| 10月30日           | 自己分析検査解説講座 (有)学匠                | 76    |
| 10月31日～<br>11月7日 | 自己分析検査解説講座”補講”<br>宮原健キャリアカウンセラー | 35    |

### C-3 SPI模擬テストの実施と解説

| 実施日    | 題目・講師等         | 参加学生数 |
|--------|----------------|-------|
| 11月27日 | SPI模擬テストの実施と解説 | 77    |
| 11月28日 | SPI模擬テストの実施と解説 | 63    |

### C-4 就職活動バス（合同企業説明会へのバス）の運行

| 運行日    | 合同企業説明会の主催/会場              | 参加学生数 |
|--------|----------------------------|-------|
| 12月 2日 | (株)リクルート/京セラドーム大阪          | 59    |
| 12月16日 | (株)毎日コミュニケーションズ/広島グリーンアリーナ | 70    |
| 1月28日  | (株)毎日コミュニケーションズ/京セラドーム大阪   | 22    |
| 2月 7日  | (株)ディスコ /グランキューブ大阪         | 4     |



## C-5 就職相談員による就職相談

| 実施期間                 | 内 容 等                                                                                                     |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月 3日<br>～<br>3月31日 | キャリアカウンセラーの資格を有する就職相談員による各種就職相談を実施。<br>◇相談日：毎週火曜日と金曜日<br>◇相談内容等：<br>・実践模擬面接の実施<br>・履歴書・エントリーシート等に関する相談 など |

## D. 国際交流

### D-1 日本語学・文化研修

#### (1) 概要

本学は、これまで海外の学術交流協定校へ短期語学・文化研修として学生を派遣してきた。一方、昨年より海外から日本語学・文化研修の目的で学生を受け入れるようになった。今年度は下記の要領で韓国ウソン大学校の学生を対象に日本語学・文化研修を夏休みを利用して計画し、実施した。

#### (2) 実施要領（具体的な内容については下記のプログラム参照）

- ① 期間：平成 20 年 7 月 22 日（火）～ 8 月 4 日（月），2 週間
- ② 研修内容：
  - ・日本語の学習  
場 所：岡山県立大学（担当：特定非営利活動法人岡山日本語センター）  
時 間 数：1 日 2～5 コマ（1 コマ：50 分・月～金）延べ 8 日間
  - ・日本文化体験  
見学場所：後楽園・博物館・岡山城・倉敷美観地区・大原美術館・牛窓・  
鷲羽山，宝福寺・吉備津神社・鬼の城・工場団地， 県立大学にお  
ける学生交流等  
交通手段：マイクロバスの運行は主に総社市役所の支援による
- ③ 募集人員：20 名程度
- ④ 費用 7 万円  
内訳）語学・文化研修費：10,000 円（テキスト代 500 円及び文化体験費用を含む）  
宿泊・食費（朝，夕）：60,000 円
- ⑤ 担当：高井研一教授（保健福祉学部），辻博明教授（情報工学部），  
大西謙吾准教授（情報工学部），難波久美子准教授（デザイン学部）

## 韓国日本語学・文化研修のプログラム

| 月日(曜日)   | 10:00～10:50                            | 11:00～11:50                                                            | 13:00～13:50        | 14:00～14:50  | 15:00～15:50               | 16時以降   |
|----------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------|---------------------------|---------|
| 7月22日(火) | 韓国仁川国際空港発(大韓航空KE761)18:20 → 岡山空港着19:50 |                                                                        |                    |              |                           |         |
| 23日(水)   | 開講式<br>大学案内                            | 日本語講座                                                                  | 日本語講座              | 総社市の紹介       | 宝福寺・国分寺案内<br>歓迎会(ウェルサンピア) |         |
| 24日(木)   | 日本語講座                                  | 日本語講座                                                                  | 日本語講座              | 工場団地見学、鬼の城見学 |                           |         |
| 25日(金)   | 日本語講座                                  | 日本語講座                                                                  | 岡山国際交流センター主催茶道体験講座 |              |                           |         |
| 26日(土)   | 自由行動                                   |                                                                        |                    |              |                           |         |
| 27日(日)   | 岡山県文化探訪(後樂園・博物館・岡山城・牛窓・鷺羽山)            |                                                                        |                    |              |                           |         |
| 28日(月)   | 日本語講座                                  | 日本語講座                                                                  | 日本語講座              | 日本語講座        | 倉敷市の紹介                    | 県立大学交流会 |
| 29日(火)   | 日本語講座                                  | 日本語講座                                                                  | 日本語講座              | 日本語講座        | 日本語講座                     |         |
| 30日(水)   | 日本語講座                                  | 日本語講座                                                                  | 日本語講座              | 日本語講座        | 日本語講座                     |         |
| 31日(木)   | 日本語講座                                  | 倉敷市美観地区<br>探訪<br>総社市長表敬訪問<br>(16:30～)<br>総社市ハングル講座受講生との交流会<br>(17:00～) |                    |              |                           |         |
| 8月1日(金)  | 日本語講座                                  | 日本語講座                                                                  | 日本語講座              | 修了式          |                           |         |
| 2日(土)    | 国際交流センター主催交歓会                          |                                                                        | 自由行動               |              |                           |         |
| 3日(日)    | 自由行動                                   |                                                                        |                    |              |                           |         |
| 4日(月)    | 岡山空港発9:50(大韓航空KE762) → 韓国仁川国際空港着11:25  |                                                                        |                    |              |                           |         |



### (3) 実施結果及び評価

今回、韓国又松大学から20名の学生が当該研修に参加した。20名のうち、10名は中国から、1名はベトナムから又松大学に留学している学生であった。語学研修及び文化研修は、上記のプログラムに従って実施された。語学講座では、1コマ50分で1日2～5コマ、日本語を学習した。なお、授業形式は日本語のみで行われた。文化研修は、授業日の午後、土曜日及び日曜日は岡山県下の名所、旧跡、文化施設（後樂園・博物館・岡山城・牛窓・鷺羽山・瀬戸大橋）などを見学したり、岡山市内や倉敷市内を自由に散策し、岡山の文化や町並み、歴史に触れた。自由行動以外の文化研修には、少なくとも2人の担当者が随行して学生達の行動を支援した。

## D-2 第4回 岡山県立大学、韓国又松大学、内蒙古大学芸術学院 国際交流展

### (1) 概要

岡山県立大学デザイン学部、デザイン学研究科の卒業修了制作展と同時に開催される、国際交流展は本年度で第4回となり、韓国又松大学は建築学部に加え同大学コンピューターデザイン学部が参加し、学生の作品が展示された。また、内蒙古大学芸術学院芸術設計学部の視覚伝達系、環境設計系、服装設計系、彫刻系、環境芸術デザイン系の学生と教員の作品が展示された。

### (2) 実施内容

日 程 平成21年3月3日（火）～3月8日（日）

場 所 岡山県天神山文化プラザ

展示作品 韓国又松大学建築学部学生作品 4点

韓国又松大学コンピューター学部学生作品 5点

中国内蒙古大学芸術学院 学生・教員作品 24点



韓国又松大学作品展示



内蒙古大学芸術学院作品展示

## E. 学友会会則の一部改正

学友会の構成はこれまで、学生団体（文化系及び体育系 部・サークル）に属する学生に限られ、活動内容が学生団体に関することに限定されていたため、平成20年4月1日付けで会則の一部改正を行い、学友会の構成を全学生が対象となるようにし、全学的な行事を行うことができるようにした。

平成20年度学友会による全学行事

| 開催日               | 行 事 名        | 内 容                          |
|-------------------|--------------|------------------------------|
| 4月 6日             | 新入生歓迎お花見会    | 新入生を迎えてのお花見やビンゴ大会等のレクリエーション  |
| 5月25日             | 第1回球技大会      | バレーボール大会                     |
| 7月 1日～<br>7月 7日   | 七夕festival   | かき氷無料配布, 笹・短冊設置等             |
| 7月31日             | 第2回球技大会      | ドッジボール大会                     |
| 10月30日            | ハロウィン仮装コンテスト |                              |
| 11月 1日～<br>11月 2日 | 第16回県大祭      | 「十六彩」をテーマに開催                 |
| 11月24日            | 秋の大運動会       |                              |
| 12月15日～<br>12月22日 | VOICE OPU    | 各自の夢をボードに書いて写真撮影したものを学生会館へ掲示 |

F. 高大連携協定に基づく高等学校への講師派遣（生徒の受入を含む）

| 高校名      | 担当学部, 教員 |              | 講義内容等<br>(※は本学学内で実施)           | 受講生の<br>学年・人数    | 実施日                     |
|----------|----------|--------------|--------------------------------|------------------|-------------------------|
|          | 学部       | 教員           |                                |                  |                         |
| 玉野光南高等学校 | デ        | 嘉数教授         | コンテンツ市場で何が起こるか<br>～Web と放送～    | 1年生・16名          | H20.4.22                |
|          | 情        | 忻教授          | 制御とロボティクス                      | 1年生・40名          | H20.6.3                 |
|          | 情        | 稲井教授         | 学部紹介                           | 2年生・45名          | H20.12.4                |
| 倉敷工業高等学校 | デ        | 難波准教授        | ※学部施設見学                        | 2年生・6名           | H20.5.19                |
|          |          | 島田講師         | ※ワークショップ<br>(シルクスクリーン)         | 2年生・2名           | H20.7.31,<br>8.1, 8.4～6 |
|          |          |              | スライドレクチャー                      | 1年生・40名          | H21.2.23                |
|          |          | 難波准教授        |                                |                  |                         |
| 岡山操山高等学校 | 情        | 渡辺教授         | 理系の学問の学びについて                   | 1年生・281名         | H20.7.16                |
| 鴨方高等学校   | デ        | 野宮講師         | ビジュアルデザイン                      | 3年生・15名          | H20.7.4                 |
| 岡山工業高等学校 | デ        | 大河内教授        | 学生たちが挑む, 新しい焼き物のデザイン           | 2年生・16名          | H20.7.19                |
|          |          | 金丸教授         | 生活を楽しむ生活雑貨                     |                  |                         |
|          |          |              | ワークショップ説明会                     |                  |                         |
|          | 作元助教     |              |                                |                  |                         |
|          | 金丸教授     | ※セラミックデザイン演習 | 2年生・10名                        | H20.8.2,3,<br>10 |                         |
| 作元助教     |          |              |                                |                  |                         |
| 倉敷南高等学校  | 保        | 村上教授         | 社会福祉とは?                        | 1・2年生 34名        | H20.9.2                 |
|          | 情        | 川畑教授         | ユビキタス社会の実現に向けて<br>ー情報工学がめざすものー | 1・2年生 31名        |                         |
|          | デ        | 吉原教授         | 注意のスイッチ ～造形デザインのダイアログ～         | 1・2年生 31名        |                         |
| 笠岡高等学校   | 保        | 太湯教授         | 看護学科のめざす看護教育                   | 2年生・19名          | H20.10.7                |
|          |          | 辻教授          | 食品の働き 栄養学科の紹介                  | 2年生・11名          |                         |
| 広島皆美高等学校 | デ        | 太田教授         | 建築を作るということはどういうことなのか           | 1年生・21名          | H20.10.24               |
| 矢掛高等学校   | 保        | 萩准教授         | 学部学科分野理解のためのガイダンス              | 2年生・15名          | H20.11.13               |

## G. 高等学校からの訪問

| 月 日    | 高 等 学 校              | 訪 問 者 |    | 内 容                       |
|--------|----------------------|-------|----|---------------------------|
|        |                      | 学年    | 人数 |                           |
| 4月25日  | 邑久高等学校               | 2     | 53 | 学部概要説明, 施設見学, 講義見学        |
| 6月6日   | 邑久高等学校               | 3     | 10 | 学部概要説明, 施設見学, 講義見学        |
| 7月17日  | 落合高等学校<br>(看護科)      | 3     | 37 | 学科(看護)概要説明・体験講義(森教授・石村教授) |
| 9月24日  | 善通寺第一高等学校<br>(デザイン科) | 1     | 35 | 学部(デザイン)概要説明, 施設見学        |
| 10月28日 | 県立玉島高等学校             | 2     | 80 | 学部概要説明, 施設見学, 体験講義        |

## H. 学生・クラブの表彰

### H-1 学生の表彰

| 受賞者          |                  |                        | 受賞した賞                                                                                      |                                                                                           |
|--------------|------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 情報工学部        | 情報通信工学科          | 4年                     | 荻野 仁志<br>日本オペレーションズ・リサーチ学会<br>中国・四国支部支部長賞                                                  |                                                                                           |
|              |                  | 4年                     | 篠田 裕介<br>日本経営工学会中国四国支部支部長賞                                                                 |                                                                                           |
| 情報系工学<br>研究科 | 電子情報通信工学専攻       | 2年                     | 山本 淳弘<br>同上 優秀研究賞                                                                          |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 佐藤 歩美<br>同上 貢献賞                                                                            |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 池田 明史                                                                                      |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 大塚 康                                                                                       |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 加納 敬基                                                                                      |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 小松原基行                                                                                      |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 小宮山純弥                                                                                      |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 三宅 崇                                                                                       |                                                                                           |
|              |                  | 2年                     | 佐藤 彰洋<br>電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会<br>学生研究奨励賞                                              |                                                                                           |
|              |                  | 1年                     | 近藤 真史<br>電子情報通信学会中国支部 奨励賞                                                                  |                                                                                           |
|              | 機械情報システム工学<br>専攻 | 1年                     | 長澤 崇裕<br>応用物理学会中国四国支部学術講演会奨励賞                                                              |                                                                                           |
| 2年           |                  | 仮屋崎弘昭<br>仁科賞（岡山県教育委員会） |                                                                                            |                                                                                           |
| 情報工学部        | 情報システム工学科        | 4年                     | 松根祥太郎                                                                                      |                                                                                           |
| 情報系工学<br>研究科 | 機械情報システム工学<br>専攻 | 1年                     | 畔地 耕太<br>学生ケータイあわ〜ど2008<br>作品部門最優秀賞（プログラミングサークルCalc）                                       |                                                                                           |
|              | システム工学専攻         | 3年                     | 大崎 浩司                                                                                      |                                                                                           |
|              |                  | 2年                     | 長谷川 淳<br>情報処理学会関西支部 支部大会学生奨励賞                                                              |                                                                                           |
| デザイン学部       | デザイン工学科          | 2年                     | 秋山 舞衣<br>仁木 望<br>大月由香里<br>黒川 泰匡<br>添田 朱音<br>鍋島奈保子<br>第15回ワンデーエクササイズ<br>（社）日本建築学会中国支部岡山支所長賞 |                                                                                           |
|              |                  |                        | 3年                                                                                         | 姫野 美春<br>宮川 智日子<br>高島 倫子<br>宇川 諒<br>定方真貴子<br>木倉康智                                         |
|              |                  | 2年                     | 岩渕 遥<br>第2回学生デジタル作品コンテストデザイン入選                                                             |                                                                                           |
|              |                  | 3年                     | 田中 研一                                                                                      | 第21回コイズミ国際学生照明デザインコンペ 銀賞<br>防災グッズデザインコンペ2008 入選（2位）                                       |
|              |                  |                        |                                                                                            | EU-Japan Design Competition 2008<br>コルッチ特別賞（3位）<br>エコ・プロダクツデザインコンペ2008<br>企業賞（サラヤ（株））（4位） |
|              |                  |                        |                                                                                            | TOYOTIRES タイヤデザインコンテスト2008 特別賞                                                            |
|              |                  | 3年                     | 内村 克樹                                                                                      |                                                                                           |
|              | 造形デザイン学科         | 2年                     | 内田摩奈美<br>第2回メディアユニバーサルデザインコンペティション<br>佳作                                                   |                                                                                           |
|              |                  | 2年                     | 蓮池 千絵<br>講談社発デジタル新人賞<br>フラッシュアニメ部門金賞                                                       |                                                                                           |
|              |                  | 3年                     | 矢浦有理江<br>「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会<br>子育て王国そうじゃロゴデザインコンペ・最優秀賞<br>マヴィ・オリジナルワインラベルデザインコンペ・入選     |                                                                                           |
|              |                  | 3年                     | 蓮岡 匡浩                                                                                      | 絵を描く.comイラストコンペ・優秀賞                                                                       |
|              |                  |                        |                                                                                            | セントラル新人イラストレーションコンペ・入選                                                                    |
|              | ビジュアルデザイン<br>学科  | 4年                     | 早崎令衣美<br>BACA-JA（ブロードバンド・アート&コンテンツ・<br>アワードジャパン）2008ネットワークアート部門佳作                          |                                                                                           |
|              |                  | 4年                     | 今雪 るり<br>第21回ACC学生CMコンクール テレビCM部門・大賞                                                       |                                                                                           |
|              |                  | 4年                     | チーム銀シャリ<br>[今雪・小野・白<br>神・山下・一色]<br>デジタル岡山グランプリ奨励賞                                          |                                                                                           |

| 受賞者          |                 |    |       | 受賞した賞                                    |
|--------------|-----------------|----|-------|------------------------------------------|
| デザイン学部       | 工芸工業デザイン学科      | 4年 | 梶原 朋美 | 日本建築学科中国支部平成20年度優秀卒業設計作品表彰<br>優秀卒業設計作品   |
|              |                 | 4年 | 小山紗也加 | 岡山県建築士事務所協会<br>第4回卒業作品コンクール 最優秀賞         |
|              |                 | 4年 | 熊野 源  | 日本インテリア学会中国・四国支部<br>平成20年度卒業計画 中国・四国支部長賞 |
| デザイン学<br>研究科 | 工芸工業デザイン学<br>専攻 | 2年 | 松本奈緒子 | 国際陶磁器フェスティバル美濃'08 銅賞<br>2008伊丹国際クラフト展・入選 |
| 保健福祉学部       | 栄養学科            | 4年 | 中村 智也 | 総社市奨励賞                                   |
| 情報工学部        | 情報システム工学科       | 4年 | 難波 寛和 |                                          |
| デザイン学部       | ビジュアルデザイン<br>学科 | 4年 | 今雪 るり |                                          |

## H-2 クラブの表彰

| サークル名           | 大会名                        | 成績                  |
|-----------------|----------------------------|---------------------|
| 弓道部             | 春季県内リーグ（主管）                | 男子Ⅱ部リーグ団体優勝<br>個人優勝 |
| サッカー部（男子）       | 岡山県学生サッカーリーグ前期             | 2位                  |
|                 | 岡山県学生サッカーリーグ後期             | 2位                  |
| サッカー部（女子）       | 第2回おかやまビーチサッカーin渋川         | 優勝                  |
|                 | 第3回おかやまビーチサッカーin渋川         | 優勝                  |
| 水泳部（日高尊行）       | 第39回中国四国学生選手権水泳競技大会        | 100m背泳ぎ7位           |
| 水泳部（青木絵里香）      | 第39回中国四国学生選手権水泳競技大会        | 100m自由形5位           |
| バレーボール部（男子）     | 岡山県大学バレーボール選手権大会           | 3位                  |
| フットサルサークル       | 全日本大学フットサル大会2008<br>岡山予選大会 | 準優勝                 |
|                 | 学生大会男女ミックスinニッショク          | 優勝・3位（2チーム参加）       |
| マウンテンバイク部 サエラ   | 秋の中山. 3時間/5時間耐久レース         | チーム1位 ソロ8位          |
| プログラミングサークルCalc | 学生ケータイあわ〜ど2008             | 作品賞 最優秀             |

## I. 委員会等協議事項

### I-1 教育研究活動委員会

第1回（平成20年4月10日）

1. 学部教育カリキュラムに関する検討について
2. 大学における厳正な学位審査体制等の確立について
3. 学位規程について
4. 長期履修学生制度について
5. 全学講義について
6. 語学・文化研修について
7. その他



第2回（平成20年4月23日）

1. 岡山県立大学，又松大学校，四川大学との三者交流協定について

第3回（平成20年5月8日）

1. 大学における厳正な学位審査体制等の確立について
2. 学位規程について
3. 長期履修学生制度について
4. 全学講義について
5. その他

第4回（平成20年5月8日：持ち回り）

1. 2008年度中国語学・文化研修の募集中止について

第5回（平成20年6月12日）

1. 学部教育カリキュラムに関する検討について
2. 長期履修学生制度について
3. 岡山県立大学履修規程の一部改正について
4. 中国延辺大学との国際交流協定について
5. 平成20年度国際交流推進助成費申請について
6. 現代GP受講生への修了書発行について
7. 全学講義について
8. その他

第6回（平成20年7月10日）

1. 学部教育カリキュラムに関する検討について
2. 長期履修学生制度について
3. 岡山県立大学履修規程の一部改正について
4. 教育研究費（博士課程）新規研究開発のための配分について
5. 岡山県立大学における大学間交流協定の取扱いについて
6. 岡山県立大学保健福祉学部と中国東北師範大学教育科学院との交流協定，及び，岡山県立大学保健福祉学部と群馬大学校社会科学大学との学術交流に関する協定について
7. 平成20年度国際交流推進助成費申請について
8. 全学講義について
9. その他

第7回（平成20年7月22日）

1. 岡山県立大学履修規程の一部改正について

2. 転学について
3. トライアングル交流協定による共同研究・研究交流の申請について
4. 学部教育カリキュラムに関する検討について

第8回（平成20年9月11日）

1. 転学について
2. トライアングル交流協定による共同研究・研究交流に係わる助成について
3. 学部教育カリキュラムに関する検討について
4. 全学講義について
5. その他

第9回（平成20年10月8日）

1. 転学の今後の方針について
2. その他

第10回（平成20年10月16日）

1. 岡山県立大学学位規程の一部改正について
2. 転学に係る選考方法等について
3. 全学教育に関する調査について

第11回（平成20年11月6日）

1. 岡山県立大学学位規程の一部改正について
2. 平成21年度大学院開講に係るスケジュールについて
3. 全学教育に関する調査について

第12回（平成20年12月4日）

1. 平成21年度大学院教務日程及び履修方法について
2. 全学教育に関する調査について
3. その他

第13回（平成21年1月8日）

1. 大学院新入生オリエンテーション日程について
2. 平成21年度大学院授業開講計画について
3. 大学院修士課程及び博士前期課程学生の学部授業科目の履修について
4. 全学講義について
5. 平成21年度英語学研修について
6. 学位認定について
7. その他

第14回（平成21年2月5日）

1. 平成21年度臨時に設ける授業科目について
2. 平成21年度大学院履修方法について
3. 平成21年度大学院授業開講計画について
4. 岡山県立大学大学院新生オリエンテーション日程表について
5. 大学院研究科の専攻の増設について
6. 全学教育について
7. その他

第15回（平成21年3月13日）

1. 平成21年度大学院授業開講計画について
2. 岡山県立大学履修規程の一部改正について
3. 岡山県立大学大学院履修規程の一部改正について
4. 岡山県立大学附属図書館一般開放について
5. 学士力確保・教育力向上支援事業の創設について
6. 全学教育について
7. その他

**I-2 教務専門委員会**

第1回（平成20年6月12日）

協議事項

1. 平成21年度保健福祉学部看護学科授業開講計画（案）について
2. 平成20年度教務専門委員会年間開催計画（案）
3. 編入学等における修得単位の取扱いについて
4. 新教務システム導入スケジュール（案）について

報告事項

1. 第56回中国・四国地区大学教育研究会について

第2回（平成20年7月10日）

協議事項

1. 平成21年度授業開講計画（案）について
2. 平成21年度における全学教育科目開講計画の変更について

第3回（平成20年9月11日）

#### 協議事項

1. 平成 21 年度全学教育科目の授業開講計画（案）について
2. 平成 21 年度全学教育科目の時間割り（案）について
3. 平成 20 年度後期の教務スケジュールの周知について
4. 新教務システムでの成績登録・履修登録等の日程（案）について

#### その他

1. 平成 21 年度保健福祉学部保健福祉学科授業開講計画について

#### 第 4 回（平成 20 年 10 月 16 日）

##### 協議事項

1. 平成 21 年度学部教育科目の授業開講計画（案）について
2. 平成 21 年度学部教育科目時間割り編成について
3. 平成 21 年度教務・学生生活の日程（案）について
4. 4 年次生に係る年度末日程（案）について
5. 平成 21 年度履修案内について

#### 第 5 回（平成 20 年 11 月 6 日）

##### 協議事項

1. 平成 21 年度学部教育科目の時間割表（案）について
2. 履修案内の見直しについて
3. 平成 21 年度シラバスの作成について
4. 平成 21 年度「大学コンソーシアム岡山」について

#### 第 6 回（平成 20 年 12 月 4 日）

##### 協議事項

1. 平成 21 年度学部教育科目の時間割表について
2. 平成 21 年度に臨時に設ける授業科目について
3. 期末試験答案の保存について
4. GPA 制度による成績評価について
5. 平成 21 年度「大学コンソーシアム岡山」について

#### 第 7 回（平成 21 年 1 月 8 日）

##### 協議事項

1. 平成 21 年度全学教育科目の時間割表について
2. 平成 21 年度履修案内について
3. 平成 21 年度臨時開講科目について
4. フレッシュマン特別講義について

5. 新入生オリエンテーションについて

第8回（平成21年2月5日）

協議事項

1. 平成21年度全学教育授業科目の時間割表について
2. 平成21年度履修案内について
3. 平成21年度臨時開講科目について
4. 成績登録・履修登録等日程について

第9回（平成21年3月13日）

協議事項

1. 平成21年度授業時間割表について
2. 平成21年度履修案内について
3. 平成21年度フレッシュマン特別講義について
4. 平成21年度履修に係わるWeb登録手続きについて

I-3 全学教育研究機構教授会

第1回（平成20年5月29日）

1. 協議事項

- ① 平成19年度業務実績報告書
- ② 教育年報2007
- ③ 平成20年度検討項目について
- ④ その他

2. 報告事項

- ① 役員と構成員の変更について
- ② 各種委員会報告

第2回（平成20年7月31日）

1. 協議事項

- ① 平成21年度全学教育開講授業科目について
- ② 平成21年度全学教育授業時間割について
- ③ 教育研究活動委員会と全学教育担当教員との話し合いについて
- ④ その他

2. 報告事項

- ① 構成員の変更について
- ② 各種委員会報告
- ③ その他

第3回（平成20年9月25日）

1. 協議事項

- ① 情報工学部教員（全学教育研究機構兼務）の人事について
- ② 全学教育の今後のありかたについて
- ③ その他

2. 報告事項

- ① 各種委員会報告
- ② その他

第4回（平成20年12月18日）

1. 協議事項

- ① 平成21年度全学教育科目の設置について
- ② 全学教育の検討について
- ③ その他

2. 報告事項

- ① 各種委員会報告
- ② その他

第5回（平成21年2月27日）

1. 協議事項

- ① 議事録の確認について
- ② 非常勤講師の選任について
- ③ カテゴリー別担当者の選任について
- ④ 全学教育について
- ⑤ その他

## 編集後記

平成 19 年（2007）度を起点とする「中期目標・中期計画」は 2 年目を終え、また初年度の「年度計画」の実績は、岡山県に設置された評価委員会において高く評価され公開されているところですが、それはすべての教員が教育成果を深く認識しつつ、教育活動等に邁進した成果と言えましょう。

さて教育年報 2008 ですが、これは大きく 3 つの章で編成いたしました。第 1 章は「2008 年度の主な改革」、第 2 章は「FD 活動」、第 3 章は「外部評価」で構成されております。このうちの第 3 章の内容は、次年度の認証評価の資源としても役立つようにと、執筆担当の教員の方々には無理を承知で、各学部あるいは学科別に実施された外部評価の結果をコンパクトに纏めて頂くことをお願いした結果となっております。

執筆担当の教員の方々には、多忙中にもかかわらず、精力的に内容の充実化に向けて挑戦して頂けたことに、編集委員を代表して、厚く御礼申し上げます。さらに本年報を作成するに当たり、多くの事務職員の方々のご協力を頂きました。このことに関しても紙面を借りて、深謝申し上げます次第です。

内容的ならびに量的には、もちろん学部・学科ごとに濃淡があることは否定できませんが、昨年度に比して大きく飛躍した年報になったと考えております。

最後になりますが、編集委員一同、教員の方々には本年報で記述された内容を、是非、熟読玩味し、法人化元年から未来ある法人化を目指した本年度の成果をあらためて見直し、今後の教育活動や関連事業のあり方を再考する上での資料にされんことを、切にお願い申し上げます次第です。

（岡山県立大学評価委員会・教育年報編集担当 中嶋和夫）

発行 〒719-1197  
岡山県総社市窪木111番地  
岡山県立大学  
TEL 0866-94-2111  
URL <http://www.oka-pu.ac.jp>

編集 岡山県立大学評価委員会

印刷 株式会社プリント・ケイ